

LB パーティションを簡単操作! ワークス15

利用ガイド



LIFEBOAT
a megasoft company

『LB パーティションワークス 15』のプログラムと利用ガイドは、著作権法で保護された著作物であり、その全部あるいは一部を株式会社ライフボートの事前の明示的な許可なく複製したり、転送したり、格納したり、他のコンピュータ用に変換したり、あるいは他の言語に翻訳したりすると、著作権の侵害になります。

Microsoft、Windows は Microsoft Corporation の登録商標です。
その他の商標は、それぞれ該当する会社が所有する商標です。

注意

この利用ガイドに記載されている情報は、予告無しに変更されることがあります。

株式会社ライフボートは、本利用ガイドあるいはプログラムに記載されている内容に対していかなる誤りが含まれる場合にも、一切の保証を行いません。

EDITION

September 2015

Copyright © 2015 by Lifeboat, Inc.

All rights reserved.

Printed in Japan

PUBLISHED BY

株式会社ライフボート

東京都千代田区神田神保町 2-2-34

ホームページ: <http://www.lifeboat.jp/>

目次

第1章 LB パーティションワークス 15 の概要	6
1-1 LB パーティションワークス 15 の特長	6
1-2 動作環境	7
1-3 注意事項	8
第2章 インストールとアンインストール	10
2-1 インストール	10
2-2 アンインストール	15
第3章 起動メディアの作成と動作確認(必ず行ってください)	16
3-1 作成した起動メディアの動作確認	17
第4章 パーティション操作前の注意事項	22
4-1 エラーチェックの実行(必須)	22
4-2 バックアップの実行	34
4-3 操作中の注意	34
4-4 BIOS / UEFI のどちらかを採用しているか確認する	36
4-5 パーティションの構成を確認する	39
4-6 ドライブのデフラグ	42
第5章 LB パーティションワークス 15 を使用する	44
5-1 LB パーティションワークス 15 の起動方法	44
5-2 処理の実行	46
第6章 パーティション操作(よくある利用方法)	47
6-1 Cドライブを大きくしてDドライブを小さくする(自動)	47
6-2 Cドライブを大きくしてDドライブを小さくする(手動)	53
6-3 Cドライブを小さくして新たにDドライブを作成する	58
6-4 パーティション操作中に処理を中断してしまった場合	64

第7章 バックアップと復元	67
7-1 バックアップを実行する	67
7-2 バックアップイメージの整合性チェック	74
7-3 VD バックアップ(新しいバックアップ方式)	76
7-4 バックアップを復元する	82
第8章 ハードディスクのコピー	89
8-1 コピー操作を行う前に	89
8-2 コピー後の動作確認	94
8-3 コピーの実行	95
第9章 パーティションの管理	103
9-1 パーティションの作成	103
9-2 パーティションのフォーマット	105
9-3 パーティションのコピー	107
9-4 パーティションの削除/抹消	113
9-5 基本パーティションのサイズ変更/移動	115
9-6 拡張パーティションの移動/サイズ変更	118
9-7 パーティションのアクティブ/非アクティブ	121
9-8 パーティション ID の変更	123
9-9 パーティションタイプの変換	124
9-10 ファイルシステムの変換	126
9-11 ドライブ文字の割り当て/削除	128
9-12 パーティションの表示/非表示	130
9-13 クラスタサイズの変更	132
9-14 ボリュームラベルの変更	133
9-15 シリアル番号の変更	134
9-16 表面テスト	135
9-17 ファイルシステムの整合性チェック	136
9-18 パーティションの結合	137
9-19 削除パーティションの復元	142

第10章 ハードディスクの管理.....	146
10-1 ベーシックディスクへの変換	146
10-2 GPT→MBR、MBR→GPT ディスクへの変換.....	148
10-3 MBR の更新.....	150
10-4 基本スロットの変更.....	152
第11章 CD/USB から起動し操作する	153
11-1 Windows PE 版の起動メディアの特長、注意点	153
11-2 起動メディアでパーティション操作を実行する	154
11-3 サードパーティ製ドライバの追加方法.....	157
11-4 ネットワークドライブへのアクセス方法.....	159
第12章 その他の操作	163
12-1 ブートコレクタ.....	163
12-2 ログの取得方法	173

第1章 LB パーティションワークス 15 の概要

第1章 LB パーティションワークス 15 の概要

LB パーティションワークス 15 は、データを削除することなく PC のパーティションのサイズ変更や移動が行えます。PC の Cドライブの容量が不足している場合など、Cドライブを大きくして Dドライブを小さくすることで、容量不足を解消することができます。ほとんどの操作は、ウィザードに沿って簡単に実行することができます。

1-1 LB パーティションワークス 15 の特長

■多彩なパーティション操作

パーティションの作成、削除、サイズ変更、移動、コピー、結合など、多彩なパーティション操作が行えます。

■Windows 上でパーティションを操作

Windows 上で分かりやすく洗練された GUI を使ってパーティションを操作できます。操作後のイメージを確認しながら実行できるので安心です。

■Windows 10 に対応

Windows 10 (BIOS/UEFI) に対応しました。

■ウィザードによる簡単操作

難しい知識は必要ありません。分かりやすく親切なウィザードに沿って進むだけで、簡単にパーティション操作が行えます。もちろん、ウィザードを使用しない手動によるパーティション操作もサポートしています。

■ハードディスクのコピー

ハードディスクやパーティションのコピーも行えます。

■バックアップ機能

データ、アプリケーション、設定などを含め、Windows を丸ごと外付け HDD や DVD/BD、ネットワークドライブなどにバックアップできます。

■Windows PE 版の起動メディアを作成可能

Windows PE 版の起動メディア (CD/USB メモリ) をユーザーご自身で作成できます。メディアで起動した際も、Windows での操作と同様のわかりやすいインターフェースでパーティション操作を行えます。ユーザー自身でドライバの追加が行えるので、新しいハードウェアにもいち早く対応することができます。

■各種ドライブに対応

E-IDE/IDE、SCSI、シリアル ATA、SAS、USB、IEEE1394 に対応しています。また、2TB を超える大容量ハードディスク、RAID ボリューム、AFT や SSD のアライメントにも対応しています。

※ サポートするファイルシステムは、FAT16/32、NTFS です。

■操作の実行とキャンセル

ウィザードで設定した操作は、すぐに実行されずに一旦ジョブとして保留されます。複数の処理をためてから、まとめて実行することもできます。

■ファイルシステムやディスク形式の変換

FAT16 $\longleftrightarrow$ FAT32、FAT16/32 $\longleftrightarrow$ NTFS、基本パーティション $\longleftrightarrow$ 論理パーティション、ダイナミックディスク $\rightarrow$ ベーシックディスク (シンブルボリュームのみ)、MBR ディスク $\longleftrightarrow$ GPT ディスクの変換が行えます。

1-2 動作環境

対応 OS:	Windows 7/8/10(32 ビット、64 ビット)
対応機種:	上記 OS が正常に動作するパソコン (PC/AT 互換機)
対応 CPU:	1GHz 以上のインテル互換 CPU
メモリ:	1GB 以上
ハードディスクの 空き容量:	200MB 以上 (PE 版起動メディアの作成には、別途 5GB 以上)
ドライブ:	CD 起動で使用する場合には、起動可能な CD/DVD ドライブ
モニタ:	SVGA モニタ

第1章 LB パーティションワークス 15 の概要

1-3 注意事項

- 重要なデータは、必ず操作前にバックアップをお取りください。
- 操作前の注意事項を必ずご確認の上、操作を実行してください。
- ハードディスク自体に不良セクタや物理的な問題などがある場合は、正常にパーティション操作、コピーが行えません。
- Windows 系のサーバ OS には対応していません。
- ダイナミックディスクには対応していません。
- exFAT には未対応です。
- Windows が起動できなくなった場合、通常復元は Windows PE 版の起動メディア(CD/USB メモリ)を使って行います。起動できなくなった時に備えて、予め起動メディアを作成しておく必要があります。
- Windows PE 版の起動 CD を作成する場合は、WindowsADK をダウンロードするインターネット環境と書き込み用のメディア(CD-R)が必要です。
- CD/USB から起動して使用したり、大容量ハードディスクで使用するには BIOS/UEFI の対応が必要です。
- お使いのハードウェアによっては、CD/USB から起動して使用できない場合があります。
- GoBack (シマンテック社など)との併用はできません。
- ゲーム機、ハードディスクレコーダ、カーナビのハードディスクなどのコピーはサポート対象外です。
- 暗号化されたハードディスクではお使いいただけません。
- USB などの外付けハードディスクにコピーした場合、USB 接続の状態でコピー先ディスクから OS を起動することはできません。
- リムーバブル メディア(SD メモリーカード、USB メモリなど)のパーティション操作/コピー/バックアップはできません。
- コピー/復元したハードディスクをハード構成の異なる別の PC に接続して起動することはできません。
- コピー機能はローカルディスク間でのみ使用できます。他の PC のハードディスクやネットワークドライブにはコピーできません。
- バックアップ先として、DVD-RAM を使用することはできません。
- Windows 8/10 では、デスクトップアプリとして動作します。
- リカバリー領域に関しては、PC メーカーや型番によって動作仕様が異なるため、復元/コピー先で使用できなくなる可能性があります。

【Windows PE 版の起動メディア (CD/USB メモリ)に関する注意事項】

- Windows PE 版の起動メディアは、お客様ご自身で作成して頂く必要があります。CD に作成する場合は、マイクロソフト社より提供される WADK (Windows アセスメント&デプロイメントキット)などをインストールする必要があります。
- 起動メディアの作成には、ハードディスクに 5GB 以上の空き容量が必要です。空き容量不足などが原因で、起動メディアが作成できない場合は、他の PC で作成するか、または弊社のサポートセンターへご相談ください。

第2章 インストールとアンインストール

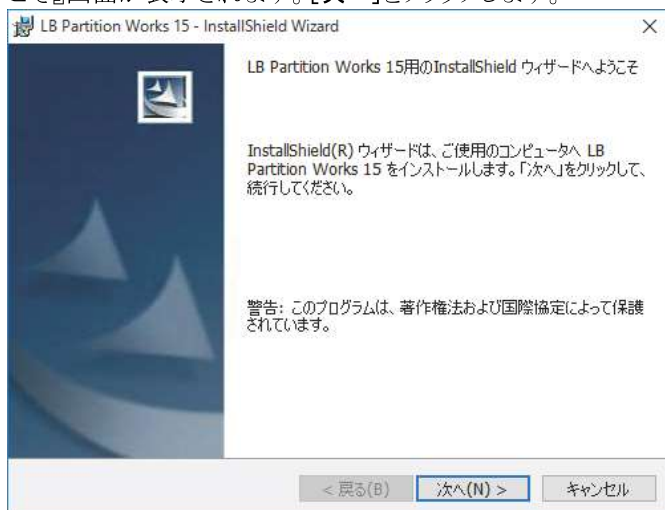
第2章 インストールとアンインストール

2-1 インストール

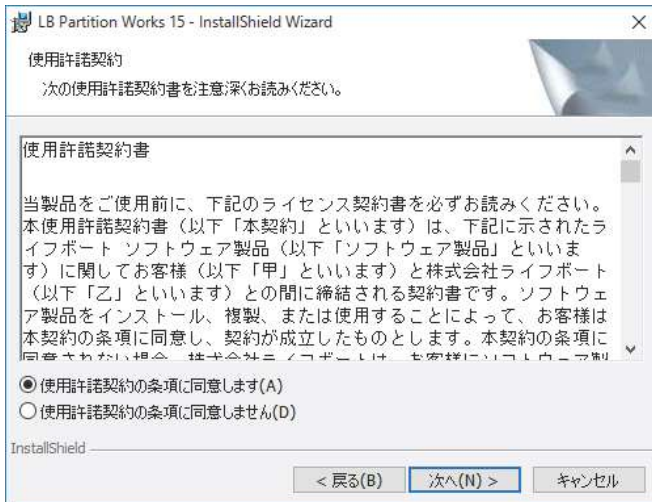
- (1) 以下の URL から、LB パーティションワークス 15 SP1 をダウンロードし、実行してください。86 ビット版、64 ビット版でプログラムが異なりますのでご注意ください。

http://www.lifeboat.jp/support/update/pw15_sp1.html

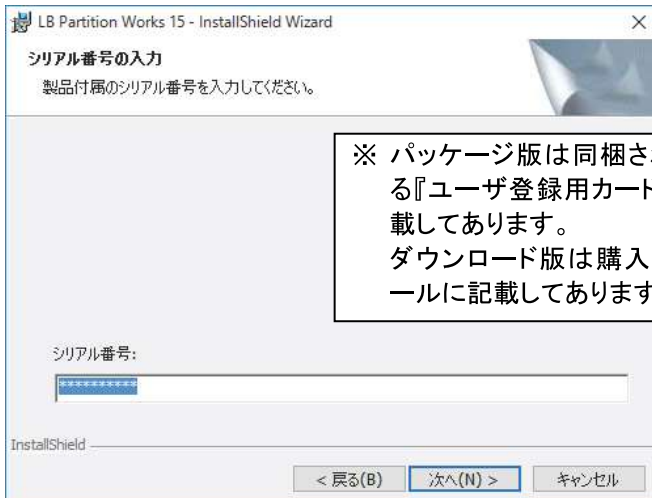
- (2) 『LB パーティションワークス 15 用の InstallShield ウィザードへようこそ』画面が表示されます。[次へ]をクリックします。



- (3) 『使用許諾契約』画面が表示されます。内容を確認の上、[使用許諾契約の条項に同意します]を選択して、[次へ]をクリックします。



- (4) 『シリアル番号の入力』画面が表示されます。シリアル番号を半角大文字で入力して、[次へ]をクリックします。



※ パッケージ版は同梱されている『ユーザ登録用カード』に記載してあります。
ダウンロード版は購入時のメールに記載してあります。

第2章 インストールとアンインストール

- (5) 『**ユーザ情報**』画面が表示されます。ユーザ名などを入力して、[次へ]をクリックします。

The screenshot shows the 'LB Partition Works 15 - InstallShield Wizard' window. The title bar includes the application icon and the text 'LB Partition Works 15 - InstallShield Wizard'. The window has a close button (X) in the top right corner. The main content area is titled 'ユーザ情報' (User Information) with the instruction '情報を入力してください。' (Please enter information.). Below this, there are two input fields: 'ユーザ名(U):' (User Name) containing 'lbtest@outlook.jp' and '所属(O):' (Organization). Underneath the fields, a message states 'このアプリケーションを次のユーザに対してインストールします:' (Install this application for the following user:), followed by two radio button options: 'このコンピュータを使用するすべてのユーザ(A)' (All users of this computer) which is selected, and 'lbtest@outlook.jp のみ(M)' (Only lbtest@outlook.jp). At the bottom left, the 'InstallShield' logo is visible. At the bottom right, there are three buttons: '< 戻る(B)' (Back), '次へ(N) >' (Next), and 'キャンセル' (Cancel). The '次へ(N) >' button is highlighted with a blue border.

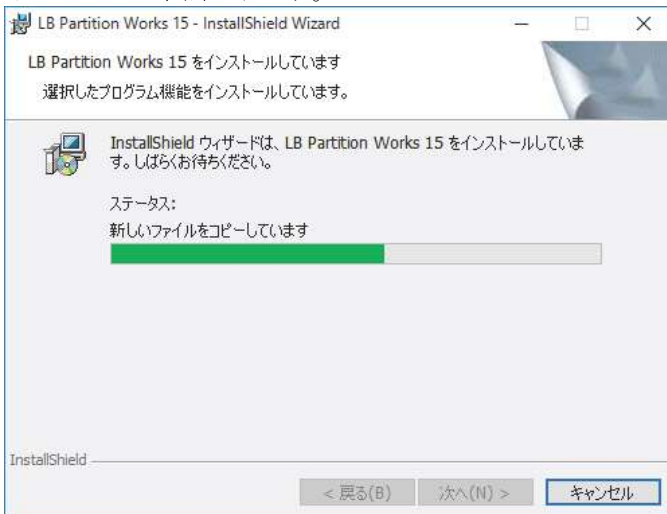
- (6) 『**インストール先のフォルダ**』画面が表示されます。変更を行う必要がない場合には、[次へ]をクリックします。

The screenshot shows the 'LB Partition Works 15 - InstallShield Wizard' window. The title bar includes the application icon and the text 'LB Partition Works 15 - InstallShield Wizard'. The window has a close button (X) in the top right corner. The main content area is titled 'インストール先のフォルダ' (Install Location) with the instruction 'このフォルダにインストールする場合は、「次へ」をクリックしてください。別のフォルダにインストールする場合は、「変更」をクリックします。' (If you want to install in this folder, click 'Next'. If you want to install in a different folder, click 'Change'). Below this, there is a folder icon and the text 'LB Partition Works 15 のインストール先:' (Install location for LB Partition Works 15:) followed by the path 'C:\Program Files\LB\Partition Works 15\'. To the right of the path is a button labeled '変更(C)...' (Change...). At the bottom left, the 'InstallShield' logo is visible. At the bottom right, there are three buttons: '< 戻る(B)' (Back), '次へ(N) >' (Next), and 'キャンセル' (Cancel). The '次へ(N) >' button is highlighted with a blue border.

- (7) [インストール]をクリックして、インストールを実行します。



- (8) インストールが開始されます。

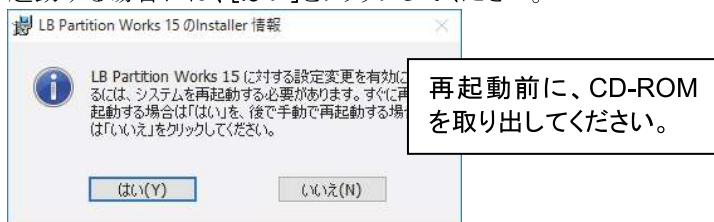


第2章 インストールとアンインストール

- (9) インストールの完了画面が表示されます。[完了]をクリックしてください。



- (10) インストールが完了すると、以下の画面が表示されます。このまま再起動する場合には、[はい]をクリックしてください。



これでインストールは完了です。続けて「第3章 起動メディアの作成と動作確認」を参照し、起動メディアの作成を行ってください。

- ※ **Windows PE 版の起動メディアの作成は、必ず行なってください。** 本製品の機能で OS を含むパーティションのバックアップイメージを復元する場合、起動メディアで作業を行う必要があります。また、予期せずパーティション操作が中断された際にも、起動メディアが必要な場合があります。予め起動メディアを作成し、作成したメディアで起動することができるか、ご確認ください。

2-2 アンインストール

LB パーティションワークス 15 をアンインストールする手順は、以下のようになります。

- (1) [スタート]メニューから[コントロールパネル]を選択して、[プログラムのアンインストール]を選択します。Windows 8/10 の場合は、スタート画面で右クリックし、[すべてのアプリ]-[コントロールパネル]-[プログラムのアンインストール]を開きます。
- (2) [LB Partition Works 15]を選択し、[アンインストール]をクリックします。



- (3) 確認画面が表示されるので、[はい]をクリックします。
- (4) アンインストールが終了したら、[はい]をクリックして、PCを再起動します。

第3章 起動メディアの作成と動作確認(必ず行ってください)

第3章 起動メディアの作成と動作確認(必ず行ってください)

この章では、Windows PE 版の起動メディアを使用した動作確認手順をご案内いたします。Windows PE 版の起動メディアは、別紙の『Windows PE 版起動メディアの作成方法』をご覧の上、作成してください。

【ガイドの参照方法】

製品を起動して、[ホーム]-[リカバリーメディアビルダーヘルプ]から参照することができます。

以下のサイトでも公開しています。

http://support.lifeboat.jp/docs/rmb/RMB_guide.pdf

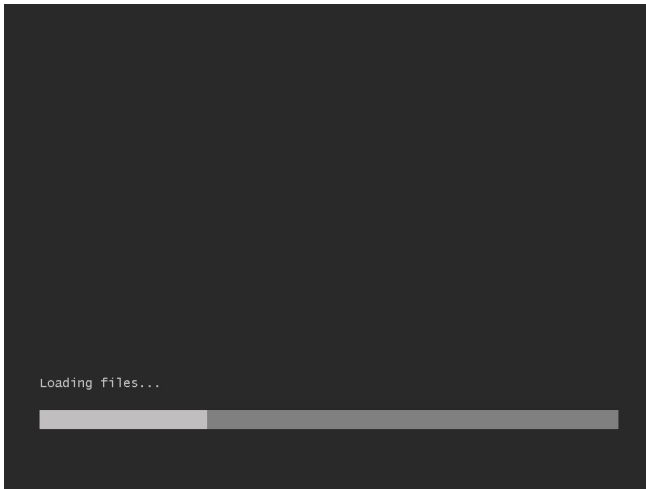
- ※ パーティション操作で予期しない問題が発生した場合や、バックアップイメージの復元に当たって、Windows PE 版の起動メディアの作成は、必須の作業です。Windows が起動できなくなったの時の操作や復元は CD/USB 起動で行う必要があるためです。予め Windows PE 版の起動メディアを作成し、作成したメディアからコンピュータを起動することができるか、ご確認ください。
- ※ 起動メディアの作成方法については別紙の『Windows PE 版 起動メディア作成ガイド』をご参照ください。

3-1 作成した起動メディアの動作確認

- (1) Windows PE 版の起動メディア(CD/USB メモリ)を PC にセットして PC を再起動します。メディアからブートされ、以下の画面が表示されます。表示されずに OS が起動してしまう場合には、PC メーカー独自のブートメニューが用意されていないか、または BIOS の設定を確認してください。

※ 起動メディアの作成方法については別紙の『Windows PE 版 起動メディア作成ガイド』をご参照ください。

- ※ CD/USB から起動する際の画面はご利用の環境によって異なり、起動に時間がかかることがあります。以下は CD 起動中の画面の例ですが、起動中に PC メーカー固有のロゴが表示される機種もあります。



CD/USB メモリから起動できない場合

電源投入時のメーカーロゴ画面で特定キーを押して「起動(ブート)メニュー」画面を出し、CD/USB 起動を指定しないと起動できない PC メーカーもあります。(例:DELL、富士通、東芝は「F12」キーで「起動メニュー」を出します)

Boot Menu

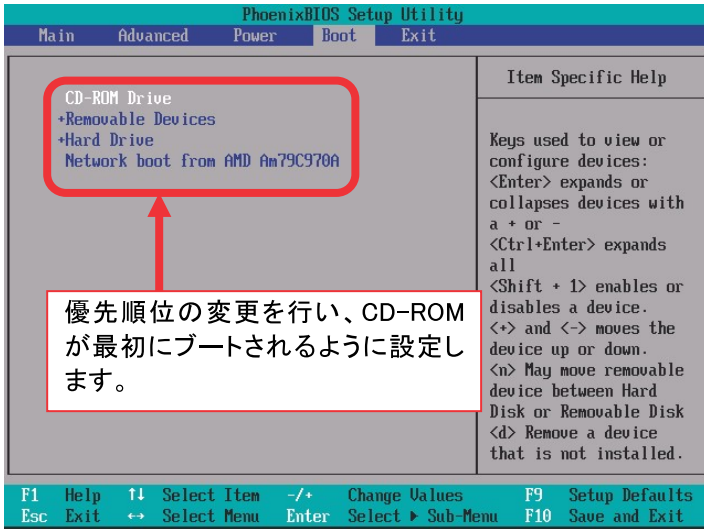
```
=====
*   Removable Devices
*   Hard Drive
*   CD/DVD Drive
*   UEFI:CD/DVD Drive
```

起動メニューからメディア起動を行う際は、Windows を起動させてから再起動するなど、予め、CD/USB をセットした状態で起動メニューを表示させてください。

PC によっては、起動メニューに、通常の CD ドライブだけでなく、**[UEFI (CD ドライブ名)]**の項目が表示されるものがあります。その場合は、GPT ディスクなら UEFI…を、MBR ディスクなら通常の CD ドライブを選択してください。GPT ディスクかを確認する手順は、**[4-4 BIOS /UEFI のどちらを採用しているか確認する]**を参照してください。

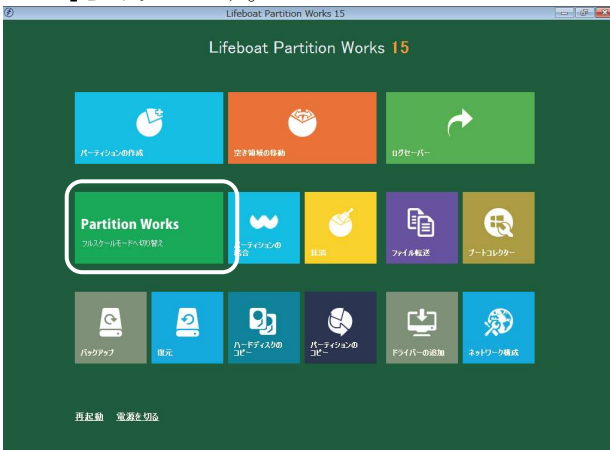
※ メーカーロゴ画面で特定のキーを押すと起動できる機種や、BIOS でシステムを読み込むデバイスの優先順位を変更しなければならない機種もあります。CD/USB 起動のサポートの有無、メディア起動指定キー、BIOS の設定方法などは、パソコンのマニュアルを参照するか、製造元にご確認ください。

(BIOS の設定画面例)



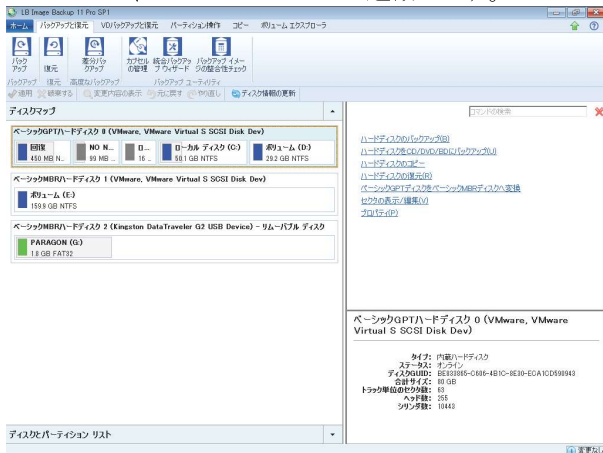
※ あくまで一例です。ご使用の PC によって画面、起動方法、操作方法が異なります。BIOS 画面の設定方法についてはご使用の PC のマニュアルを確認するか、PC のメーカーにお問合せください。

- (2) メニュー画面が表示され、操作可能な状態になります。[Partition Works]をクリックします。

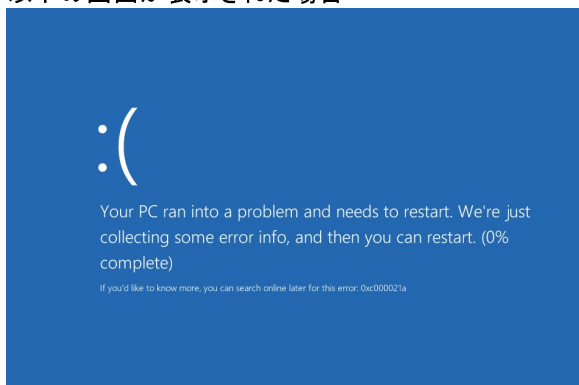


第3章 起動メディアの作成と動作確認(必ず行ってください)

(3) LB パーティションワークス 15 が起動します。



※ 以下の画面が表示された場合



このメッセージは、起動メディアを日本語ユーザーアカウントの環境で作成した時に発生するエラーです。半角英数字のアカウントで作成しておしてください。

※ 『ディスクが見つかりません』と表示された場合



このメッセージは、主に SCSI、RAID、最新のチップセットなどが搭載されている機種で、ご利用のハードディスク コントローラが、Windows PE に標準で組み込まれているドライバで対応できない場合に表示されます。ディスクを認識させるには、ご利用の環境に対応したドライバを読み込ませる必要があります。手順については、利用ガイドの「サードパーティ製ドライバの追加方法」を参照してください。

- ※ 起動メディアを作成する際に、予めご利用の環境に対応したドライバを追加して作成すると、このメッセージは表示されず、ディスクが認識されるようになります。ドライバを追加したメディアを作成する手順については、「4.アドバンスドモード」を参照してください。

第4章 パーティション操作前の注意事項

第4章 パーティション操作前の注意事項

パーティション操作をする際には、いくつか注意すべき点があります。これらの点は必ず守ってください。

4-1 エラーチェックの実行(必須)

ハードディスクに不良セクタなど物理的な問題が存在すると、パーティション操作時にエラーが発生して、ドライブにアクセス出来なくなるなどの状態に陥る可能性があります。パーティション操作を行う前には、ハードディスクのエラーチェックを実行して、あらかじめハードディスクの問題を解消してください。エラーチェックは次の手順で行うことができます。

※ ハードディスクに不良セクタなどの問題が存在すると、正常にバックアップ/コピー/パーティション操作ができません。操作を実行する前に、必ずドライブのエラーチェックを実行してください。

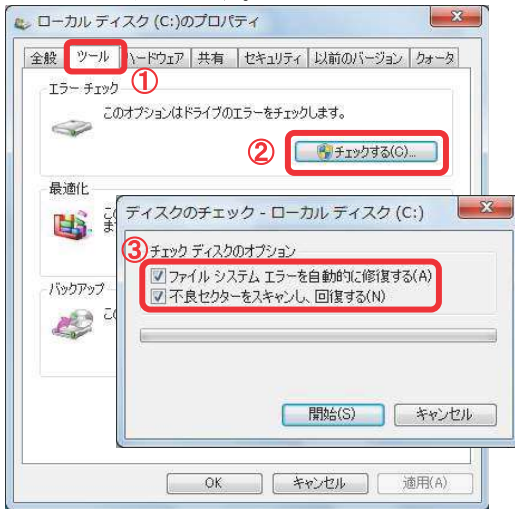
【Windows 7 での操作方法】

(1) [コンピュータ]を開き、操作対象となるドライブを右クリックし、メニューから[プロパティ]を選択します。

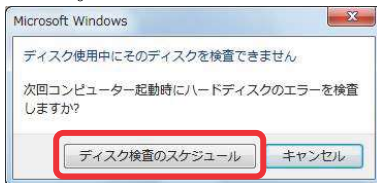


- (2) [ツール]タブを選択し、[チェックする]ボタンをクリックします。

初めてエラーチェックを行う場合は、表示されたオプション画面で二つのチェックボックスを両方とも有効にして、[開始]ボタンをクリックします。何回かエラーチェックを行っている場合は、「ファイル システムエラーを自動的に修復する」チェックボックスのみ有効にして、[開始]ボタンをクリックします。

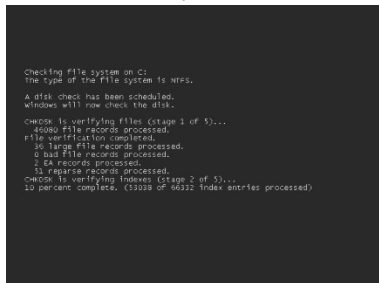


対象ドライブが使用中の場合には、次の画面が表示されます。[ディスク検査のスケジュール]をクリックして、コンピュータを再起動してください。

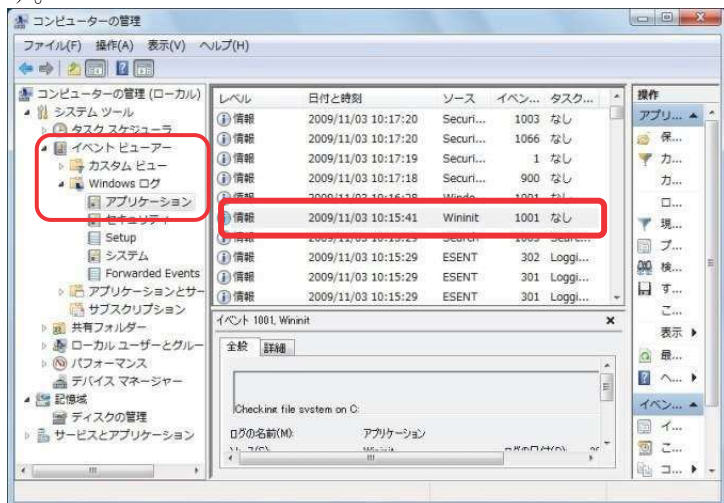


第4章 パーティション操作前の注意事項

Windows 起動時に次の画面が表示され、ドライブのエラーチェックが実行されます。完了すると自動的に再起動します。



- (3) エラーチェックの結果は、イベント ビューアのアプリケーション ログに記録されます。Windows が起動したら、[コンピュータ]を右クリックして、[管理]を選択してください。[コンピュータの管理]画面が表示されるので、[イベント ビューア]-[Windows ログ]-[アプリケーション]を選択します。右側にログの一覧が表示されるので、ソース欄に[Wininit]と表示されている最新のログをダブルクリックして表示させます。



※ 日付を確認し、直前に実行されたログであることを確認してください。

(4) イベントの説明欄で「不良セクタ」(bad sector)に数値があるときはバックアップ/コピー/パーティション操作ができません。「0 KB in bad sectors」と表示されていることを確認します。次に、ファイルシステム関連の問題「Cleaning up ** unused ...」の**数を確認します。数が多い時は「ファイル システムエラーを自動的に修復する」のみにチェックして「Cleaning up **」の表示がなくなるか、少なくとも**の数値が1桁台になるまで)エラーチェックを何回か繰り返してください。



- ※ 操作対象のすべてのドライブで実行してください。
- ※ 不良セクタがあるハードディスクの場合には、処理が正しく行われませんので、パーティション操作は行わないでください。

(表示例)

Checking file system on c:

... (中略)

Cleaning up 7 unused index...

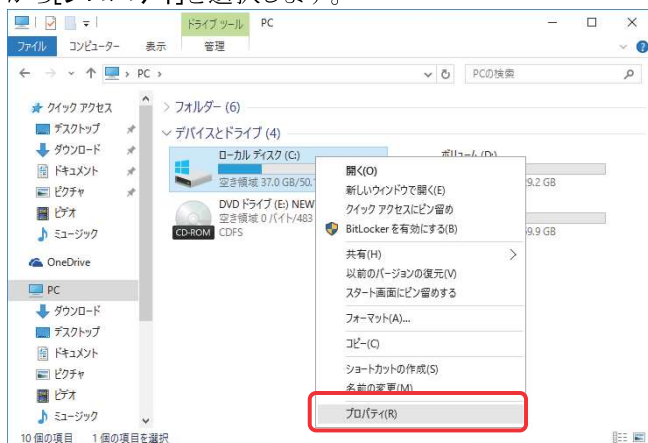
**** KB total disk space. (中略)

0 KB in bad sectors (以下略)

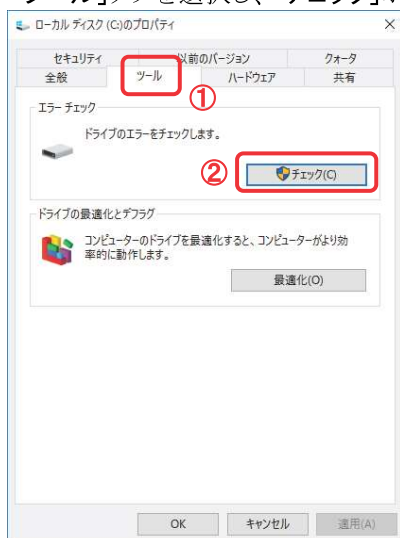
第4章 パーティション操作前の注意事項

【Windows 8/10 での操作方法】

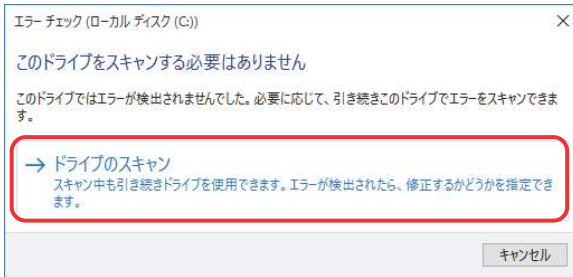
- (1) [コンピュータ]を開き、操作対象となるドライブを右クリックし、メニューから[プロパティ]を選択します。



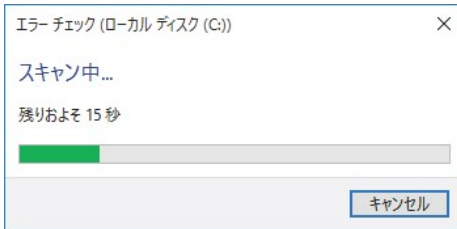
- (2) 「ツール」タブを選択し、「チェック」ボタンをクリックします。



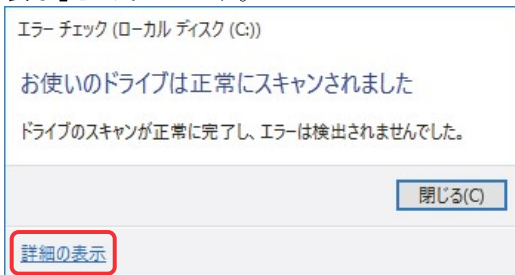
- (3) ドライブに問題が無い場合は、以下の画面が表示されます。「**ドライブのスキャン**」をクリックして状態を確認します。



ドライブのエラーチェックが実行されます。

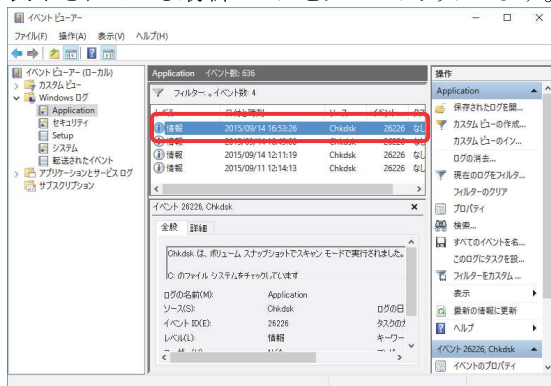


- (4) 正常にスキャンが完了すると、以下の画面が表示されます。「**詳細の表示**」をクリックします。



第4章 パーティション操作前の注意事項

- (5)「イベントビューアー」の画面が表示されます。ソース欄に[Chkdsk]と表示されている最新のログをダブルクリックします。



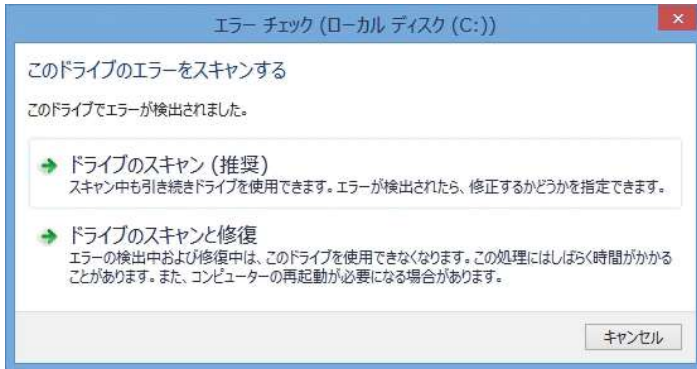
イベントの説明欄で「不良セクター」に数値があるときは処理が正しく行われませんので、パーティション操作は行わないでください。「不良セクター」の表示が「0 KB」になっていることを確認します。



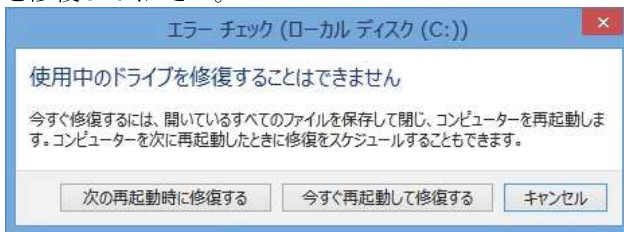
※ 日付を確認し、直前に実行されたログであることを確認してください。

※ 「不良セクター」の表記がない場合、【Windows 8/10 確実なエラーチェック】手順を実行し確認されることをお勧めします。

※ エラーチェックの開始画面でエラーが検出された場合



この画面が表示された場合、「ドライブのスキャンと修復」をクリックし、エラーを修復してください。なお、C ドライブに対して実行する場合は以下の画面が表示されます。この場合は「次の再起動時に修復する」または「今すぐ再起動して修復する」のいずれかを選択し、エラーを修復してください。



※ 操作対象のすべてのドライブで実行してください。

※ 不良セクタが無いのに操作に失敗する場合、【Windows 8/10 確実なエラーチェック】の手順を実行しご確認ください。

第4章 パーティション操作前の注意事項

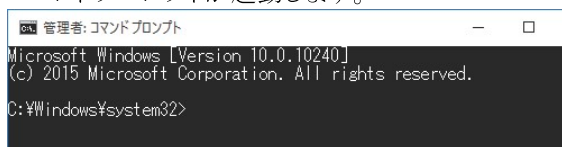
【Windows 8/10 確実なエラーチェック】

下記の手順で、ハードディスクのチェックと修復をより確実に行えます。

- (1) 「コマンドプロンプト」を管理者権限で実行します。スタートボタンを右クリック[コマンドプロンプト(管理者)]をクリックします。



- (2) コマンドプロンプトが起動します。



- (3) 以下のコマンドを半角英数字で入力し、「Enter」してください。

＜ファイルシステムのチェック/修復＞

CHKDSK C: /F

CHKDSK (スペース) 実行したいドライブ: (スペース) /F

＜ファイルシステムのチェック/修復、不良セクタチェック＞

※時間がかかります

CHKDSK C: /R

CHKDSK (スペース) 実行したいドライブ: (スペース) /R

```
C:\Windows\system32>chkdsk c: /r
```

LB パーティションワークス 15 利用ガイド

- (4) 以下のメッセージが表示された場合は「N」を入力し、「Enter」してください。

ボリュームが別のプロセスによって使用されているため、Chkdsk
を実行できません。Chkdsk を実行するにはこのボリュームのマウントを解除する必要
があります。
そのときは、このボリュームへのすべての開かれたハンドルは無効になります。
このボリュームを強制的にマウントを解除しますか? (Y/N) **n**

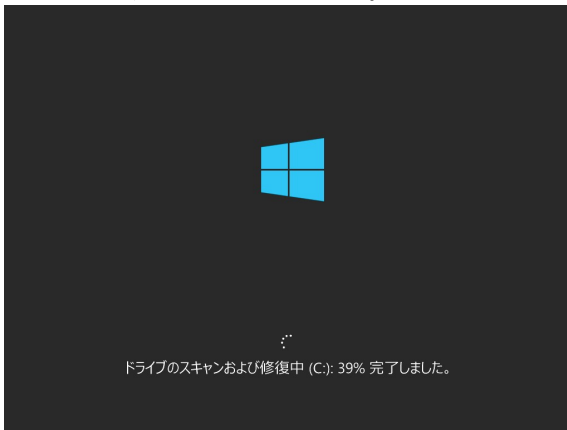
以下のメッセージが表示されます。「Y」を入力し、「Enter」してください。

ボリュームが別のプロセスで使用されているため、CHKDSK を
実行できません。次回のシステム再起動時に、このボリュームの
チェックをスケジュールしますか (Y/N)? **y**

- (5) 「次回のシステム再起動時に、このボリュームはチェックされます。」
と表示されますので、コマンドプロンプトを「×」で閉じて、パソコンを
手動で再起動してください。

次回のシステム再起動時に、このボリュームはチェックされます。
C:\Windows\system32>_

- (6) 再起動時に、エラーチェックが実行されます。以下の画面のように
進行状況が「%」で表示され、100%完了すると、Windows が自動
で起動しますのでお待ちください。

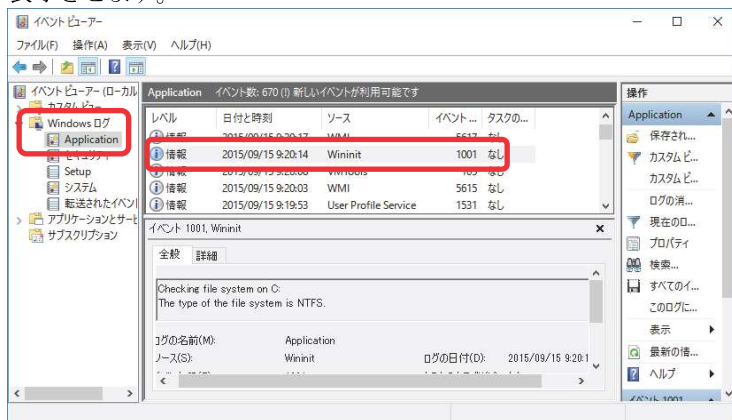


第4章 パーティション操作前の注意事項

- (5) Windows が起動したら、エラーチェックの結果を確認します。[スタート]ボタンを右クリックして、[イベントビューアー]を選択してください。



- (6) [イベント ビューアー] 画面が表示されるので、[Windows ログ]-[Application]を選択します。右側にログの一覧が表示されるので、ソース欄に[Wininit]と表示されている最新のログをダブルクリックして表示させます。



- ※ 表示に時間がかかることがあります。
※ 日付を確認し、直前に実行されたログであることを確認してください。

- (7) イベントの説明欄で「不良セクタ」(bad sector)に数値があるときはバックアップ/コピー/パーティション操作ができません。「0 KB in bad sectors」と表示されていることを確認します。次に、ファイルシステム関連の問題「Cleaning up ** unused ...」の**数を確認します。数が多い時は「ファイル システムエラーを自動的に修復する」のみにチェックして「Cleaning up **」の表示がなくなるか、少なくとも**の数値が1桁台になるまで)エラーチェックを何回か繰り返してください。



- ※ 操作対象のすべてのドライブで実行してください。
- ※ 不良セクタがあるハードディスクの場合には、処理が正しく行われませんので、パーティション操作は行わないでください。

(表示例)

Checking file system on c:

... (中略)

Cleaning up 7 unused index...

**** KB total disk space. (中略)

0 KB in bad sectors (以下略)

第4章 パーティション操作前の注意事項

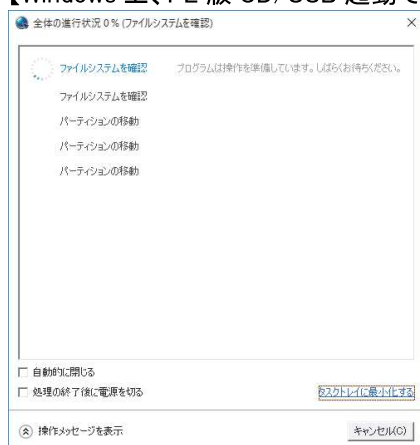
4-2 バックアップの実行

LB パーティションワークス 15 は、ハードディスク上のデータ領域やシステムの起動情報を、直接変更できるツールです。パーティション操作中の電源トラブルに対しても復旧するための安全対策が施されています。ただし、すべてのトラブルに対応できるわけではありません。使用中の何らかのトラブル(お客様の操作ミスを含む)によって OS が起動しなくなったり、データが消失してしまう可能性もあります。特にデータ(お客様自身で作成されたファイル)は復旧することができないので、必ずバックアップを行ってください。バックアップは外付けハードディスク、DVD、Blu-ray などの外部メディアに保存して頂くことをお勧めします。本製品のバックアップ機能を使用される場合は、[第7章 バックアップと復元]を参照してください。

4-3 操作中の注意

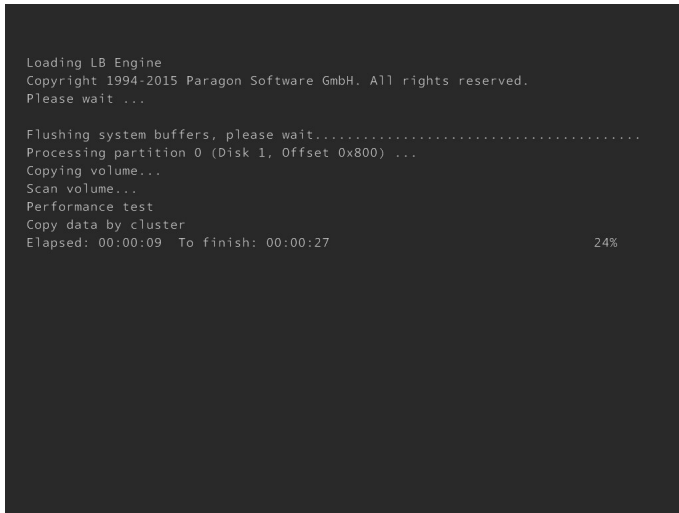
パーティション操作の処理中に画面が停止(フリーズ)したように見えますが、内部的な処理は行われています。操作中に電源を切るとデータを消失してしまう可能性があるので、電源は切らないでください。また、[キャンセル]ボタンも処理を強制的に中断することになるので、クリックしないことをお勧めいたします。やむをえず電源を切る場合には、ハードディスクのアクセスランプが消灯しているか、「点滅していない」ことを確認のうえ電源を切るようにしてください。

【Windows 上、PE 版 CD/USB 起動でパーティション操作中の画面】



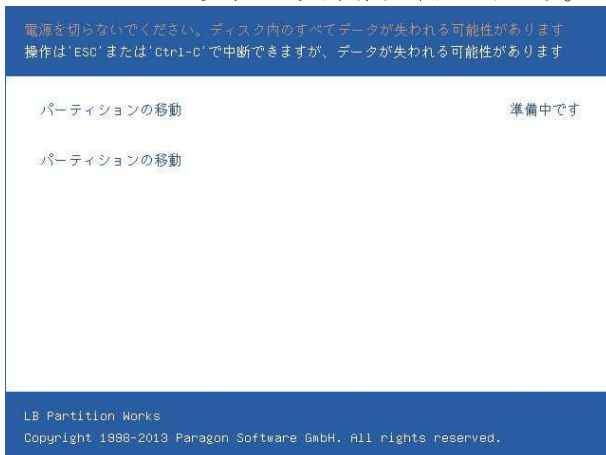
【再起動時に操作が行われている時の画面】

以下は Windows 10 での例です。



※ 処理中の画面はご利用の環境によって異なります。PC メーカー固有のロゴ画面が表示される機種もあります。

Windows 7 では以下のような画面が表示されます。



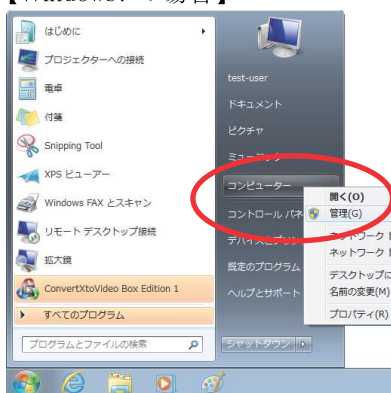
第4章 パーティション操作前の注意事項

4-4 BIOS / UEFI のどちらかを採用しているか確認する

OS がインストールされたハードディスクに対して操作を行う際、ご利用の PC が BIOS / UEFI のどちらを採用しているかによって、手順が異なる場合があります。従来の BIOS を採用している場合、Windows がインストールされているディスクは MBR ディスクになります。UEFI を採用している場合、Windows がインストールされているディスクは GPT ディスクになります。ご利用の PC がどちらの形式なのか、事前に以下の手順で確認してください。

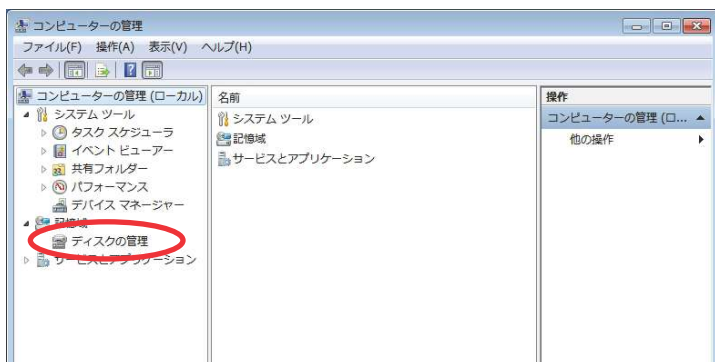
(1) ディスクの管理画面を表示します。

【Windows7 の場合】



[スタート]-[コンピュータ]アイコンを右クリックし、[管理]を選択します。

[コンピュータの管理]画面が表示されたら、左側のメニュー[ディスクの管理]をクリックします。

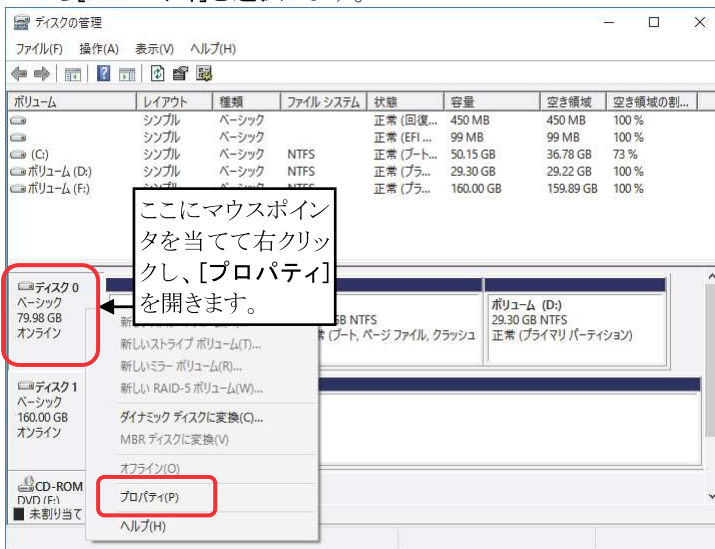


【Windows 8/10 の場合】



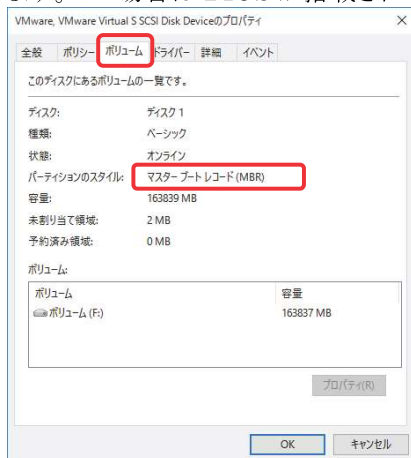
[スタート]を右クリック[ディスクの管理]を選択します。

- (2) 「ディスクの管理」画面が開きます。Windows がインストールされたハードディスクにマウスポインタをあてて右クリックし、表示されたメニューから[プロパティ]を選択します。

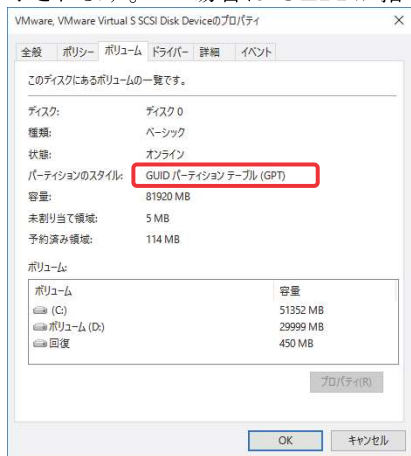


第4章 パーティション操作前の注意事項

- (3) [ボリューム]タブを開き、[パーティションのスタイル]を確認します。
MBR ディスクの場合、[マスター ブート レコード(MBR)]と表示されます。この場合は BIOS が搭載されています。



GPT ディスクの場合、[GUID パーティション テーブル(GPT)]と表示されます。この場合は UEFI が搭載されています。



これで確認作業は完了です。

- ※ PCによっては、BIOSとUEFIを切り替えられるものや、自動で切り替わるものもあります。詳細はPCのメーカーにご確認ください。

4-5 パーティションの構成を確認する

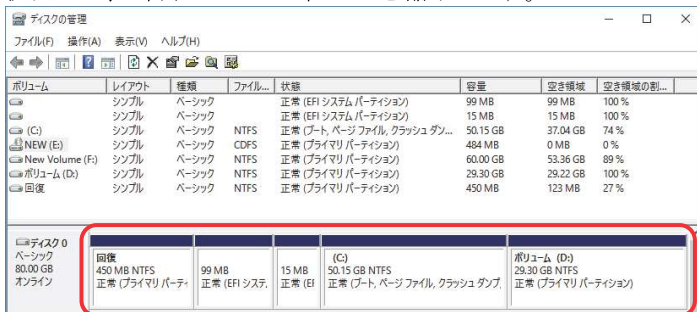
パーティション操作を行う前に、まずどのパーティションを操作するのか、Windows 上で確認します。

1. 操作対象のパーティションの位置を確認する

本製品では Windows 上または PE 版 CD/USB メディア起動でパーティション操作が行えますが、メディアから起動時はドライブ文字(C: など)が Windows 上とは異なる場合がほとんどです。予め、操作したいパーティションの位置を確認してください。

① 『4-4』の手順をご参考に、[ディスクの管理]画面を開きます。

② 拡大したいパーティションの位置を確認します。C ドライブを拡大して D ドライブを縮小する場合、以下の例では、4 番目のパーティションを拡大して、5 番目のパーティションを縮小します。



ボリューム	レイアウト	種類	ファイル...	状態	容量	空き領域	空き領域の割合...
	シングル	パーティション		正常 (EFI システム パーティション)	99 MB	99 MB	100 %
	シングル	パーティション		正常 (EFI システム パーティション)	15 MB	15 MB	100 %
(C:)	シングル	パーティション	NTFS	正常 (ブート、ページファイル、クラッシュダンプ...)	50.15 GB	37.04 GB	74 %
NEW (E:)	シングル	パーティション	CDFS	正常 (プライマリ パーティション)	484 MB	0 MB	0 %
New Volume (F:)	シングル	パーティション	NTFS	正常 (プライマリ パーティション)	60.00 GB	53.36 GB	89 %
ボリューム (D:)	シングル	パーティション	NTFS	正常 (プライマリ パーティション)	29.30 GB	29.22 GB	100 %
回復	シングル	パーティション	NTFS	正常 (プライマリ パーティション)	450 MB	123 MB	27 %

ディスク 0	回復				ボリューム (D:)
450 MB NTFS	99 MB	15 MB	(C:)	50.15 GB NTFS	29.30 GB NTFS
正常 (プライマリ パーティション)	正常 (EFI システム)	正常 (EFI システム)	正常 (ブート、ページファイル、クラッシュダンプ...)	正常 (プライマリ パーティション)	正常 (プライマリ パーティション)

※ Windows 上でのドライブ文字(C:など)を基準に CD/USB 起動でパーティション操作を行うと、希望とは違うパーティションが拡大・縮小されてしまう恐れがあります。必ず操作したいパーティションの位置、容量を確認するようにしてください。

第4章 パーティション操作前の注意事項

II. 特定の役割を持ったパーティションが無いか確認する

Windows 7以降の Windows は、複数のパーティションにまたがってインストールされます。また、PC を初期化するためのリカバリ用のパーティションがハードディスクに存在する機種もあります。このようなパーティションを削除してしまうと、Windows が起動できなくなったり、リカバリが行えなくなってしまうので、ご注意ください。こういったパーティションの変更や削除は行わないことをお勧めします。

詳細は[ディスクの管理]や LB パーティションワークス 15 のメイン画面などで確認できます。

MBR ディスクの場合(ディスクの管理の画面)

【Windows 7 の例】

システムで予約済み 100 MB NTFS 正常 (システム, アク	(C:) 50.83 GB NTFS 正常 (ブート, ページ ファイル, クラッシュ ダンプ	ボリューム (E:) 29.07 GB NTFS 正常 (プライマリ パーティション)
--	--	--

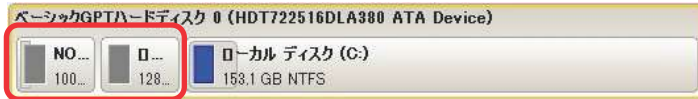
【Windows 8 の例】

システムで予約済み 350 MB NTFS 正常 (システム, アク	(C:) 74.16 GB NTFS 正常 (ブート, ページ ファイル, クラッシュ ダ	ボリューム (D:) 78.88 GB NTFS 正常 (プライマリ パーティション)
--	--	--

先頭の「システムで予約済み」というパーティションは、Windows の起動用のシステムパーティションになります。このパーティションを削除すると、Windows が起動しなくなりますので、ご注意ください。

GPT ディスクの場合(LB パーティションワークス 15 のメイン画面)

【Windows 7 の例】



【Windows 8/10 の例】



GPT ディスクに Windows がインストールされている場合は、上記画面で選択したパーティションのいずれかを削除してしまうと Windows が起動できなくなりますのでご注意ください。

なお、環境によっては、ハードディスク内にリカバリ用のパーティションや、PC メーカーの固有の機能を実行するためのパーティションが作成されていることがあります。また、Windows 7/8 の PC を、Windows 8.1 や 10 にアップグレードすると、「回復パーティション」が新しく作成されることがあります。これらのパーティションを削除・変更してしまうと一部の機能が使用できなくなりますので、操作は行わないでください。

特殊なパーティションの例(ディスクの管理の画面)



※1 リカバリ用パーティション

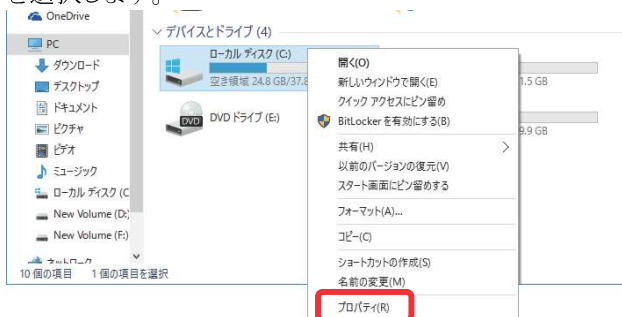
※2 Windows 8 から Windows 8.1 へのアップグレード時に作成された回復パーティション

第4章 パーティション操作前の注意事項

4-6 ドライブのデフラグ

断片化しているファイルを最適化することで、パーティション操作時の処理が、より確実に、高速になります。可能であれば、操作前にデフラグを実行してください。

- (1) [コンピュータ]を開き、ドライブを右クリックし、メニューから[プロパティ]を選択します。



- (2) [ツール]タブを選択し、[最適化]をクリックします。



- (3) [最適化] (Windows 7 の場合は、[ディスクの最適化]) をクリックし、デフラグを実行します。



※ 操作対象となるすべてのドライブで実行してください。

第5章 LB パーティションワークス 15 を使用する

第5章 LB パーティションワークス 15 を使用する

5-1 LB パーティションワークス 15 の起動方法

■ランチャー

[スタート]メニューから[すべてのアプリ(プログラム)]-[LB Partition Works 15]-[LB Partition Works 15]を選択します。LB パーティションワークス 15 が起動すると以下のランチャー(エクスプレスマード)が表示されます。よく使用する機能はランチャーから直接実行することが可能です。LB パーティションワークス 15 のメイン画面を表示させる場合は、以下の画面で、[Partition Works]を選択します。



※ ランチャーから操作を行った場合、処理が即座に行われますのでご注意ください。

メイン画面では **LB パーティションワークス 15** のすべての機能を使用することができます。用途や機能に応じて、いくつかの小さなセクションに分割されています。**LB パーティションワークス 15** のランチャーを表示させる場合は、以下の画面にある**[エクスプレスモード]**ボタンをクリックします。



第5章 LB パーティションワークス 15 を使用する

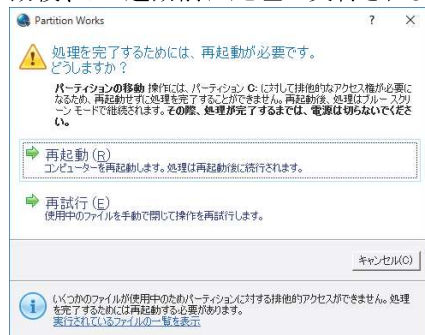
5-2 処理の実行

LB パーティションワークス 15 は、「仮想モード」を採用しています。ユーザが指定した処理は、直ぐに実行されずに一旦操作リストに登録されます。操作リストに登録された処理を実行するには、仮想操作バーの[適用]ボタンをクリックして、確認画面で[はい]を選択する必要があります。この機能により、実際の処理を実行する前に、実行後の結果を画面で確認することができ、複数の操作をまとめて実行することもできるようになっています。適用前であれば、処理の中止、元に戻す、やり直しなどの操作が可能です。



ランチャーから操作を行った場合、処理が即座に行われますのでご注意ください。

インストールして操作を実行した場合、処理内容によっては以下の画面が表示され、再起動が促されます。[再起動]をクリックすると、再起動後、OS 起動前に処理が実行されます。



OS がインストールされているドライブを操作する場合には、ほとんどの操作で再起動が必要になります。

第6章 パーティション操作(よくある利用方法)

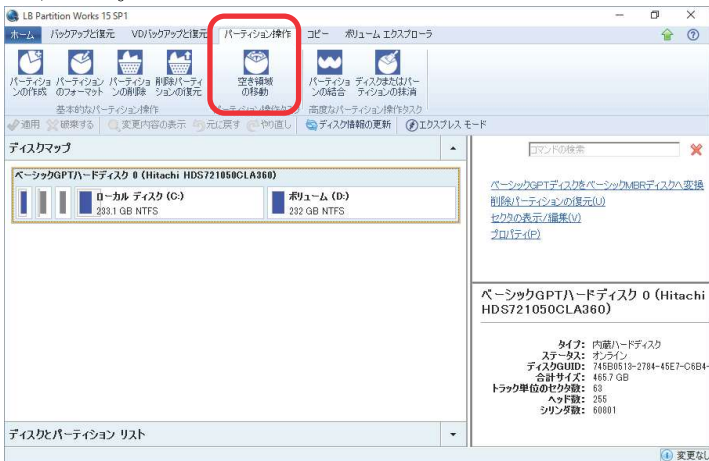
この章では、LB パーティションワークス 15 のよくある利用例での操作手順をご紹介します。

6-1 Cドライブを大きくしてDドライブを小さくする(自動)

ハードディスクのパーティションの容量配分は必ずしも最適とは言えません。空きが多い方から少ない方へ容量を移動することで、容量配分を適切にすることができます。

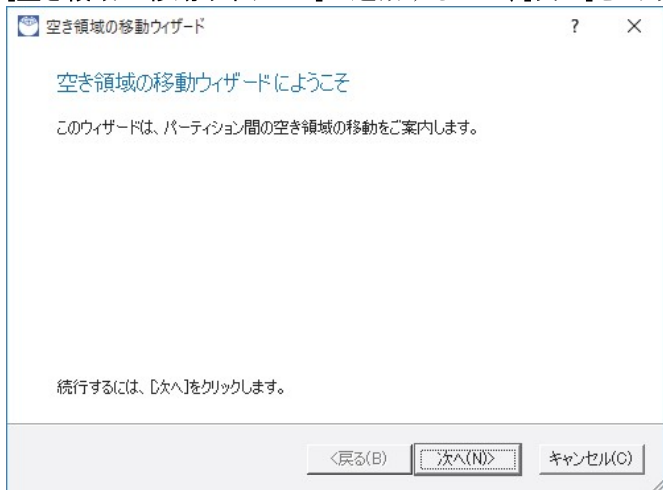
※ 操作前に、必ず『第4章 パーティション操作前の注意事項』をご確認ください。

- (1) LB パーティションワークス 15 を起動します。メイン画面が表示されたら、[パーティション操作]タブの[空き領域の移動]ボタンをクリックしてください。

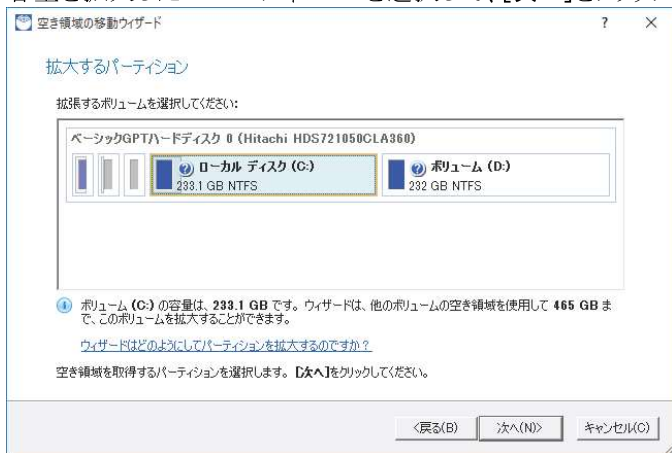


第6章 パーティション操作

- (2) [空き領域の移動ウィザード]が起動するので、[次へ]をクリックします。



- (3) 容量を拡大したいパーティションを選択して、[次へ]をクリックします。



- (4) 容量を小さくしたいパーティションのチェックをオンにします。[次へ]をクリックします。



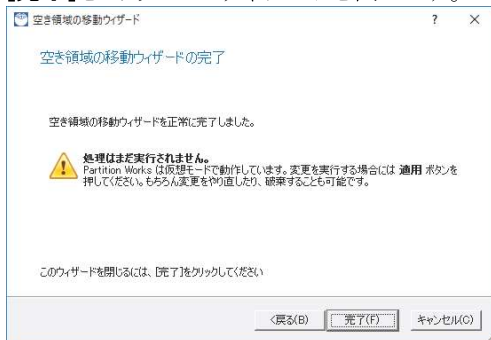
- (5) パーティションの境界をドラッグして拡大後の容量を指定します。設定が完了したら、[次へ]をクリックします。



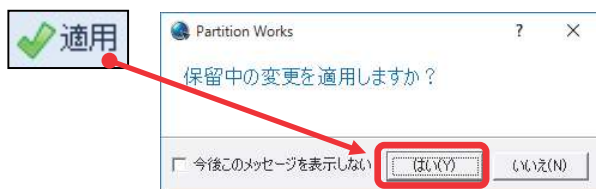
ここをクリックしてサイズを指定することもできます

第6章 パーティション操作

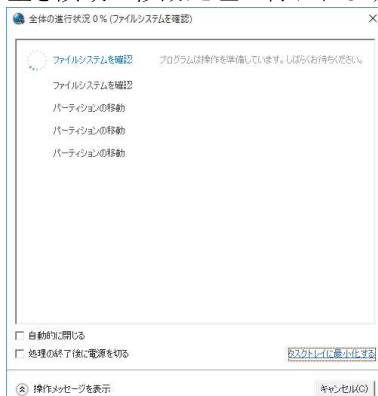
(6) [完了]をクリックしてウィザードを閉じます。



(7) 処理を開始するには、画面上の[適用]ボタンをクリックし、確認画面で、[はい]をクリックします。



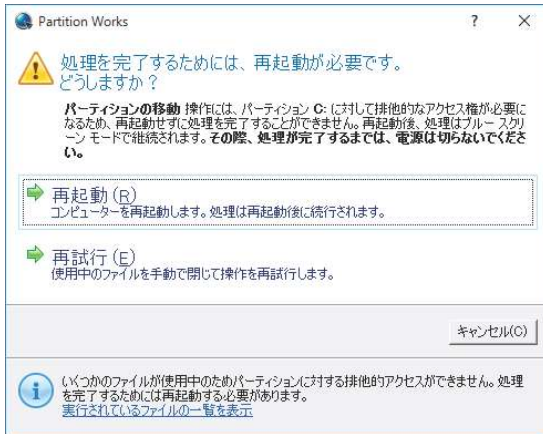
(8) 空き領域の移動処理が行われます。



※ 処理中は絶対に電源を切らないでください。

LB パーティションワークス 15 利用ガイド

再起動を促すメッセージが表示された場合は、[再起動]をクリックします。



再起動時に処理が行なわれます。以下は Windows 8/10 での処理画面です。画面はご利用の OS や環境によって異なります。

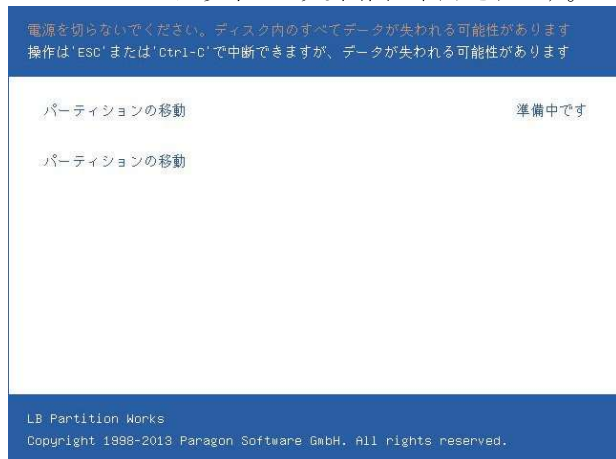
```
Loading LB Engine
Copyright 1994-2015 Paragon Software GmbH. All rights reserved.
Please wait ...

Flushing system buffers, please wait.....
Checking Volume ...
Type of the filesystem is NTFS.
Journal is not replayed 'cause read-only.
Volume label is:
Verifying 106496 records ...
Verifying 10434 file(s) with EAs...
Verifying 22955 folders ...
Elapsed: 00:01:49 To finish: 00:02:02 47%
```

※ 処理中は絶対に電源を切らないでください。

第6章 パーティション操作

Windows 7 では以下のような画面が表示されます。



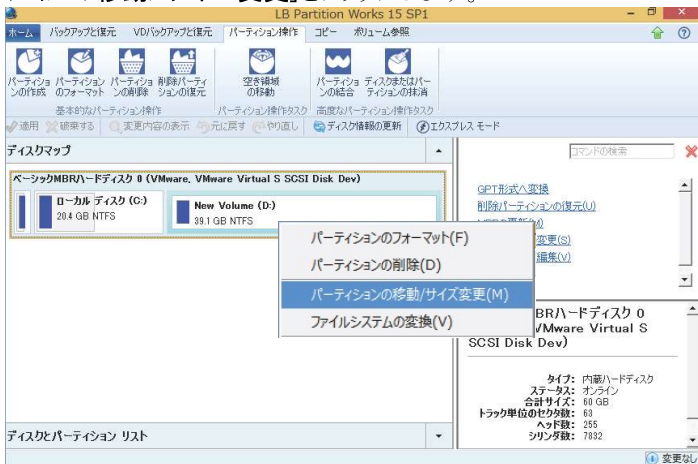
(9) 終了したら、[閉じる]ボタンをクリックして結果を確認してください。

6-2 Cドライブを大きくしてDドライブを小さくする(手動)

ここでは、ウィザードではなく、手動で操作する方法をご紹介します。

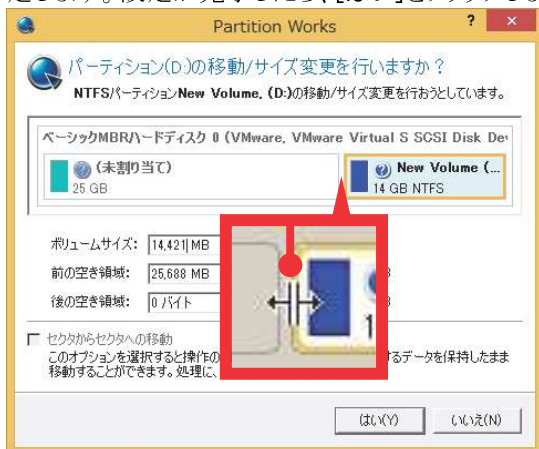
- ※ この例では D ドライブは拡張パーティションになっています。
- ※ 操作前に、必ず『第4章 パーティション操作前の注意事項』をご確認ください。

- (1) LB パーティションワークス 15 を起動します。
- (2) 最初に D ドライブを小さくして、D ドライブの前に未割り当て領域を作成します。拡張パーティションの場合には、最初に拡張パーティション内の論理ドライブを小さくします。D ドライブを右クリックし [パーティションの移動/サイズ変更] をクリックします。

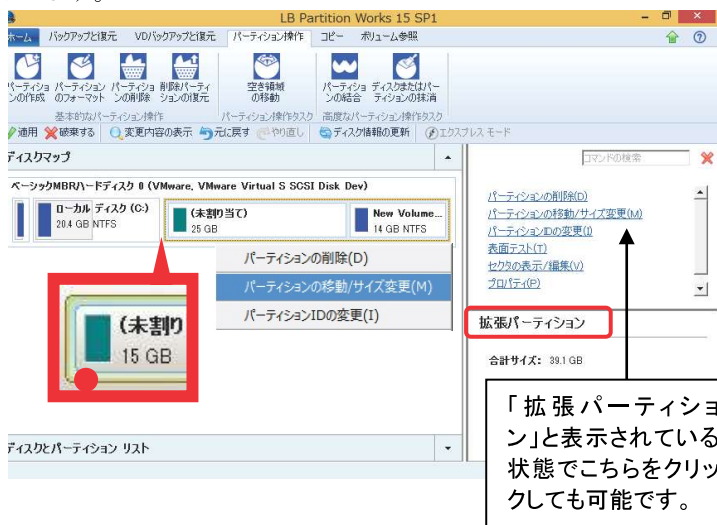


第6章 パーティション操作

- (3) パーティションの境界をドラッグして D ドライブの前に空ける容量を指定します。設定が完了したら、[はい]をクリックします。



- (2) 次に拡張パーティションを小さくします。拡張パーティション(水色の部分)を選択し右クリック[パーティションの移動/サイズ変更]をクリックします。

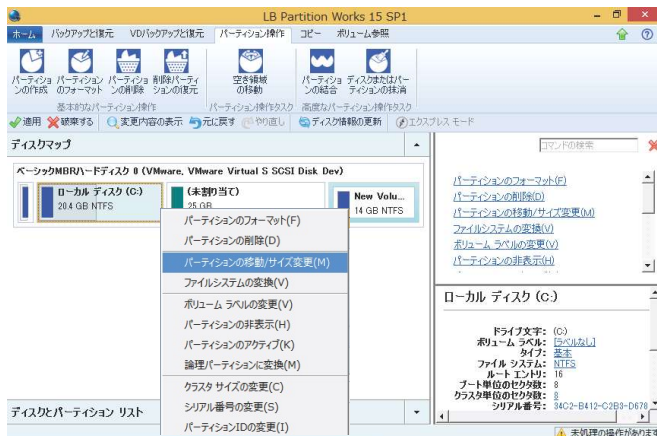


LB パーティションワークス 15 利用ガイド

- (3) 拡張パーティションの境界をドラッグして小さくします。設定が完了したら、[はい]をクリックします。

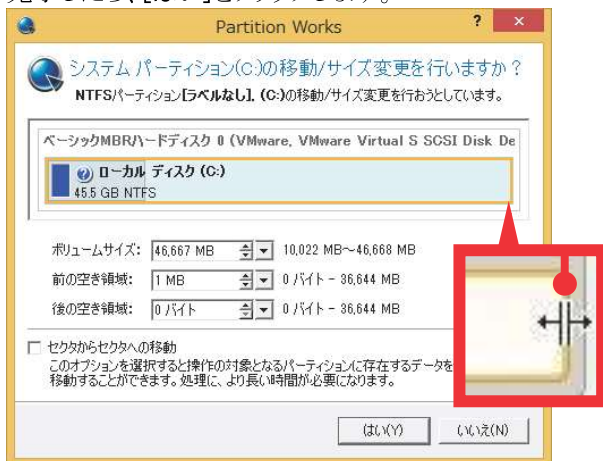


- (4) Cドライブを拡大します。Cドライブを右クリック[パーティションの移動/サイズ変更]を選択します。

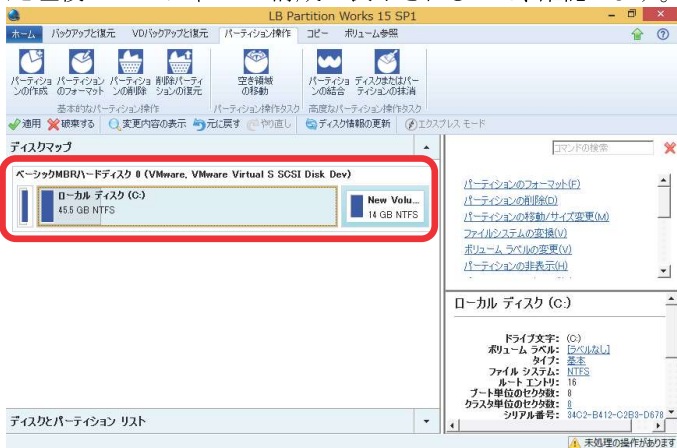


第6章 パーティション操作

- (5) パーティションの境界をドラッグして C ドライブを大きくします。設定が完了したら、[はい]をクリックします。



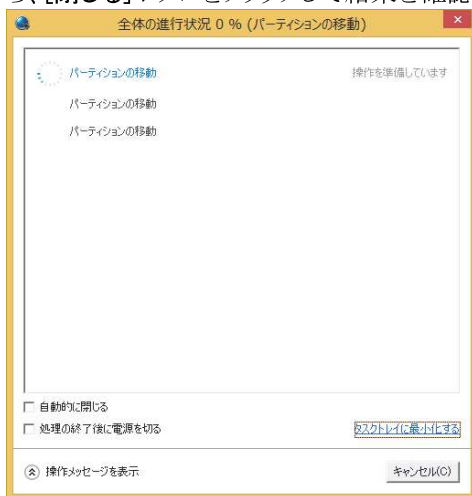
- (6) 処理後のパーティション構成が表示されるので、確認します。



- (10) 処理を開始するには、画面上の[適用]ボタンをクリックし、確認画面で、[はい]をクリックします。



- (7) 処理が開始されますので、終了するまでしばらく待ちます。終了したら、[閉じる]ボタンをクリックして結果を確認してください。



※ 処理中は絶対に電源を切らないでください。

※ 処理内容によっては、再起動を促す画面が表示されます。その場合には、[再起動]をクリックしてください。再起動後の OS 起動時に処理が実行されます。

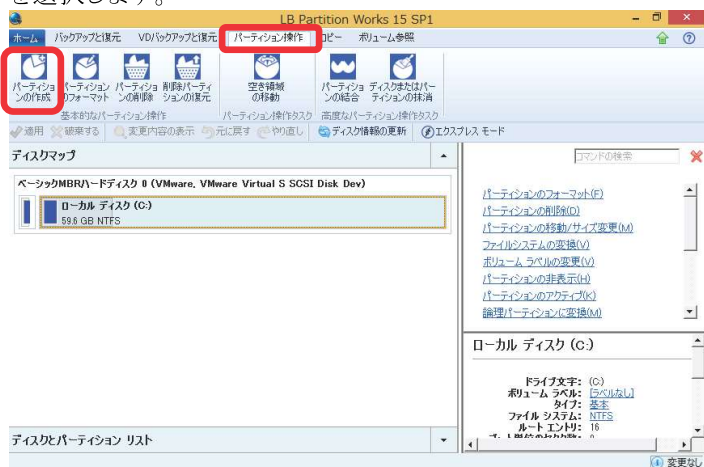
第6章 パーティション操作

6-3 Cドライブを小さくして新たにDドライブを作成する

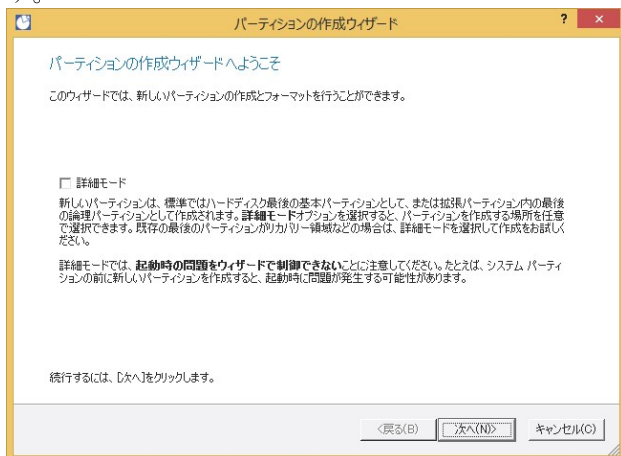
Cドライブのみのハードディスクを分割し、新しくDドライブを作成することができます。ここでは、ウィザードを使用した例をご紹介します。

- ※ 操作前に、必ず『第4章 パーティション操作前の注意事項』をご確認ください。
- ※ MBR ディスクの場合、基本パーティションは1台のハードディスクに最大4つまでに制限されます。

- (1) LB パーティションワークス 15 を起動します。メイン画面が表示されたら、[パーティションの操作]タブをクリックし、[パーティションの作成]を選択します。



- (2) パーティションの作成ウィザードが表示されます。[次へ]をクリックします。

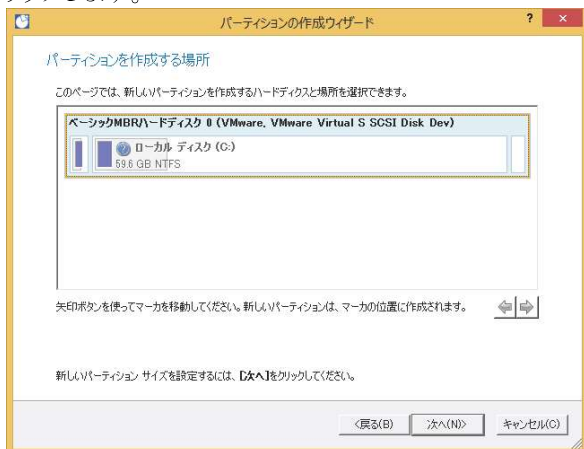


- ※ ハードディスク内に移動できないパーティション(特殊なリカバリ領域や PC メーカー独自のユーティリティ領域)があると、以下の画面が表示されてウィザードが実行できない場合やパーティションを作成したいハードディスクが選択できない場合があります。その場合は、「9-5」、「9-6」の手順で既存のパーティションを縮小し、「9-1」を参考に手動でパーティションを作成してください。

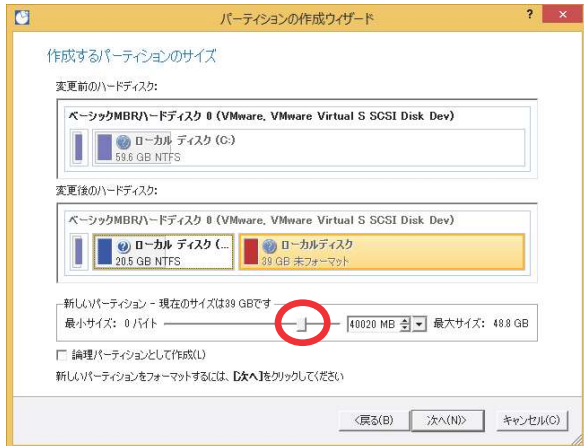


第6章 パーティション操作

- (3) パーティションの作成先を選択します。選択が完了したら、[次へ]をクリックします。



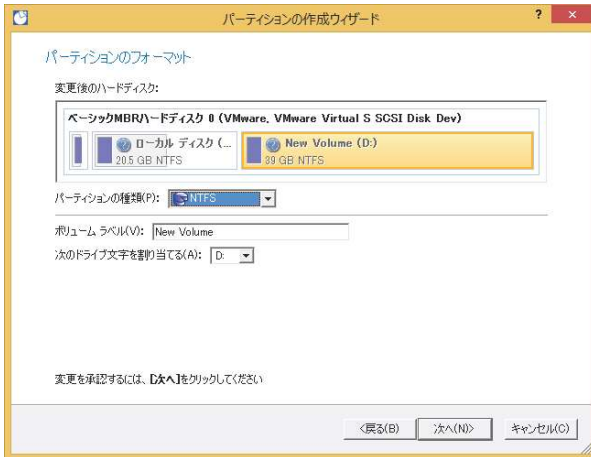
- (4) スライダーをドラックして、作成するパーティションのサイズを指定します。[次へ]をクリックします。



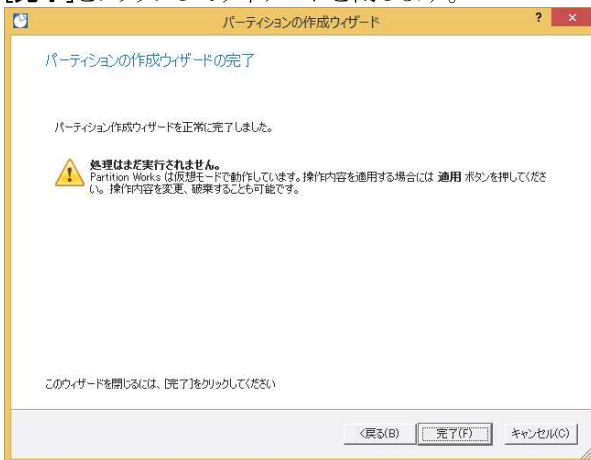
- ※ 論理パーティションを作成する場合には、[論理パーティションとして作成]にチェックを入れます。なお、GPT ディスクではこのオプションは表示されません。

LB パーティションワークス 15 利用ガイド

- (5) パーティションの種類、ドライブ文字などを指定して、[次へ]をクリックします。

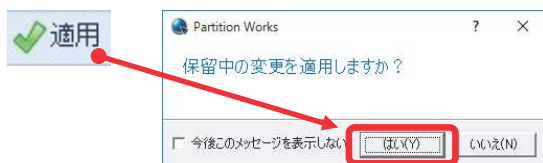


- (6) [完了]をクリックしてウィザードを閉じます。

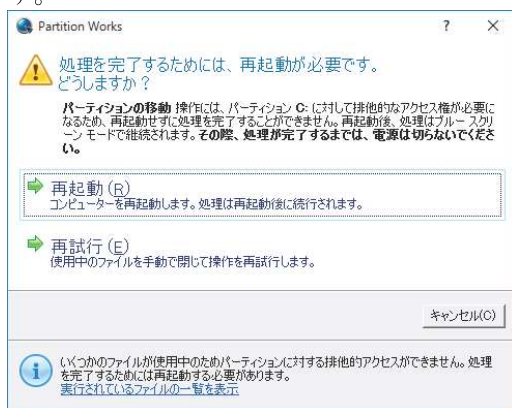


第6章 パーティション操作

- (7) 処理を開始するには、画面上の[適用]ボタンをクリックし、確認画面で、[はい]をクリックします。



- (8) 以下の画面が表示され、再起動が促されます。[再起動]をクリックします。



※ OS がインストールされているドライブを操作する場合には、再起動が必要になります。

※ CD 起動で操作している場合には、この画面は表示されずに、そのまま処理が実行されます。

LB パーティションワークス 15 利用ガイド

- (9) 再起動時に、パーティションの作成処理が行われます。以下は Windows 10 での処理画面です。画面はご利用の OS や環境によって異なります。

```
Loading LB Engine
Copyright 1994-2015 Paragon Software GmbH. All rights reserved.
Please wait ...

Flushing system buffers, please wait.....
Checking Volume ...
Type of the filesystem is NTFS.
Journal is not replayed 'cause read-only.
Volume label is: .
Volume is marked as dirty.
Verifying 87040 records ...
Elapsed: 00:00:29 To finish: 00:00:18 61%
```

※ 処理中は絶対に電源を切らないでください。

- (10) 処理が完了すると OS が起動します。LB パーティションワークス 15 を起動して、処理が正しく行われているか確認してください。

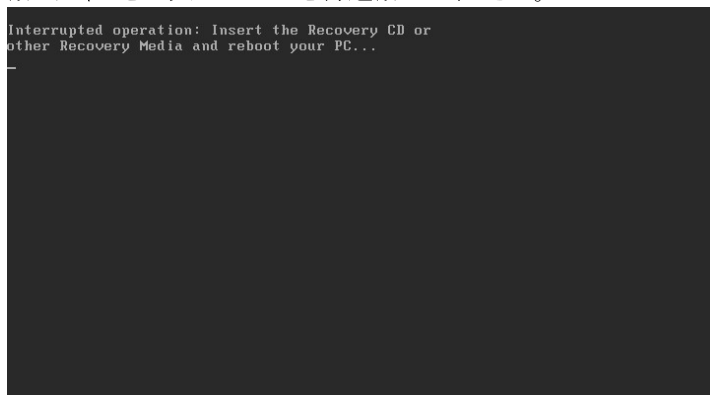
第6章 パーティション操作

6-4 パーティション操作中に処理を中断してしまった場合

パーティション操作中に電源が切れてしまったり、処理が停止してしまった場合には、Windows PE 版の起動メディアをセットして PC を再起動してください。中断された処理が再開されます。

処理を再開しないと操作対象のハードディスクのデータがすべて失われる可能性があります。

ご利用の環境によっては、PC の起動時に以下の画面(Interrupted operation: Insert the Recovery CD or other Recovery Media and reboot your PC...)が表示されることがあります。Windows PE 版の起動メディアをセットして PC を再起動してください。

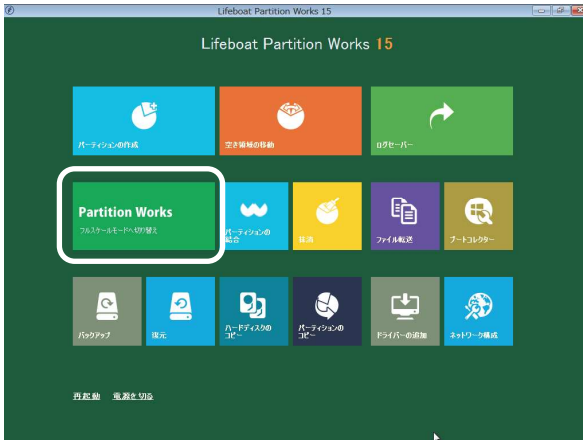


- (1) Windows PE 版の起動メディア (CD/USB メモリ) をセットして PC を再起動します。

※ 起動メディアの作成方法や起動方法については、「第3章 起動メディアの作成と動作確認」をご参照ください。

LB パーティションワークス 15 利用ガイド

- (2) 以下のメニュー画面が表示されたら、[LB Partition Works]をクリックします。



- (3) 以下の画面が表示されるので、[はい]をクリックします。



第6章 パーティション操作

(4) 中断された処理が再開されます。



(5) 処理が完了したら、起動メディアを外し PC を再起動します。OS が起動したらパーティションの状態を確認してください。

※ 完了後も進捗バーが最後まで進まず、途中で止まったように表示されることがありますが、右下に[閉じる]ボタンが表示されていれば処理は完了しています。[閉じる]をクリックした後パーティションワークスを終了し、メニューから PC を再起動してください。

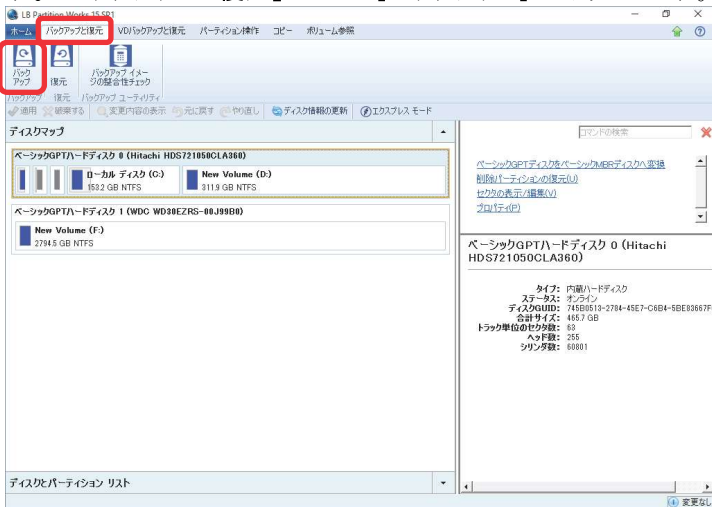
第7章 バックアップと復元

7-1 バックアップを実行する

LB パーティションワークス 15 にはイメージバックアップ機能が搭載されています。ここでは、外付け HDD などのローカルディスクにバックアップする手順をご案内いたします。

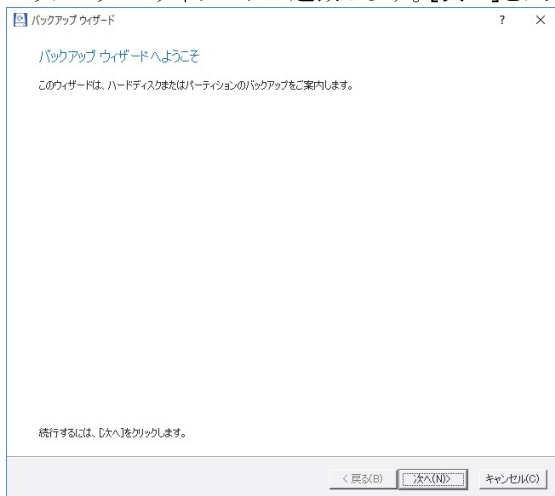
- (1) LB パーティションワークス 15 を起動します。[スタート]メニューから[すべてのアプリ(プログラム)]-[LB Partition Works 15]-[LB Partition Works 15]の順にクリックします。ランチャー画面が起動した場合は、[Partition Works]を選択します。

- (2) LB パーティションワークス 15 が起動して、メイン画面が表示されます。「バックアップと復元」タブから[バックアップ]をクリックします。

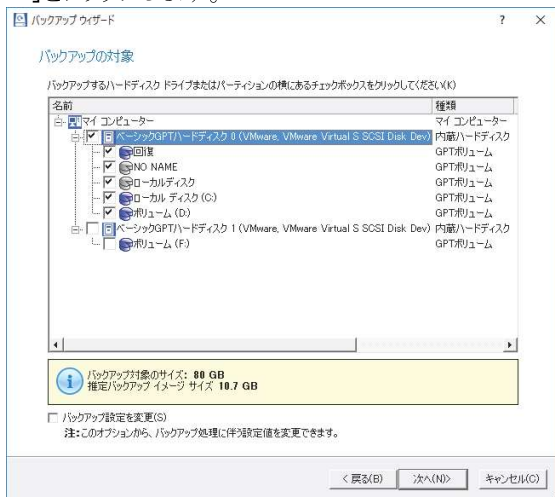


第8章 ハードディスクのコピー

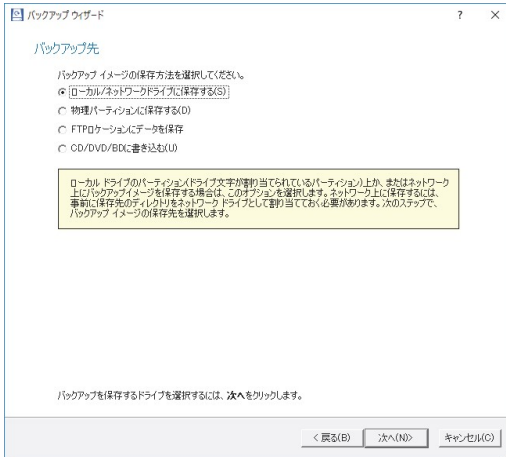
- (3) バックアップ ウィザードが起動します。**[次へ]**をクリックします。



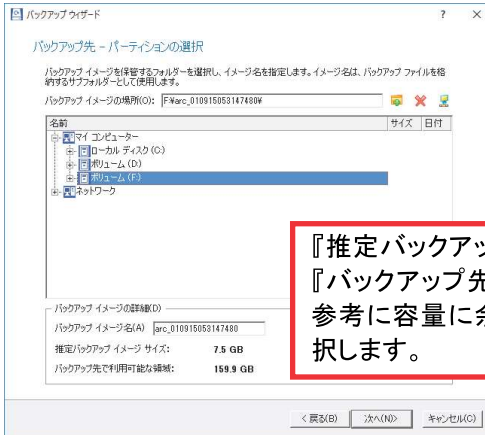
- (4) **[バックアップの対象]**画面で、バックアップ対象のハードディスク、またはパーティションを選択します。ディスク全体をバックアップする場合には、ハードディスクにチェックを入れます。選択が完了したら、**[次へ]**をクリックします。



- (5) [バックアップ先]画面では、作成されるバックアップ イメージの保存先を指定します。[ローカル/ネットワークドライブに保存する]を選択して[次へ]をクリックします。



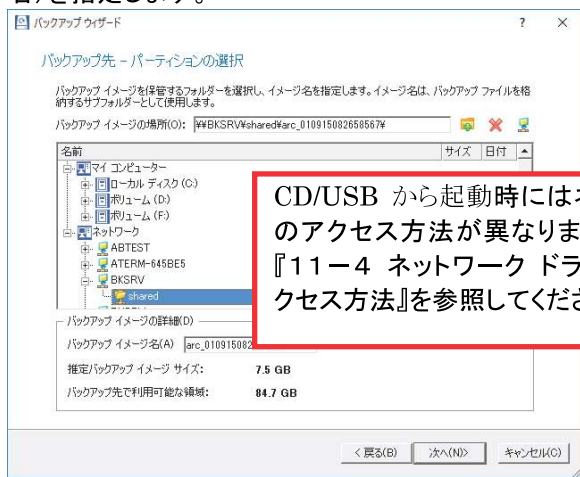
- (6) [バックアップ先 - パーティションの選択]画面では、バックアップ イメージの保存先のパーティション、フォルダを選択し、バックアップ イメージ名(フォルダ名)を指定して[次へ]をクリックします。



『推定バックアップ イメージ サイズ』と『バックアップ先で利用可能な領域』を参考に容量に余裕のあるドライブを選択します。

第8章 ハードディスクのコピー

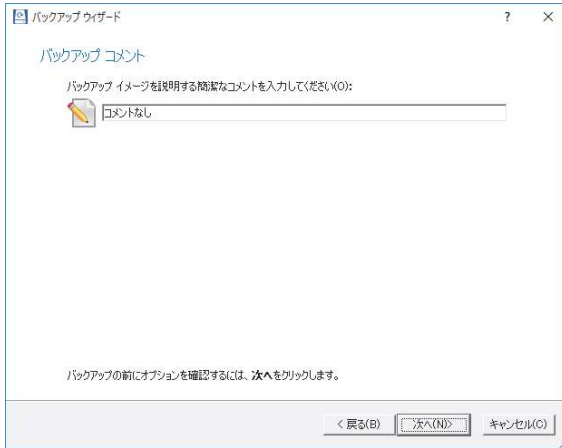
- ※ ネットワークドライブにバックアップする場合には、[ネットワーク]内にあるリモートコンピュータを探してください。バックアップ イメージの保存先の共有フォルダを選択して、バックアップ イメージ名(フォルダ名)を指定します。



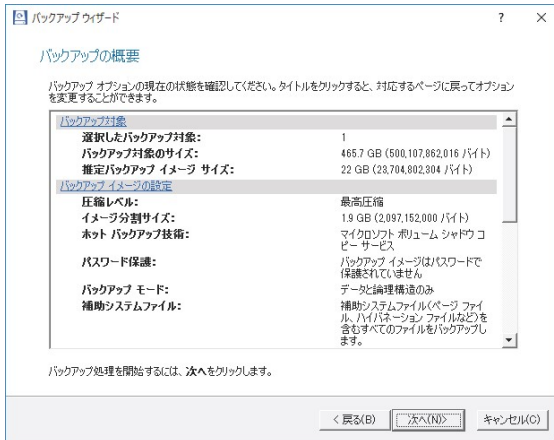
リモート コンピュータへの接続に認証が必要な場合は、次のダイアログが表示されるので、接続に必要な[ユーザー名]と[パスワード]を入力して[OK]をクリックします。



- (8) [バックアップ コメント]画面では、バックアップ イメージ ファイルのコメントを入力して[次へ]をクリックします。復元時に分かりやすい名前を付けておくことをお勧めいたします。



- (9) [バックアップの概要]画面では、これまでに行ったバックアップ設定を確認して[次へ]をクリックします。修正したい箇所がある場合には、タイトルをクリックします。



第8章 ハードディスクのコピー

- (10) [バックアップ ウィザードの完了]画面が表示されます。[完了]をクリックします。



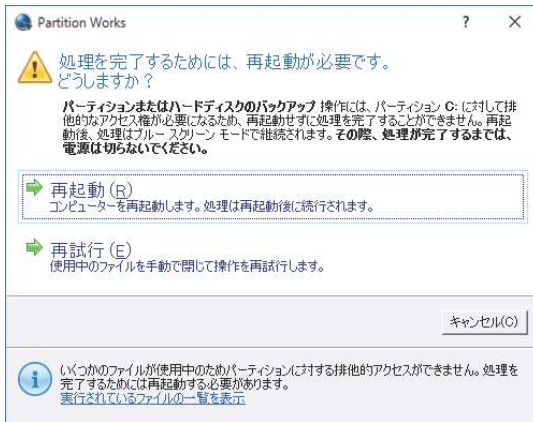
- (11) バックアップを開始するには、画面上の[適用]ボタンをクリックし、確認画面で、[はい]をクリックします。



- (12) 処理の進行状況を確認するためのダイアログが表示され、バックアップ処理が開始されます。途中で処理を中止したい場合には、[キャンセル]ボタンをクリックします。処理内容の詳細を確認したい場合には、[操作メッセージを表示]をクリックします。



※ バックアップ処理の内容によっては、バックアップが開始されずに、以下の画面が表示されます。



[再起動]をクリックすると、システムを再起動して再起動時にバックアップが開始されます。

- (13) バックアップが完了すると、[キャンセル]ボタンが[閉じる]ボタンに切り替わります。[閉じる]ボタンをクリックして、ダイアログを閉じます。バックアップ先にイメージファイルが作成されているのか、確認します。
- (14) 正しくバックアップが実行されたか、『7-2 バックアップ イメージの整合性チェック』を行います。

第8章 ハードディスクのコピー

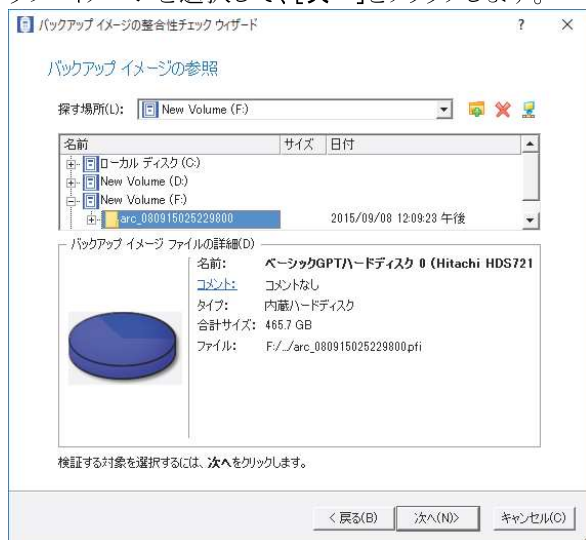
7-2 バックアップイメージの整合性チェック

この機能を使用すると、イメージを使用する前にそのイメージが正常か、破損しているかを区別することができます。以下の手順で、バックアップ イメージの整合性チェック ウィザードを使用してください。

- (1) [バックアップと復元]タブの[バックアップ イメージの整合性チェック]ボタンをクリックします。



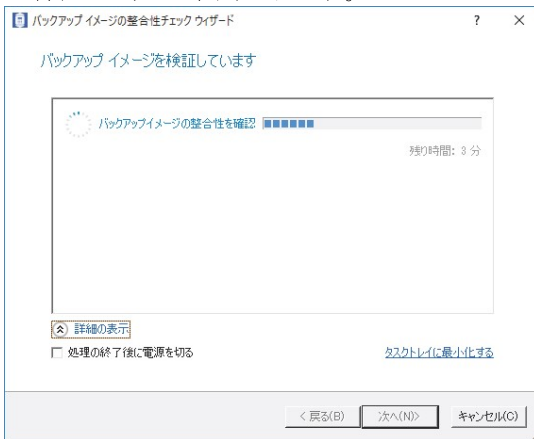
- (2) ウィザードが起動したら、[次へ]をクリックします。
- (3) [バックアップ イメージの参照]画面が表示されます。目的のバックアップ イメージを選択して、[次へ]をクリックします。



- (4) 「バックアップイメージの改訂」が表示されたら「次へ」をクリックします。



- (5) 整合性チェックが開始されます。



- (6) 終了したら[完了]ボタンをクリックしてください。

※ エラーが発生した場合は、『4-1 エラーチェックの実行』を参照してエラーチェックを行った後、バックアップを再度実行してください。

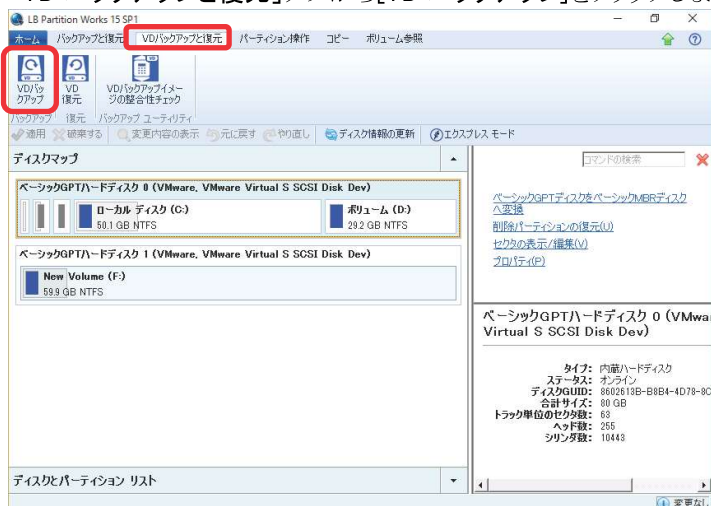
第8章 ハードディスクのコピー

7-3 VD バックアップ（新しいバックアップ方式）

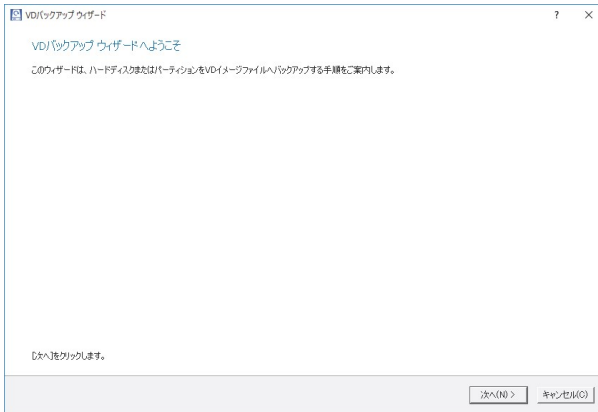
SP1 から、新しいバックアップ方式となる VD バックアップ(pVHD 形式)が追加されました。従来のバックアップと同様にハードディスク/パーティション単位のバックアップを行えます。

VD バックアップではバックアップ元のハードディスクより小さいサイズのハードディスクへのディスク単位の復元機能などがサポートされますが、新方式では、CD/DVD/BD へのバックアップ、FTP 経由でのバックアップがサポートされないなど制限事項がございますので、必要のないユーザ様は、従来のバックアップ機能をご利用頂くことをお勧めいたします。ここでは、VD バックアップの手順をご案内いたします。

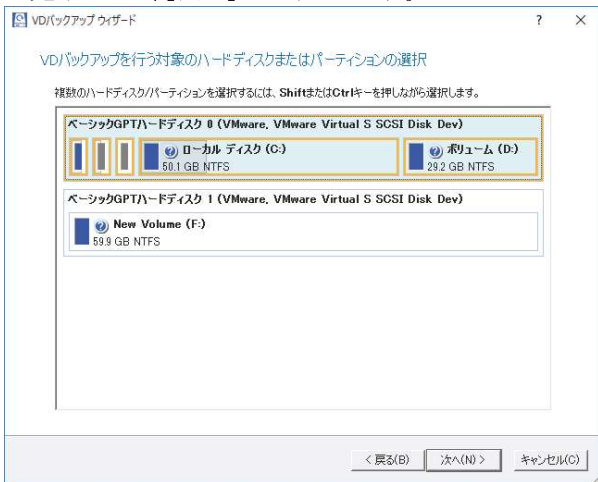
- (1) LB パーティションワークス 15 を起動して、メイン画面を表示します。
「VD バックアップと復元」タブから[VD バックアップ]をクリックします。



- (2) バックアップ ウィザードが起動します。**[次へ]**をクリックします。



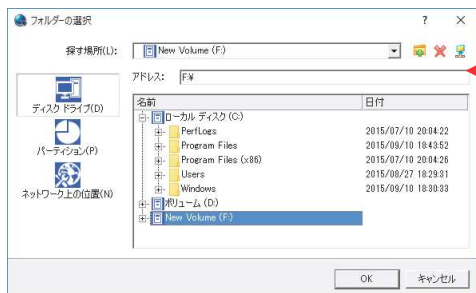
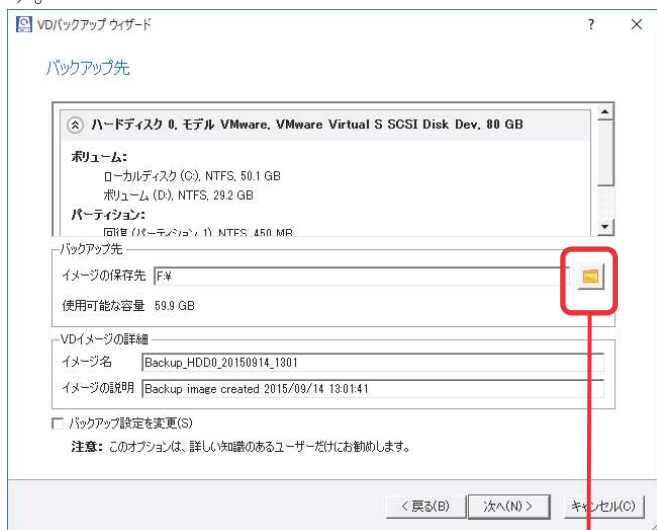
- (3) バックアップ対象のハードディスク、またはパーティションを選択します。ディスク全体をバックアップする場合には、ハードディスクを選択します(すべてのパーティションがオレンジの枠で囲われます)。選択が完了したら、**[次へ]**をクリックします。



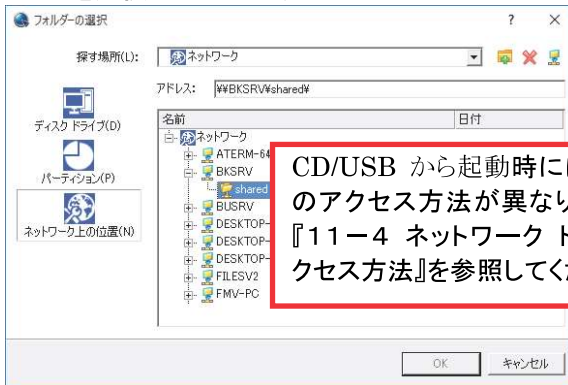
- ※ ここで、Cドライブなど OS がインストールされているパーティションを選択した場合には、C ドライブ以外の起動に必要なパーティションも自動的に選択されます。

第8章 ハードディスクのコピー

- (4) [バックアップ先]画面では、作成されるバックアップ イメージの保存先を指定します。  ボタンをクリックして、保存先を指定し、必要に応じて、イメージ名やイメージの説明の入力して[次へ]をクリックします。



ネットワークドライブにバックアップする場合には、[ネットワーク上の位置]を選択してネットワーク内の保存先となるコンピュータ、共有ドライブを選択してください。

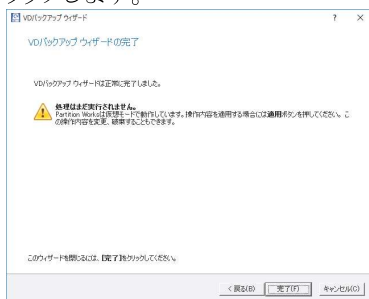


リモート コンピュータへの接続に認証が必要な場合は、次のダイアログが表示されるので、接続に必要な[ユーザ名]と[パスワード]を入力して[OK]をクリックします。



第8章 ハードディスクのコピー

- (7) [VD バックアップ ウィザードの完了]画面が表示されます。**[完了]**をクリックします。



- (8) バックアップを開始するには、画面上の**[適用]**ボタンをクリックし、確認画面で、**[はい]**をクリックします。



- (8) 処理の進行状況を確認するためのダイアログが表示され、バックアップ処理が開始されます。途中で処理を中止したい場合には、**[キャンセル]**ボタンをクリックします。処理内容の詳細を確認したい場合には、**[操作メッセージを表示]**をクリックします。



- (9) バックアップが完了すると、[キャンセル]ボタンが[閉じる]ボタンに切り替わります。[閉じる]ボタンをクリックして、ダイアログを閉じます。バックアップ先にイメージファイルが作成されているのか、確認します。
- (10) 正しくバックアップが実行されたか、『7-2 バックアップ イメージの整合性チェック』を行います。

第8章 ハードディスクのコピー

7-4 バックアップを復元する

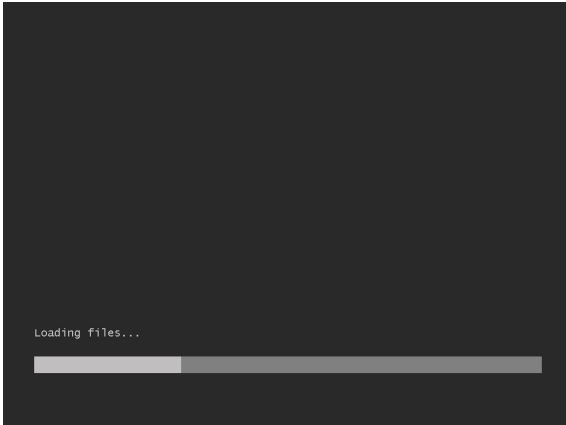
この節では、システムパーティション(OS がインストールされているドライブ)やシステムパーティションを含むハードディスク全体を復元する手順をご案内します。復元には Windows PE 版の起動メディア(CD/USB)を使用します。起動 CD/USB メモリの作成手順については、「第3章 起動メディアの作成と動作確認」を参照してください。

- ※ バックアップ元よりも小さなディスク・パーティションに復元する場合は、**バックアップ元の使用容量よりも大きなサイズのディスク、パーティション**が必要です。バックアップ元の使用容量よりも小さいディスク、パーティションに復元することはできません。
- ※ ディスク全体のイメージを復元する際、バックアップ元のディスクサイズより、復元先のディスクサイズが極端に小さいと、復元に失敗することがあります。その場合は、パーティション単位での復元をお試しください。
- ※ システムドライブを含んだイメージを復元するためには、起動メディア(CD/USB メモリ)から起動して復元する必要があります。
- ※ コピーや復元時のアライメントは 4KB セクタに設定されています。変更したい場合は、メイン画面で[ホーム]-[設定]を開き、[一般的なオプション]を選択し「パーティションアライメントモード」を変更してください。



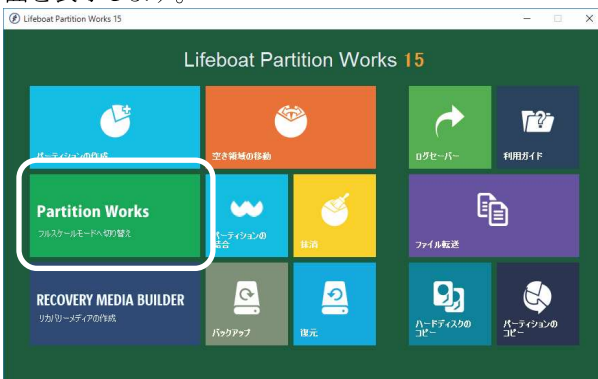
LB パーティションワークス 15 利用ガイド

- (1) WindowsPE 版の起動メディア (CD/USBメモリ) をセットし、PC を再起動します。
- (2) メディアからブートされ、以下の画面が表示されるので、しばらく待ちます。



※ 起動メディアの起動方法については、『3-1 作成した起動 CD の動作確認』をご参照ください。

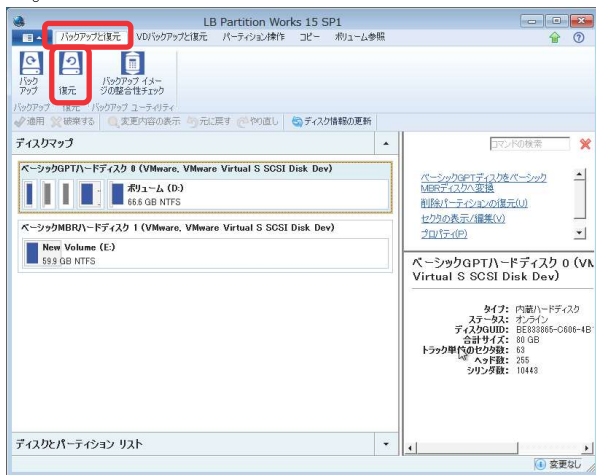
- (3) ランチャー画面が表示されたら、[Partition Works] をクリックしてメイン画面を表示します。



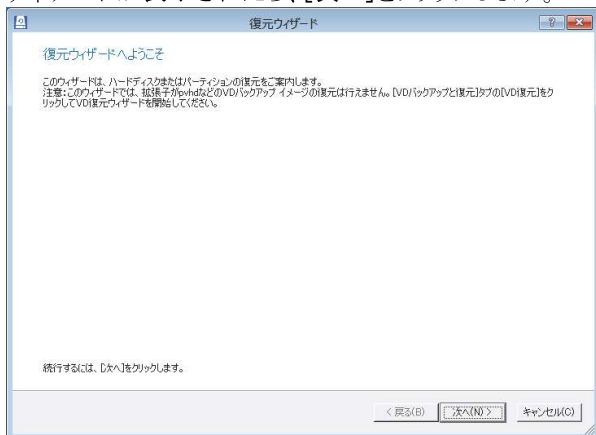
※ 『ディスクが見つかりません』と表示された場合は、『11-4 サードパーティ製ドライバの追加方法』を参考にドライバを追加してください。

第8章 ハードディスクのコピー

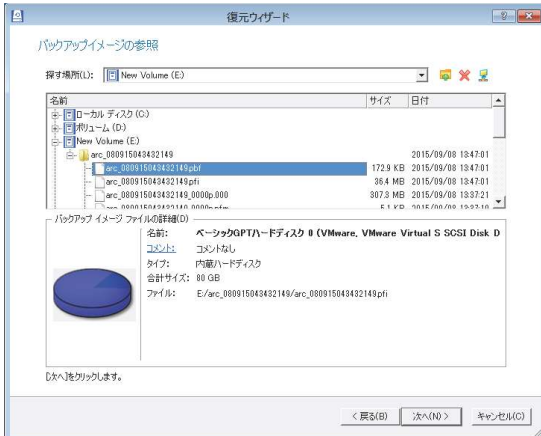
- (4) [バックアップと復元]タブをクリックし、[復元]をクリックします。VD バックアップで作成されたイメージファイルから復元される場合には、[VD バックアップと復元]タブから[VD 復元] をクリックして処理を進めてください。



- (5) ウィザードが表示されたら、[次へ]をクリックします。

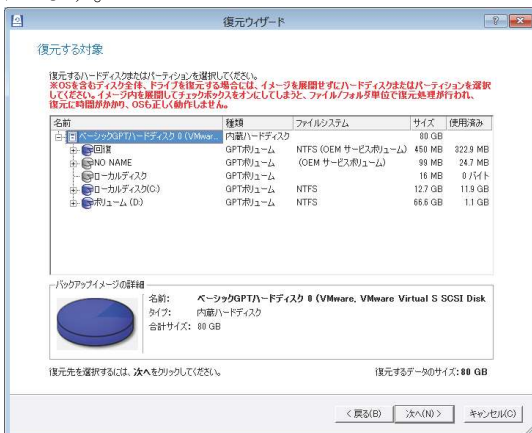


- (6) [バックアップ イメージの参照]画面では、バックアップイメージの保存先を参照してイメージファイルを選択します。



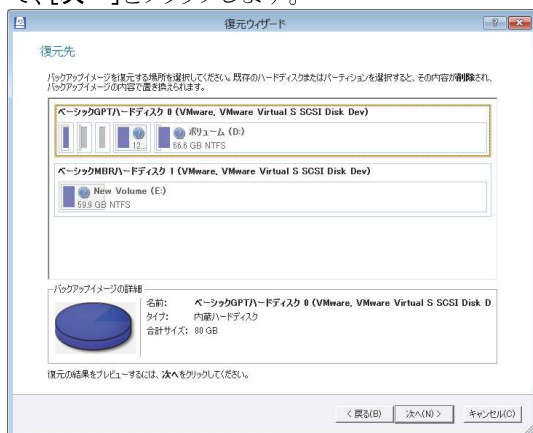
- ※ ネットワークドライブから復元する場合には『11-4 ネットワーク ドライブへのアクセス方法』を参考にネットワークドライブの割り当て後にネットワークドライブ内のイメージファイルを選択してください。

- (7) ハードディスク全体のバックアップ イメージを復元する場合は、[復元する対象]画面が表示されます。この画面では、バックアップ イメージから復元するハードディスク、パーティションを選択して、[次へ]をクリックします。

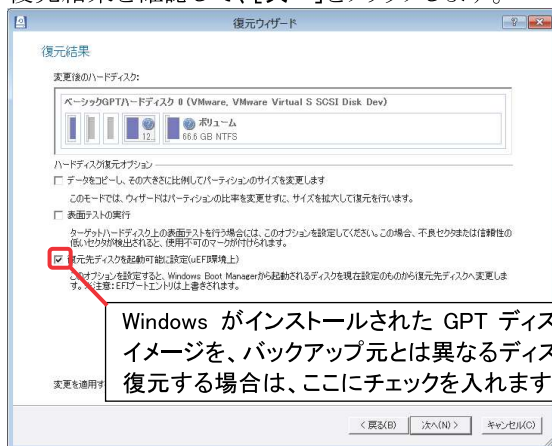


第8章 ハードディスクのコピー

- (8) [復元先]画面では、復元先のハードディスク、パーティションを選択して、[次へ]をクリックします。



- (9) [復元結果]画面では、復元した結果をプレビューすることができます。復元結果を確認して、[次へ]をクリックします。



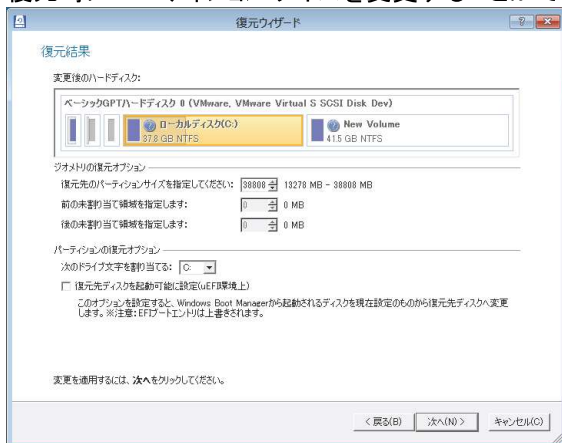
Windows がインストールされた GPT ディスクのイメージを、バックアップ元とは異なるディスクに復元する場合は、ここにチェックを入れます。

- ※ 元のハードディスクより大きなハードディスクに復元する場合には、[データをコピーし、その大きさに比例してパーティションサイズを変更します]にチェックを入れてください。

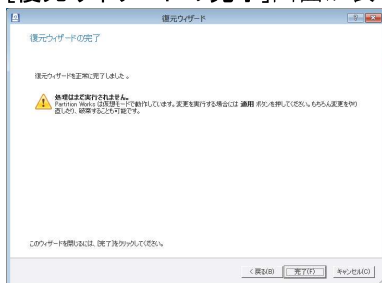
※ バックアップ元よりも小さなディスク・パーティションに復元する場合は、**バックアップ元の使用容量よりも大きなサイズのディスク、パーティション**が必要です。バックアップ元の使用容量よりも小さいディスク、パーティションに復元することはできません。

※ ディスク全体のイメージを復元する際、バックアップ元のディスクサイズより、復元先のディスクサイズが極端に小さいと、復元に失敗することがあります。その場合は、パーティション単位での復元をお試しください。

※ パーティション単位で復元する場合には、以下の画面が表示されます。復元時にパーティションサイズを変更することができます。



(10) [復元ウィザードの完了]画面が表示されたら[完了]をクリックします。



第8章 ハードディスクのコピー

- (11) 復元を開始するには、画面上の[適用]ボタンをクリックし、確認画面で、[はい]をクリックします。



- (12) 復元が開始されます。

- (13) 復元が完了したら、[閉じる]ボタンをクリックして、ダイアログを閉じます。



第8章 ハードディスクのコピー

この章では、LB パーティションワークス 15 でハードディスクをコピーする操作について説明します。

8-1 コピー操作を行う前に

LB パーティションワークス 15 で、コピー操作を行う前には必ずご確認ください。

- (1) コピー元のハードディスクのエラーチェック(CHKDSK)を行ってください。ハードディスクに不良セクタなどの問題が存在すると、正常にコピーが実行できない場合があります。

※ 手順は『4-1 エラーチェックの実行』を参照してください。

- (2) コピー元のドライブを最適化してください。

断片化しているファイルを最適化して頂くことで、コピー処理が、より確実に、高速になります。可能な範囲でデフラグを実行してください。

※ 手順は『4-6 ドライブのデフラグ』を参照してください。

- (3) コピー先のハードディスクを接続し、正しく認識されているか確認してください。

ハードディスクの取り付け方法は、PC やハードディスクのマニュアルを参照してください。IDE、SATA、SCSI、SAS、USB、IEEE1394 で接続されたハードディスクをコピー元、コピー先として利用することができますが、接続後に、Windows 上の管理ツールで正しく認識されているのかを確認してください。

第8章 ハードディスクのコピー

(コピー先ハードディスク/SSD の接続例)

■新しいハードディスク/SSD を内蔵する場合

【シリアル ATA ハードディスク/SSD】を内蔵する場合

2 台目以降の空いているシリアル ATA コネクタに接続してください。



【IDE ハードディスク/SSD】を内蔵する場合

ご使用のシステムがケーブルセレクトを使用している場合には、ハードディスクのジャンパ設定を **CS (CABLE SELECT)** に設定し、プライマリIDEのスレーブコネクタ、またはセカンダリIDEのマスター/スレーブの順に空いているコネクタに接続してください。ご使用のシステムがケーブルセレクトを未使用の場合には、ハードディスクのジャンパ設定を **Slave** に設定して、プライマリ IDE インターフェースの空いているコネクタに接続します。セカンダリ IDE インターフェースに接続する場合は、1 台目は **Master**、2 台目は **Slave** にジャンパ設定を行ってコネクタに接続してください。

■新しいハードディスク/SSD を外付けする場合

ハードディスクケースを利用してドライブを接続する場合には、まずコピー先のハードディスクをケースに入れます。



第8章 ハードディスクのコピー

ケースに入れたハードディスク/SSD を USB ケーブルまたは IEEE1394 ケーブルでシステムと接続します。



■接続後のハードディスク/SSD の確認

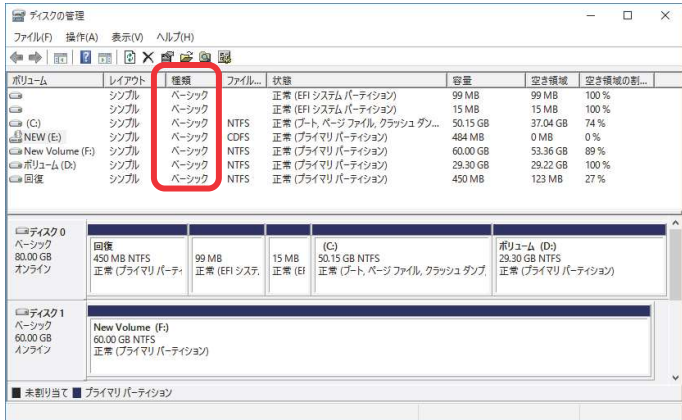
ハードディスク/SSD の接続が完了したら、Windows を起動して接続したハードディスク/SSD が正しく認識されているか確認してください。

「ディスクの管理」を使用すると、ハードディスク/SSD が正しく認識されているかを確認することができます。接続されたハードディスク/SSD は、「未割り当て」として表示され、接続を確認できます。確認方法は以下の通りです。

- ① 『4-4』をご参考に、[ディスクの管理]画面を表示します。

LB パーティションワークス 15 利用ガイド

- ② コピー先のハードディスクが正常に認識されているのか確認します。表示されない場合には、増設したハードディスクのマニュアルなどを確認してください。



※ [種類]がベーシックになっているか確認してください。ダイナミックと表示されている場合には、ダイナミックディスクになっています。ダイナミックディスクのコピーはサポートしていません。この管理ツールで、ベーシックに変換することはできませんが、ディスク内のファイルがすべて失われます。

- (4) 必要のない機器を取り外してください

コピー時にはコピー先のドライブの全データが削除されます。誤操作を防ぐためにも、コピーに関係しないハードディスクを取り外しておくか、電源を切っておくことをお勧めいたします。また、周辺機器(USBメモリ、カードリーダー)なども取り外しておくことをお勧めいたします。

第8章 ハードディスクのコピー

8-2 コピー後の動作確認

コピー後は、必ず PC をシャットダウンして、コピー先のハードディスクから起動できるのか確認してください。確認方法はコピー先のハードディスクの接続形態によって異なります。

- ※ 必ずコピー先のハードディスクのみが接続されている状態で起動確認を行ってください。
- ※ IDE ハードディスクの場合にはジャンパピンの設定が必要になる場合があります。設定方法はハードディスク メーカーのマニュアルなどをご参照ください。
- ※ 接続の切り替え時に BIOS の設定が必要になる場合があります。BIOS の設定方法については、お使いの PC のマニュアルをご参照ください。

【コピー先が、IDE、SATA、SAS で接続されているディスクの場合】

新しいハードディスクを起動ドライブとして使用する場合には、ハードディスク構成を変更する必要があります。コピー元ドライブを取り外し、コピー先ドライブを 1 台目のドライブとして接続して起動確認を行います。

【コピー先に USB 接続のハードディスク ケースなど利用されている場合】

ケースからハードディスクを取り出し、PC の内蔵ドライブと差し替えて、コピー先のハードディスクから起動できるか確認してください。

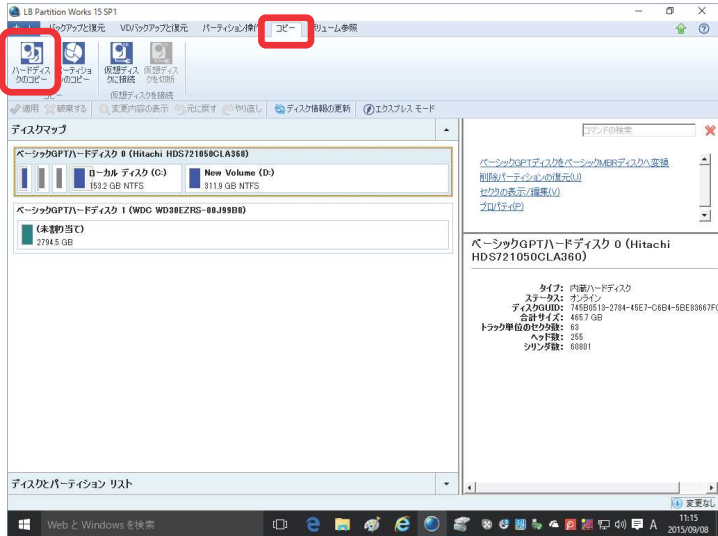
- ※ コピー先、コピー元のハードディスクのいずれかをバックアップ用に使用する場合には、コピー先ハードディスクの起動確認後に、PC から取り外して安全な場所に保管してください。
- ※ Windows がインストールされた GPT ディスクをコピー後、コピー先のディスクから起動できない場合は、『12-1 ブートコレクタ』を参照の上、[EFI ブートパラメータの修正]行ってください。なお、この操作を行うと、一時的にコピー元のディスクから起動できなくなる可能性があるため、(コピー元のディスクに再度[EFI ブートパラメータの修正]を行うと起動できるようになります。) コピー後すぐにディスクを換装しない場合は、この操作は行わないでください。

8-3 コピーの実行

コピーを実行する前に、『8-1 コピー操作を行う前に』を必ずご確認ください。

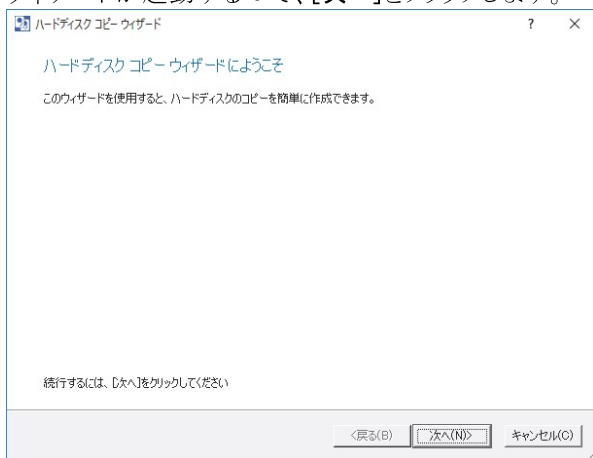
- ※ コピーや復元時のアライメントは 4KB セクタに設定されています。変更したい場合は、メイン画面で[ホーム]-[設定]を開き、[一般的なオプション]を選択し「パーティションアライメントモード」を変更してください。
- ※ パーティション単位でコピーを行う手順については、「9-3 パーティションのコピー」を参照してください。

- (1) LB パーティションワークス 15 のメイン画面を起動し、[コピー]タブ内の[ハードディスクのコピー]をクリックします。

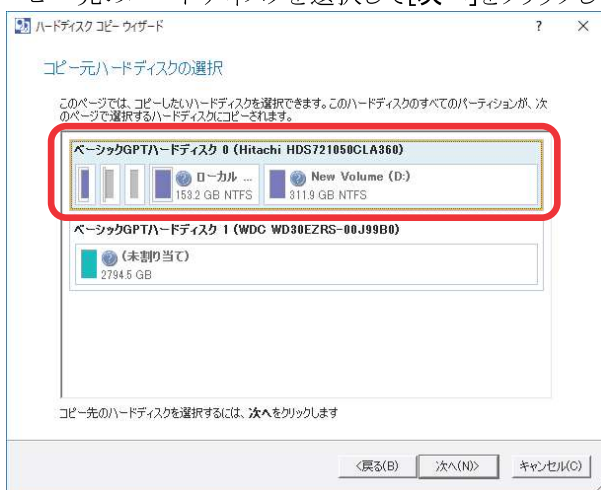


第8章 ハードディスクのコピー

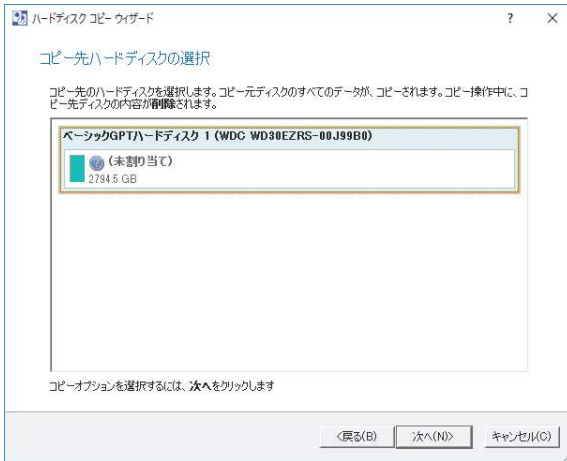
(2) ウィザードが起動するので、[次へ]をクリックします。



(3) コピー元のハードディスクを選択して[次へ]をクリックします。



(4) コピー先のハードディスクを選択して[次へ]をクリックします。



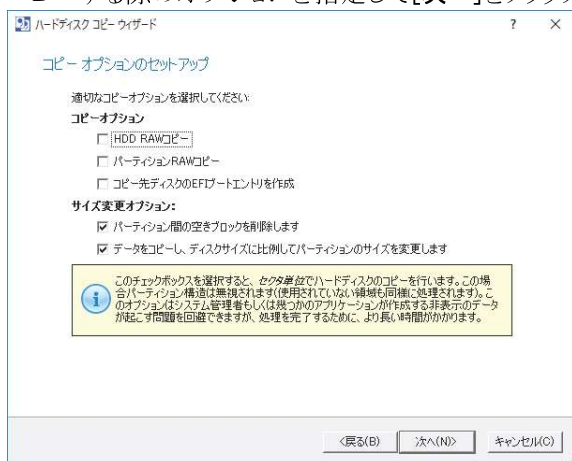
※ コピー先ハードディスクは注意して選択してください。選択したハードディスクのすべてのパーティション(内容)が削除されます。

第8章 ハードディスクのコピー

- ※ コピー先にパーティションがある場合には、以下の確認画面が表示されます。コピー元とコピー先を確認の上、[はい、コピー操作を続行します]にチェックを入れて[次へ]をクリックします。



- (5) コピーする際のオプションを指定して[次へ]をクリックします。



【コピー オプション】

① HDD RAW コピー

このオプションを選択すると、パーティション構造を意識せずにセクタ単位でハードディスク全体をコピーします。

※処理に時間がかかります。

※パーティションを拡大/縮小コピーすることはできません。

② パーティション RAW コピー

このオプションを選択すると、セクタ単位で各パーティションをコピーします(未割り当て領域はコピーされません)。

※処理に時間がかかります。

※パーティションを拡大/縮小コピーすることはできません。

【サイズ変更オプション】

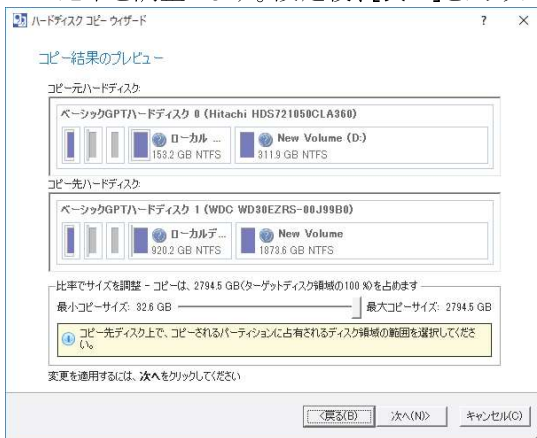
③ パーティション間の空きブロックを削除します

ハードディスク内の未割り当て領域を削除してコピーします。

④ データをコピーし、ディスクサイズに比例してパーティションのサイズを変更します

コピー先ハードディスクのサイズに合わせて、パーティションを自動拡大、縮小します。

(6) プレビュー画面が表示されます。サイズを調整したい場合、スライダーで比率を調整します。設定後、[次へ]をクリックします。

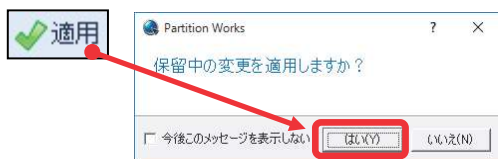


第8章 ハードディスクのコピー

(7) 以下の画面が表示されます。**[完了]**をクリックします。



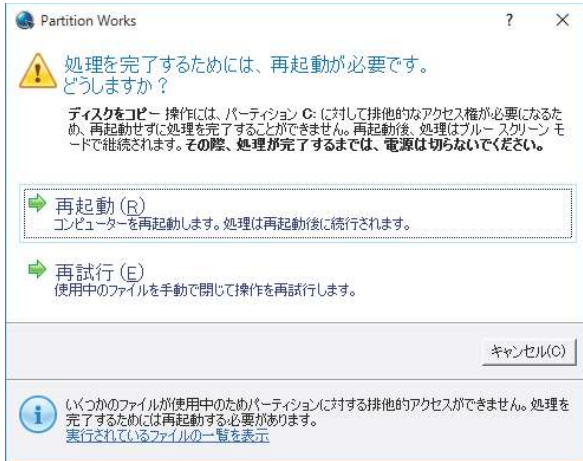
(8) コピーを開始するには、画面上の**[適用]**ボタンをクリックし、確認画面で、**[はい]**をクリックします。



(9) コピーが開始されます。



※コピー処理の内容によっては、コピーが開始されずに、以下の画面が表示されます。



[再起動]をクリックすると、システムが再起動され、Windows が起動する際に、以下の画面が表示されコピーが実行されます。停止する場合には、[ESC]キーを押してください。

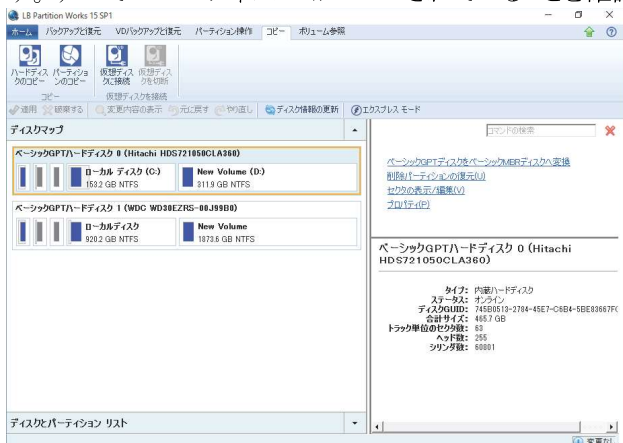
```

Loading LB Engine
Copyright 1994-2015 Paragon Software GmbH. All rights reserved.
Please wait ...

Flushing system buffers, please wait.....
Checking Volume ...
Type of the filesystem is NTFS.
Journal is not replayed 'cause read-only.
Volume label is: .
Verifying 106496 records ...
Verifying 10434 file(s) with EAs...
Verifying 22955 folders ...
Elapsed: 00:01:49 To finish: 00:02:02 47%
```

第8章 ハードディスクのコピー

- (10) コピーが完了したら[閉じる]をクリックします。メイン画面が表示されます。すべてのパーティションがコピーされていることを確認します。



- ※ コピー後は、PC をシャットダウンして、『8-2 コピー後の動作確認』の手順で、コピー元ハードディスクからの起動確認を実行してください。
- ※ コピー元、コピー先の両方のハードディスクを接続した状態で再起動しないでください。そのままの状態では再起動してしまうと、コピー元ハードディスクの構成情報が更新されるため、新しいハードディスクを外した状態(コピー元ハードディスクのみ接続された状態)では起動できなくなる場合があります。
- ※ Windows がインストールされた GPT ディスクをコピー後、コピー先のディスクから起動できない場合は、『12-1 ブートコレクタ』を参照の上、『EFI ブートパラメータの修正』行ってください。なお、この操作を行うと、一時的にコピー元のディスクから起動できなくなる可能性があるため、(コピー元のディスクに再度[EFI ブートパラメータの修正]を行うと起動できるようになります。) コピー後すぐにディスクを換装しない場合は、この操作は行わないでください。

第9章 パーティションの管理

LB パーティションワークス 15 には、パーティションを管理するための様々な機能があります。ここでは、よく使用される機能を中心にご紹介します。

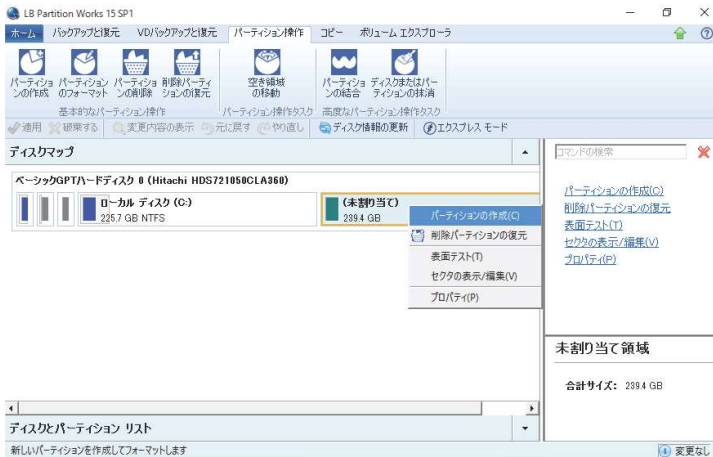
9-1 パーティションの作成

ここでは、未割り当て領域にパーティションを作成する方法をご紹介します。未割り当て領域のないハードディスクに新たにパーティションを作成する場合には、『6-3 C ドライブを小さくして新たに D ドライブを作成する』をご参照ください。

※ MBR ディスクの場合、基本パーティションは1台のドライブに最大4つまでに制限されます。

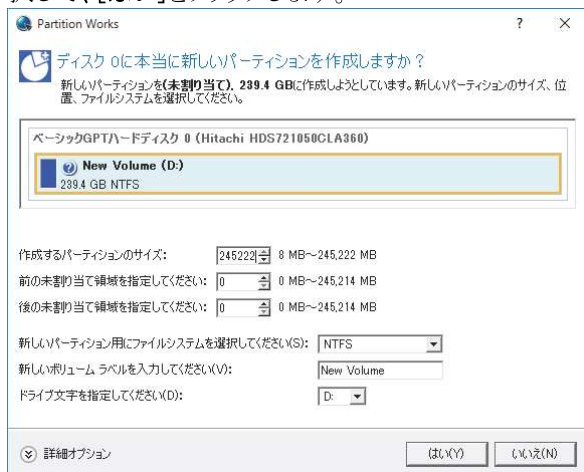
(1) LB パーティションワークス 15 を起動します。

(2) 未割り当て領域を右クリックし[パーティションの作成]を選択します。

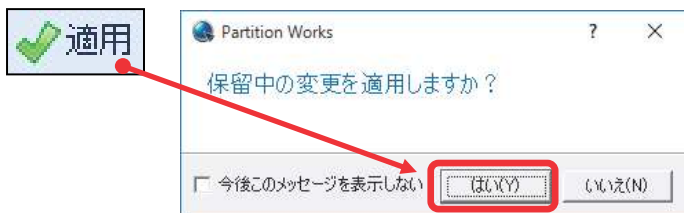


第9章 パーティションの管理

- (3) 以下の画面が表示されます。作成するパーティションの種類、サイズ、ファイルシステム(フォーマット形式)、ドライブ文字などを選択して、[はい]をクリックします。



- (4) 処理を開始するには、画面上の[適用]ボタンをクリックし、確認画面で、[はい]をクリックします。



- (5) パーティションが作成され、フォーマット処理が実行されます。処理が完了したら、[閉じる]をクリックします。

※ パーティションを作成しただけでは、ドライブ文字が割り当てられないため、Windows 上から参照することはできません。(3)でドライブ文字を指定するか、作成後に、『9-11 ドライブ文字の割り当て/削除』を参考に割り当てを行ってください。

9-2 パーティションのフォーマット

パーティションをフォーマットすると、パーティション内のすべてのデータが削除されます。操作時は十分にご注意ください。

- (1) LB パーティションワークス 15 を起動し、フォーマットしたいパーティションを右クリック[パーティションのフォーマット]を選択します。

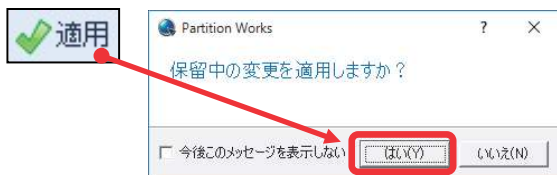


- (2) 以下の画面が表示されます。ファイルシステム、ボリュームラベルを指定して[フォーマット]をクリックします。



第9章 パーティションの管理

- (3) 処理を開始するには、画面上の[適用]ボタンをクリックし、確認画面で、[はい]をクリックします。

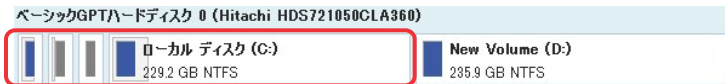


- (4) パーティションが作成され、フォーマット処理が実行されます。処理が完了したら、[閉じる]をクリックします。

9-3 パーティションのコピー

パーティションを個別にコピーすることも可能です。

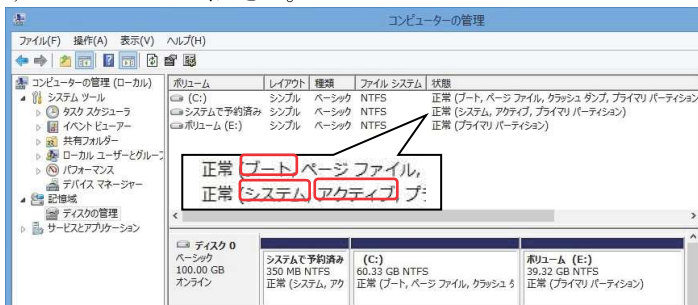
- ※ パーティション単位でコピーを行う場合、コピー先としてコピー元の実際の使用容量以上の未割り当て領域が必要です。
- ※ コピー先のディスクから Windows を起動したい場合は、ディスク単位でのコピーを推奨します。コピー先容量の関係等で、ディスク単位でのコピーができない場合にのみご利用下さい。



Windows がインストールされた GPT ディスクをパーティション単位でコピーする場合は、先頭の 3 つのパーティション(OS によっては 2 つ)と C ドライブをコピーしてください。

Windows がインストールされた MBR ディスクをコピーする場合は、[ディスクの管理]画面で状態を確認します。([ディスクの管理]画面の起動手順は『4-4』をご参照ください。)

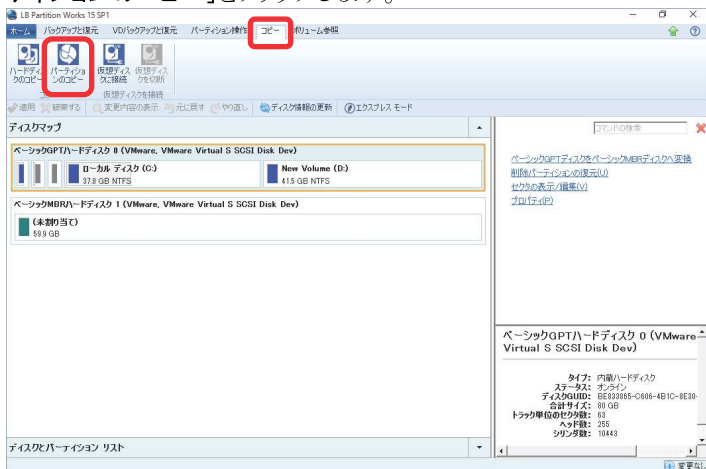
「状態」が[ブート][システム][アクティブ]になっているパーティションをすべてコピーしてください。



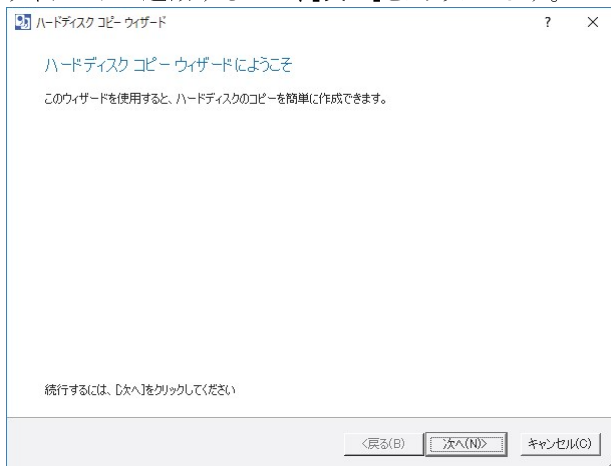
これは Windows 8 の画面での一例です。ここでは[C:]と、[システムで予約済み]のパーティションが[ブート][システム][アクティブ]になっているので、この2つのパーティションをコピーします。環境によっては、この画面に[システム]のパーティションがないこともあります。

第9章 パーティションの管理

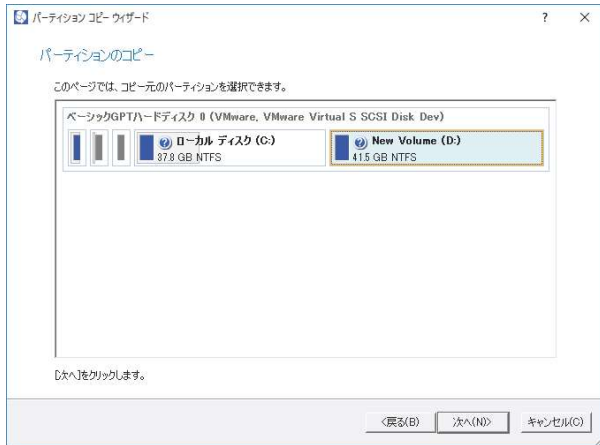
- (1) LB パーティションワークス 15 を起動し、「コピー」タブ内の[パーティションのコピー]をクリックします。



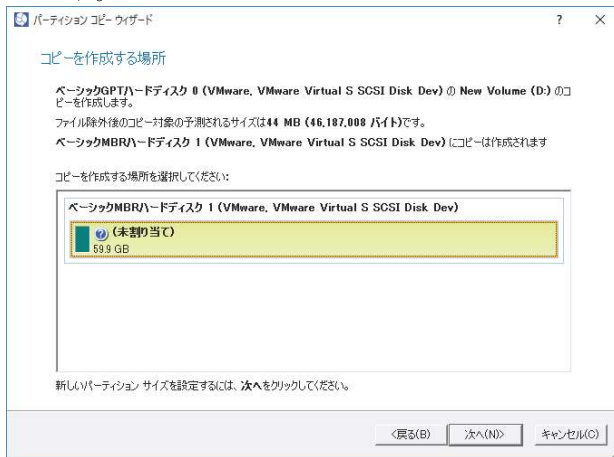
- (2) ウィザードが起動するので、[次へ]をクリックします。



- (3) コピー元のパーティションを選択し、[次へ]をクリックします。



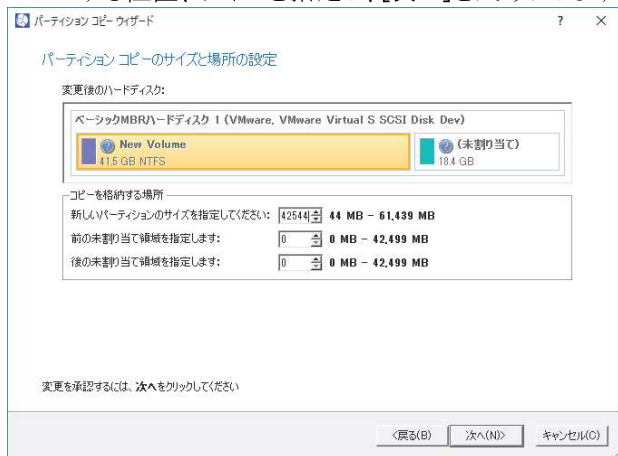
- (4) コピー先のディスク(未割り当て領域)を選択して、[次へ]をクリックします。



※ パーティションは未割り当て領域にのみコピーすることができます。

第9章 パーティションの管理

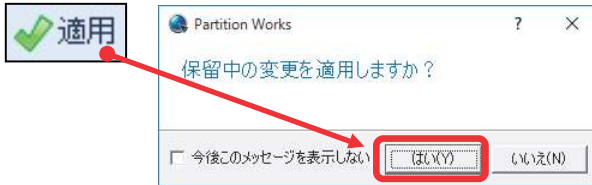
- (5) コピーする位置、サイズを指定し、[次へ]をクリックします。



- (6) [完了]をクリックして、ウィザードを終了します。



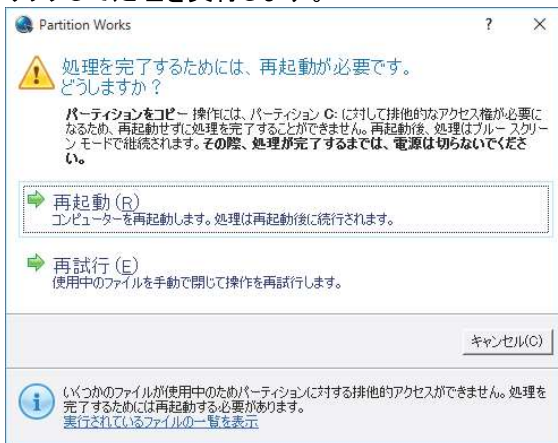
- (7) コピーを開始するには、画面上の[適用]ボタンをクリックして、確認画面で、[はい]を選択します。



- (8) パーティションのコピーが実行されます。終了したら、[閉じる]ボタンをクリックします。

※ コピー先のパーティションには、ドライブ文字が割り当てられていません。Windows 上で参照する場合には、ドライブ文字の割り当てを実行してください。操作方法は、『9-11 ドライブ文字の割り当て/削除』を参照してください。

※ パーティションの利用状況によっては、以下の画面が表示され、再起動が促される場合があります。その場合には、[再起動]をクリックして処理を実行します。



第9章 パーティションの管理

再起動後、OS が起動する前に処理が行われます。

```
Loading LB Engine
Copyright 1994-2015 Paragon Software GmbH. All rights reserved.
Please wait ...

Flushing system buffers, please wait.....
Checking Volume ...
Type of the filesystem is NTFS.
Journal is not replayed 'cause read-only.
Volume label is: .
Verifying 106496 records ...
Verifying 10434 file(s) with EAs...
Verifying 22955 folders ...
Elapsed: 00:01:49 To finish: 00:02:02 47%
```

※ 処理中は絶対に電源を切らないでください。

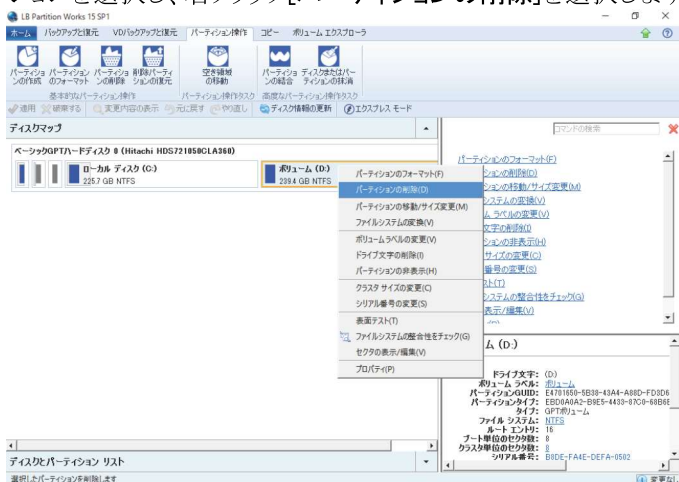
処理が完了すると OS が起動します。LB パーティションワークス 15 を起動して、処理が正しく行われているか確認してください。

9-4 パーティションの削除/抹消

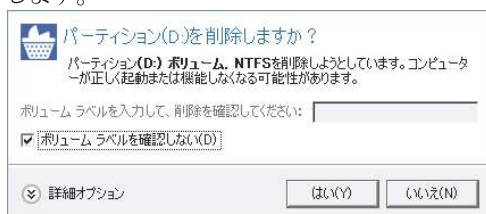
パーティションを削除すると、パーティション内のすべてのデータが削除されます。操作時には十分ご注意ください。

通常のパーティションの削除のほか、ディスクを廃棄する場合など、データを復元できないように抹消することも可能です。

- (1) LB パーティションワークス 15 を起動します。削除したいパーティションを選択し、右クリック[パーティションの削除]を選択します。

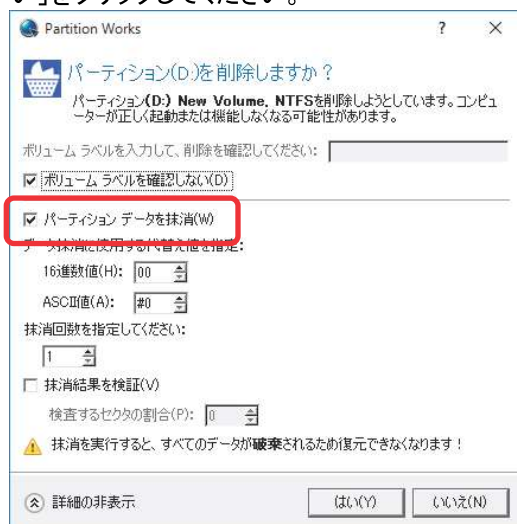


- (2) 確認画面が表示されます。ボリューム ラベルを入力するか、[ボリューム ラベルを確認しない]にチェックを入れて、[はい]をクリックします。



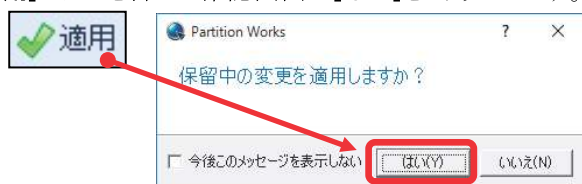
第9章 パーティションの管理

- ※ パーティションデータを抹消したい場合は、「詳細オプション」をクリックし、「パーティション データを抹消」にチェックを入れて、「はい」をクリックしてください。



抹消回数を増やすと、より強固な抹消になりますが、処理に時間がかかります。

- (3) 変更後の結果を確認し、処理を実行する場合には、画面上の[適用]ボタンを押して確認画面で[はい]をクリックします。



- (4) パーティションの削除/抹消が実行されます。終了したら[閉じる]ボタンをクリックします。パーティションが削除されたことを確認してください。

9-5 基本パーティションのサイズ変更/移動

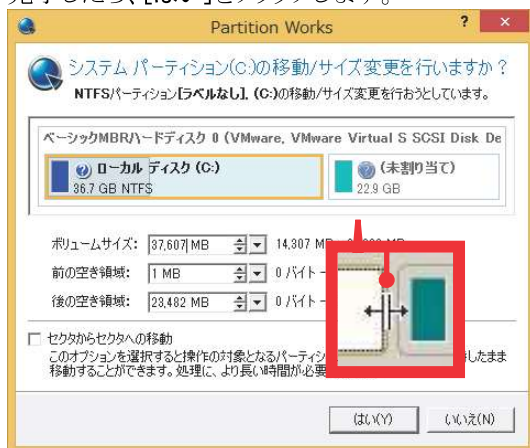
パーティションの拡大、縮小、移動を行う手順をご紹介します。

※ 操作前に、必ず『第4章 パーティション操作前の注意事項』をご確認ください。

- (1) LB パーティションワークス 15 を起動します。サイズ変更、移動したいパーティションを右クリックし、[パーティションの移動/サイズ変更]を選択します。

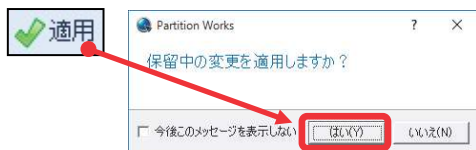


- (2) パーティションの境界をドラッグしてサイズを変更します。設定が完了したら、[はい]をクリックします。



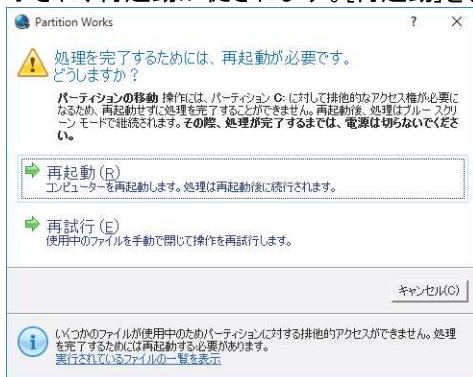
第9章 パーティションの管理

- (3) 変更後の結果を確認し、処理を実行する場合には、画面上の[適用]ボタンを押して確認画面で[はい]をクリックします。



- (4) パーティションの移動/サイズ変更が実行されます。終了したら[閉じる]ボタンをクリックします。処理が正しく行われているか確認してください。

※ Windows 上で、システムパーティション(OS がインストールされているパーティション)の処理を行う場合などは、以下の画面が表示され、再起動が促されます。[再起動]をクリックします。



LB パーティションワークス 15 利用ガイド

再起動後、OS が起動する前に処理が行われます。

```
Loading LB Engine
Copyright 1994-2015 Paragon Software GmbH. All rights reserved.
Please wait ...

Flushing system buffers, please wait.....
Checking Volume ...
Type of the filesystem is NTFS.
Journal is not replayed 'cause read-only.
Volume label is: .
Verifying 106496 records ...
Verifying 10434 file(s) with EAs...
Verifying 22955 folders ...
Elapsed: 00:01:49 To finish: 00:02:02 47%
```

※ 処理中は絶対に電源を切らないでください。

処理が完了すると OS が起動します。LB パーティションワークス 15 を起動して、処理が正しく行われているか確認してください。

第9章 パーティションの管理

9-6 拡張パーティションの移動/サイズ変更

拡張パーティションの拡大、縮小、移動を行う手順をご紹介します。

※ 操作前に、必ず『第4章 パーティション操作前の注意事項』をご確認ください。

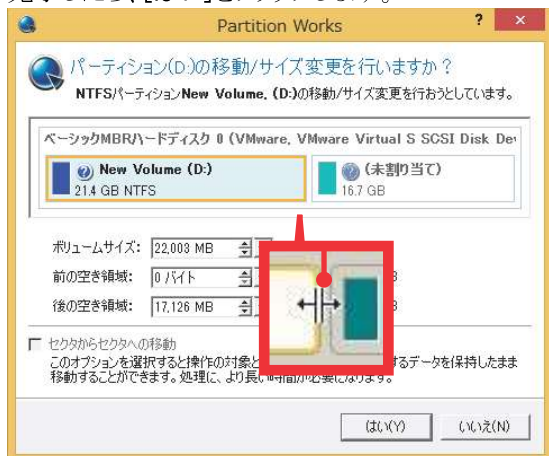
※ この操作は MBR ディスクでのみ実行できます。GPT ディスクには基本/拡張パーティションの区別はありません。

拡張パーティションの移動やサイズ変更では、いくつかの注意点があります。まず、拡張パーティションの全領域が論理パーティションに割り当てられている場合、拡張パーティションのサイズを縮小することはできません。縮小する場合、まず論理パーティションのサイズを小さくしてから、拡張パーティションを小さくします。論理パーティションのサイズ変更は、前節の基本パーティションの方法と同じです。また、拡張パーティションの前か後ろに未割り当て領域がなければ、拡張パーティションを拡大することはできません。

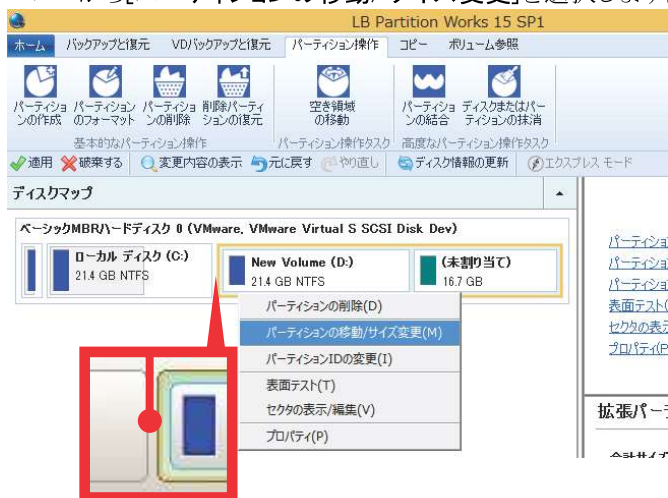
- (1) LB パーティションワークス 15 を起動します。縮小したい拡張パーティション内にある論理パーティションを右クリックして、[パーティションの移動/サイズ変更]を選択します。



- (2) パーティションの境界をドラッグしてサイズを変更します。設定が完了したら、[はい]をクリックします。

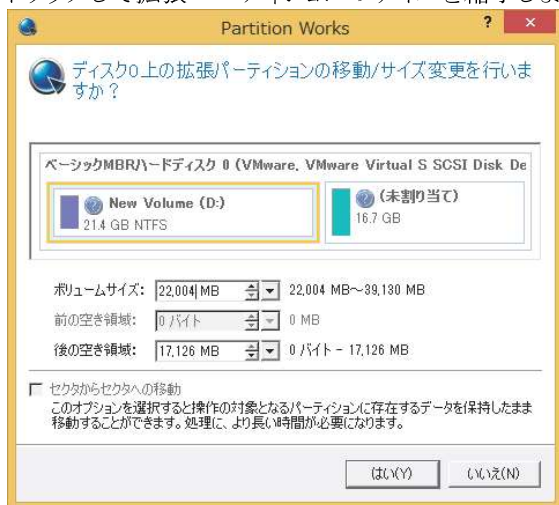


- (3) 拡張パーティション(水色の部分)を選択して、[パーティション]メニューから[パーティションの移動/サイズ変更]を選択します。



第9章 パーティションの管理

- (4) ドラッグして拡張パーティションのサイズを縮小します。



- (5) 変更後の結果を確認し、処理を実行する場合には、画面上の[適用]ボタンを押して確認画面で[はい]をクリックします。



- (6) パーティションの移動/サイズ変更が実行されます。終了したら[閉じる]ボタンをクリックします。処理が正しく行われているか確認してください。

9-7 パーティションのアクティブ/非アクティブ

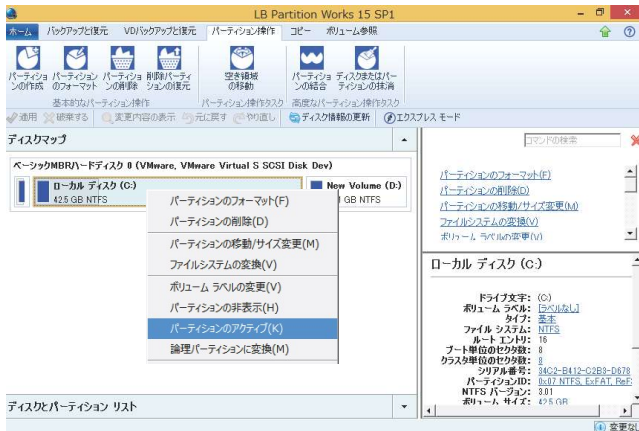
ここでは、パーティションのアクティブ/非アクティブの設定方法についてご紹介します。コピー先ハードディスクの起動パーティションはアクティブに設定されている必要があります。

※ 1 台のハードディスクに、2 つ以上のアクティブパーティションが存在すると、OS が起動できなくなる可能性があります。

※ この操作は MBR ディスクでのみ実行できます。GPT ディスクでは実行できません。

(1) LB パーティションワークス 15 を起動します。

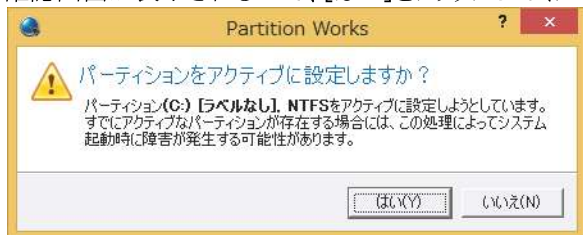
(2) アクティブ/非アクティブにしたいパーティションを右クリックし、[パーティションのアクティブ/非アクティブ]を選択します。



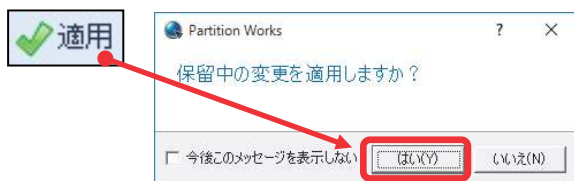
※ 選択したパーティションがアクティブ状態の場合には、[パーティションの非アクティブ]が選択可能になり、非アクティブ状態の場合には、[パーティションのアクティブ]が選択可能になります。

第9章 パーティションの管理

- (3) 確認画面が表示されるので、**[はい]**をクリックしてください。



- (4) 変更後の結果を確認し、処理を実行する場合には、画面上の**[適用]**ボタンを押して確認画面で**[はい]**をクリックします。



- (5) 処理が実行されます。処理が終了したら、**[閉じる]**ボタンをクリックしてパーティションの**[アクティブ]**の箇所を確認してください。

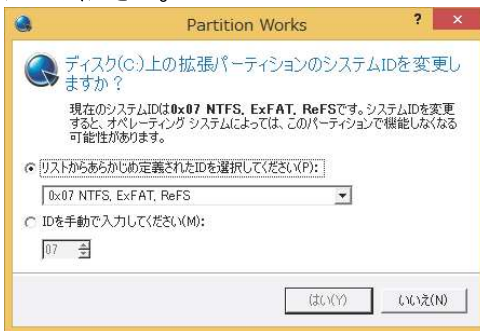
9-8 パーティション ID の変更

パーティション ID の変更方法についてご紹介します。パーティション ID とは、パーティションに適用されているファイルシステムを識別するためのデータです。

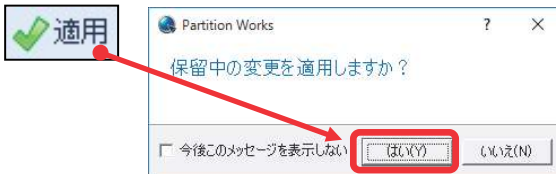
※ 変更によって OS が起動しなくなる可能性がありますので、操作には十分にご注意ください。

※ この操作は MBR ディスクでのみ実行できます。GPT ディスクでは実行できません。

- (1) LB パーティションワークス 15 を起動します。
- (2) パーティション ID を変更したいパーティションを右クリックして[パーティション ID の変更]を選択します。
- (3) 変更したい ID をリストから選択するか、直接入力して[はい]をクリックしてください。



- (4) 変更後の結果を確認し、処理を実行する場合には、画面上の[適用]ボタンを押して確認画面で[はい]をクリックします。



- (5) 処理が終了したら、[閉じる]ボタンをクリックします。

第9章 パーティションの管理

9-9 パーティションタイプの変換

ここでは、パーティションのタイプを変換する方法をご紹介します。この機能を使用すると、基本パーティションを論理パーティションに、論理パーティションを基本パーティションに変更することができます。

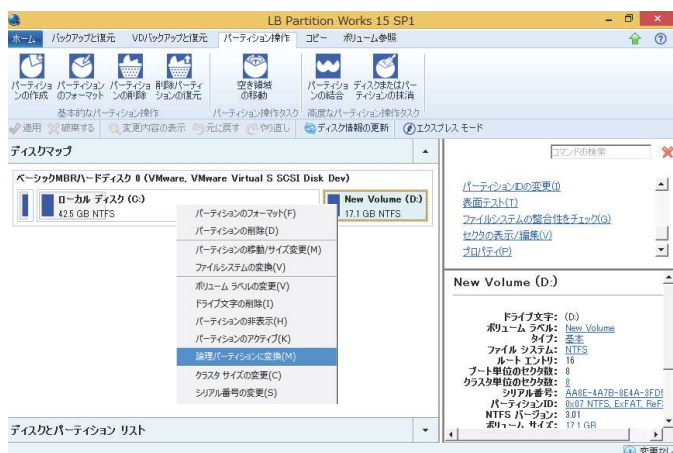
※ 操作前に、必ず『第4章 パーティション操作前の注意事項』をご確認ください。

※ OS がインストールされているパーティションの変換は行わないでください。

※ この操作は MBR ディスクでのみ実行できます。GPT ディスクでは実行できません。

(1) LB パーティションワークス 15 を起動します。

(2) タイプを変換したいパーティションを右クリックして、[論理/基本パーティションに変換]を選択します。

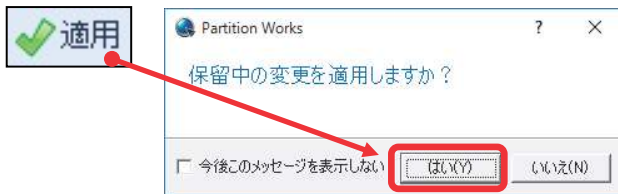


※ パーティションが基本パーティションの場合には、[論理パーティションに変換]が、論理パーティションの場合には、[基本パーティションに変換]がアクティブになります。

- (3) 確認画面が表示されるので、[はい]をクリックします。



- (4) 変更後の結果を確認し、処理を実行する場合には、画面上の[適用]ボタンを押して確認画面で[はい]をクリックします。



- (5) 処理が実行されます。終了したら[閉じる]ボタンをクリックします。
結果を確認してください。

※ 処理には時間がかかります。処理中は絶対に電源を切らないでください。

第9章 パーティションの管理

9-10 ファイルシステムの変換

ここでは、パーティションのファイルシステムを変換する方法をご紹介します。この機能を使用すると、NTFS から FAT32 へ、FAT32 から NTFS へ変換を行うことができます。

※ 操作前に、必ず『第4章 パーティション操作前の注意事項』をご確認ください。

※ OS がインストールされているパーティションの変換は OS が起動できなくなる可能性があるため、お勧めできません。

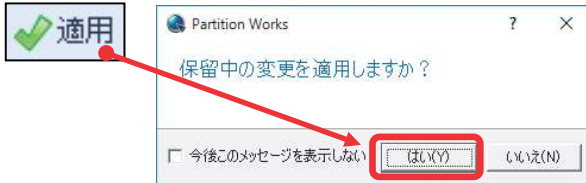
- (1) LB パーティションワークス 15 を起動します。
- (2) ファイルシステムを変換したいパーティションを右クリックして、[ファイルシステムの変換]を選択します。



- (3) 変換するファイルシステムを選択して、[変換]をクリックします。



- (4) 変更後の結果を確認し、処理を実行する場合には、画面上の[適用]ボタンを押して確認画面で[はい]をクリックします。



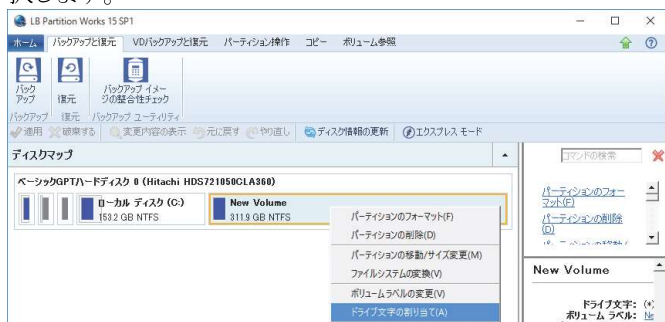
- (5) 処理が実行されます。終了したら[閉じる]ボタンをクリックします。結果を確認してください。
- ※ 処理には時間がかかります。処理中は絶対に電源を切らないでください。

第9章 パーティションの管理

9-11 ドライブ文字の割り当て/削除

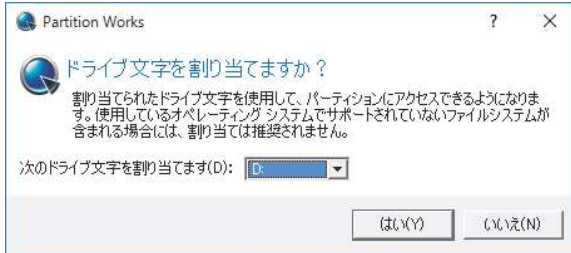
ここでは、ドライブ文字の割り当て/削除方法についてご紹介します。
作成したパーティションに、ドライブ文字を割り当てることで、
Windows 上から参照できるようになります。

- (1) LB パーティションワークス 15 を起動します。
- (2) ドライブ文字を割り当てたい/削除したいパーティションを選択し、
[パーティション]メニューから[ドライブ文字の割り当て/削除]を選択します。

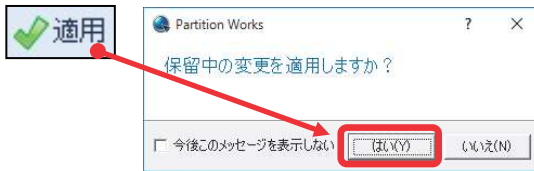


※ 選択したパーティションにドライブ文字が割り当てられていない場合には、[ドライブ文字の割り当て]がアクティブになり、
割り当てられている場合には、[ドライブ文字の削除]がアクティブになります。

- (3) 表示された画面で割り当てたいドライブ文字を選択し、[OK]をクリックします。



- (4) 変更後の結果を確認し、処理を実行する場合には、画面上の[適用]ボタンを押して確認画面で[はい]をクリックします。



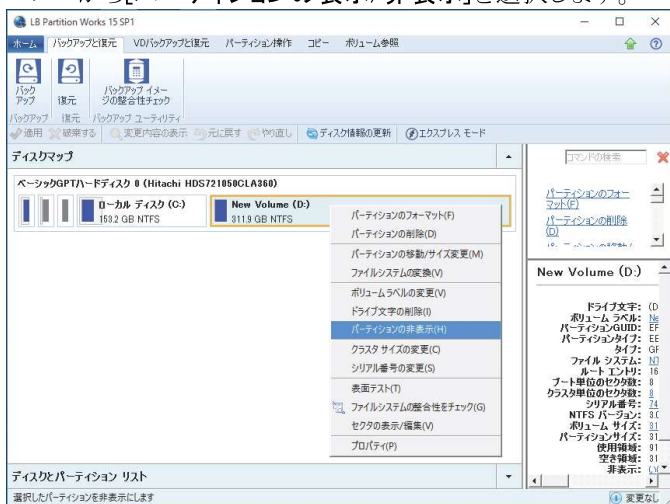
- (5) 処理が実行されます。終了したら[閉じる]ボタンをクリックします。パーティションにドライブ文字を割り当てた場合には、エクスプローラやマイ コンピュータから参照できるか確認します。

第9章 パーティションの管理

9-12 パーティションの表示/非表示

ここでは、パーティションの表示/非表示の設定方法についてご紹介します。パーティションを非表示にすると、Windows 上から参照できなくなります。例えばバックアップ用にコピーしたパーティションを OS から参照できなくしたい場合などに使用します。

- (1) LB パーティションワークス 15 を起動します。
- (2) 表示/非表示したいパーティションを選択して、[パーティション]メニューから[パーティションの表示/非表示]を選択します。

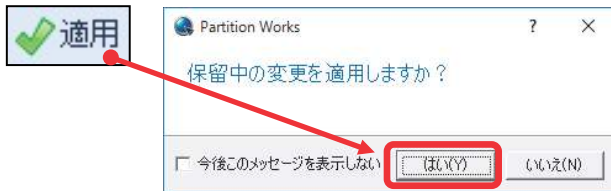


※選択したパーティションが表示状態の場合には、[パーティションの非表示]がアクティブになり、非表示状態の場合には、[パーティションの表示]がアクティブになります。

- (3) 確認画面が表示されるので、**[はい]**をクリックしてください。



- (4) 変更後の結果を確認し、処理を実行する場合には、画面上の**[適用]**ボタンを押して確認画面で**[はい]**をクリックします。



- (5) 処理が実行されます。終了したら**[閉じる]**ボタンをクリックします。
パーティションの**[非表示]**の箇所を確認してください。

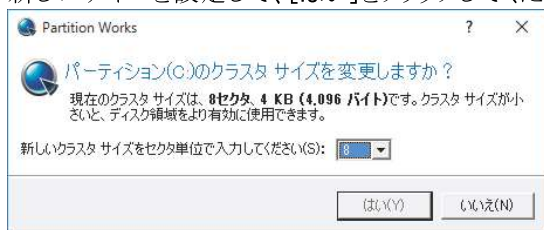
第9章 パーティションの管理

9-13 クラスタサイズの変更

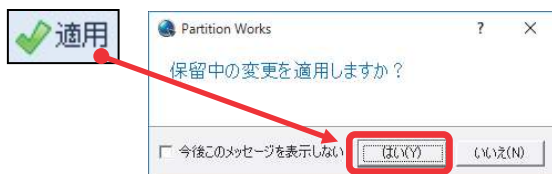
クラスタ/ブート/ルートサイズの変更方法についてご紹介します。

※ 変更によって OS が起動しなくなる可能性がありますので、操作には十分にご注意ください。

- (1) LB パーティションワークス 15 を起動します。
- (2) 変更したいパーティションを選択して、[クラスタサイズの変更]を選択します。
- (3) 新しいサイズを設定して、[はい]をクリックしてください。



- (4) 変更後の結果を確認し、処理を実行する場合には、画面上の[適用]ボタンを押して確認画面で[はい]をクリックします。

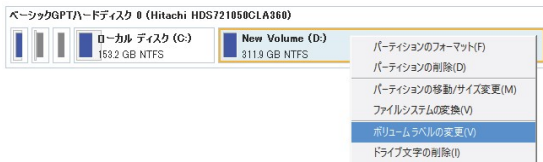


- (5) 処理が終了したら、[閉じる]ボタンをクリックします。

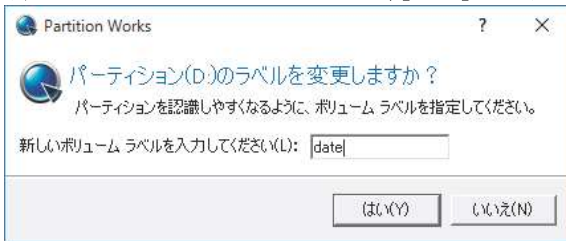
9-14 ボリュームラベルの変更

ボリューム ラベルの設定方法についてご紹介します。ボリュームラベルを入力することで、パーティションを認識しやすくなります。

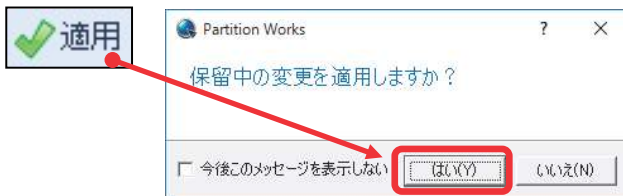
- (1) LB パーティションワークス 15 を起動します。
- (2) ボリューム ラベルを設定したいパーティションを右クリックし、[ボリュームラベルの変更]を選択します。



- (3) 新しいボリュームラベルを入力して、[はい]をクリックしてください。



- (4) 変更後の結果を確認し、処理を実行する場合には、画面上の[適用]ボタンを押して確認画面で[はい]をクリックします。



- (5) 処理が終了したら、[閉じる]ボタンをクリックします。

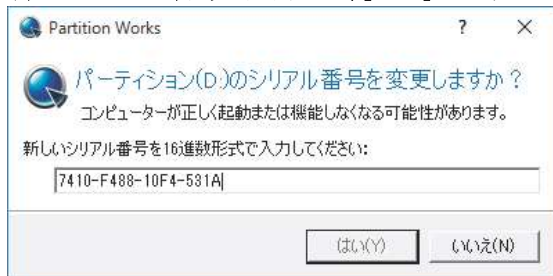
第9章 パーティションの管理

9-15 シリアル番号の変更

パーティションのシリアル番号の変更方法についてご紹介します。シリアル番号は、パーティションのフォーマット時に生成され、ブートセクタに保存されます。

※ 変更によって OS が起動しなくなる可能性がありますので、操作には十分にご注意ください。

- (1) LB パーティションワークス 15 を起動します。
- (2) シリアル番号を変更したいパーティションを右クリックして、[シリアルの変更]を選択します。
- (3) 新しいシリアル番号を入力して、[はい]をクリックしてください。



- (4) 変更後の結果を確認し、処理を実行する場合には、画面上の[適用]ボタンを押して確認画面で[はい]をクリックします。

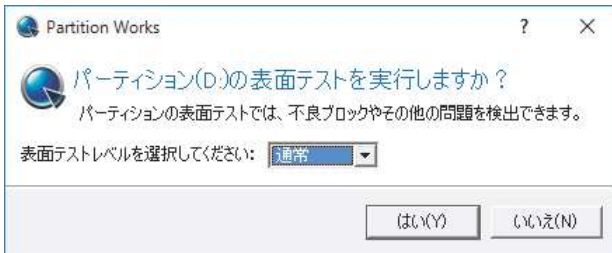


- (5) 処理が終了したら、[閉じる]ボタンをクリックします。

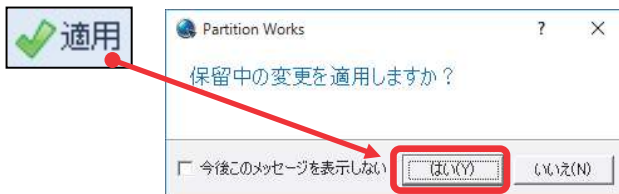
9-16 表面テスト

表面テストの実行方法についてご紹介します。パーティションや未割り当て領域に表面（サーフェス）テストを実行して、パーティションの各セクタに障害が発生していないか確認することができます。

- (1) LB パーティションワークス 15 を起動します。
- (2) 表面テストを実行したいパーティションを右クリックして、**[表面テスト]**を選択します。
- (3) レベルを選択して**[はい]**をクリックしてください。



- (4) 変更後の結果を確認し、処理を実行する場合には、画面上の**[適用]**ボタンを押して確認画面で**[はい]**をクリックします。



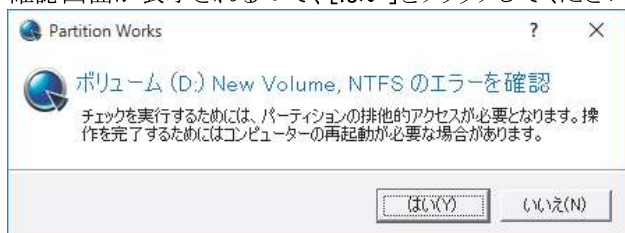
- (5) 処理が終了したら、**[閉じる]**ボタンをクリックします。

第9章 パーティションの管理

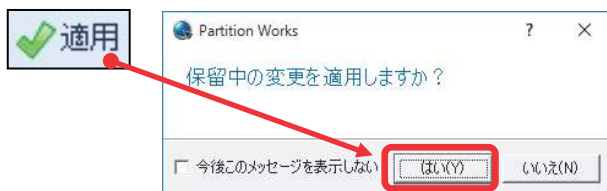
9-17 ファイルシステムの整合性チェック

ファイルシステムの整合性チェックの実行方法についてご紹介します。
ファイルシステムに問題がないか確認することができます。

- (1) LB パーティションワークス 15 を起動します。
- (2) 整合性チェックを実行したいパーティションを右クリックして、**[ファイルシステムの整合性チェック]**を選択します。
- (3) 確認画面が表示されるので、**[はい]**をクリックしてください。



- (4) 変更後の結果を確認し、処理を実行する場合には、画面上の**[適用]**ボタンを押して確認画面で**[はい]**をクリックします。



- (5) 処理が終了したら、**[閉じる]**ボタンをクリックします。

9-18 パーティションの結合

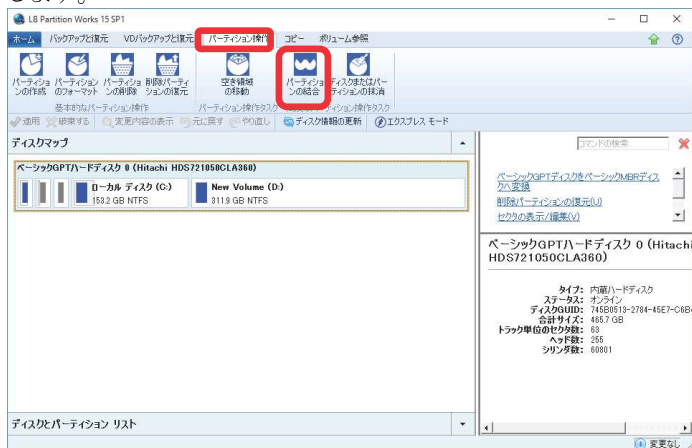
この機能を使用すると、隣り合った 2 つのパーティションを結合することができます。パーティション B をパーティション A に結合する場合、パーティション B 中にあるファイルは、パーティション A 中の 1 つのフォルダに移動されます。ただし、両方のパーティションのタイプ（基本／論理）が同じである必要があります。

※システムドライブを結合すると OS が起動できなくなりますので、拡大する対象、結合する対象は十分に注意して選択してください。

※操作前に、必ず『第4章 パーティション操作前の注意事項』をご確認ください。

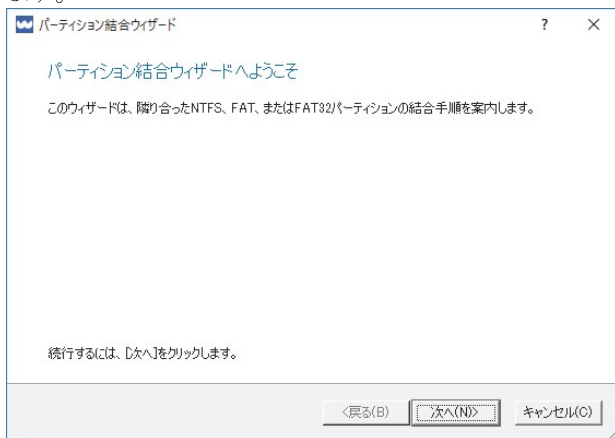
※C ドライブと D ドライブを結合する際、D ドライブに必要なデータが無い場合は「パーティションの結合ウィザード」を使用する必要はありません。D ドライブを削除して C ドライブを拡大してください。操作手順は「9-4」と「9-5」を参照してください。

- (1) LB パーティションワークス 15 を起動します。メイン画面が表示されたら、「パーティション操作」タブの[パーティションの結合]をクリックします。

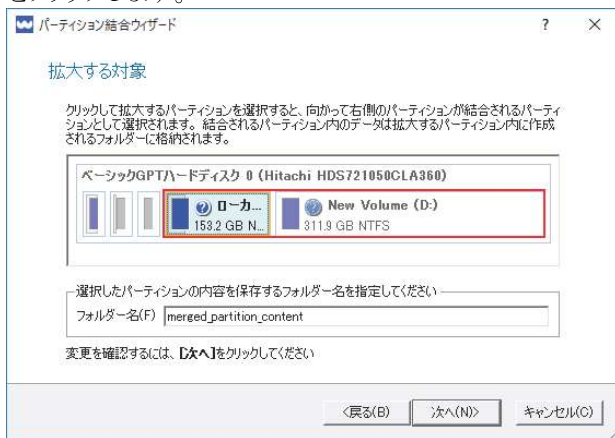


第9章 パーティションの管理

- (2) 「パーティション結合ウィザード」が起動するので、[次へ]をクリックします。

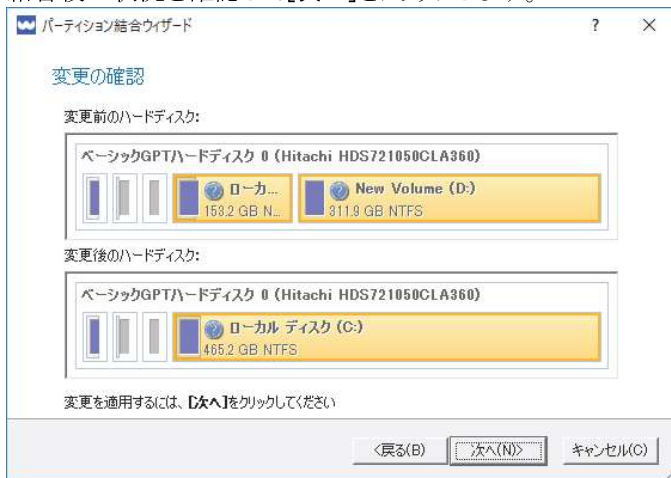


- (3) 拡大したいパーティションを選択します。赤枠で囲まれた 2 つのパーティションが操作対象になります。枠の右側が結合されるパーティションで、左側が結合先です。パーティションを選択したら[次へ]をクリックします。

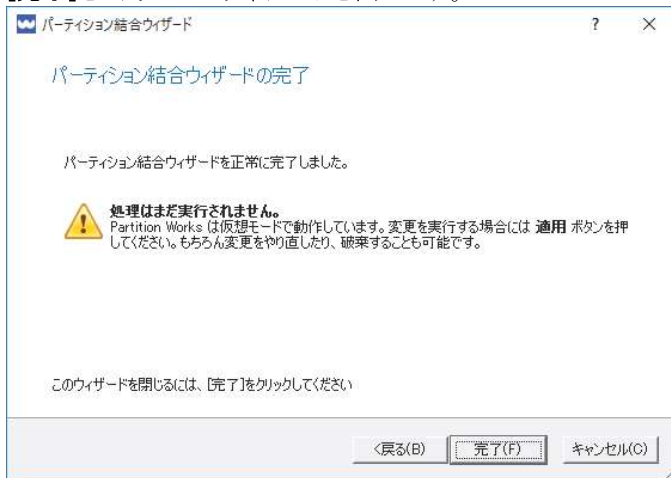


- ※ フォルダ名は、半角英数字で入力してください。
- ※ 赤枠の左側のパーティションを、右側のパーティションに結合することはできません。

- (4) 結合後の状況を確認して[次へ]をクリックします。

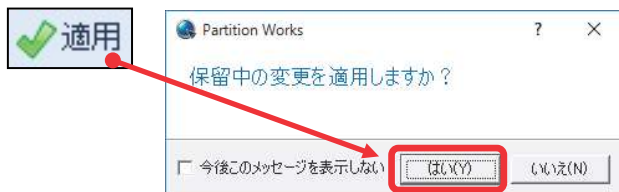


- (5) [完了]をクリックしてウィザードを閉じます。

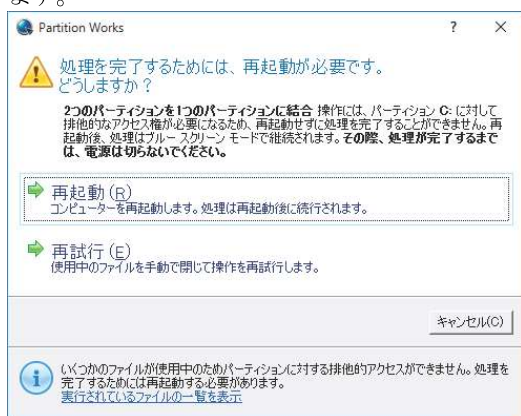


第9章 パーティションの管理

- (6) 処理を開始するには、画面上の[適用]ボタンをクリックし、確認画面で、[はい]をクリックします。



以下の画面が表示され、再起動が促されます。[再起動]をクリックします。



※ OS がインストールされているドライブを操作する場合には、再起動が必要になります。

※ CD/USB で起動して操作している場合には、この画面は表示されずに、そのまま処理が実行されます。

LB パーティションワークス 15 利用ガイド

- (7) 再起動時に、パーティションの結合処理が行われます。

```
Loading LB Engine
Copyright 1994-2015 Paragon Software GmbH. All rights reserved.
Please wait ...

Flushing system buffers, please wait.....
Checking Volume ...
Type of the filesystem is NTFS.
Journal is not replayed 'cause read-only.
Volume label is: .
Verifying 106496 records ...
Verifying 10434 file(s) with EAs...
Verifying 22955 folders ...
Elapsed: 00:01:49 To finish: 00:02:02 47%
```

※ 処理中は絶対に電源を切らないでください。

- (8) 処理が完了するとOSが起動します。LB パーティションワークス 15 を起動して、処理が正しく行われているか確認してください。また、エクスプローラ等で結合先フォルダの内容を確認してください。

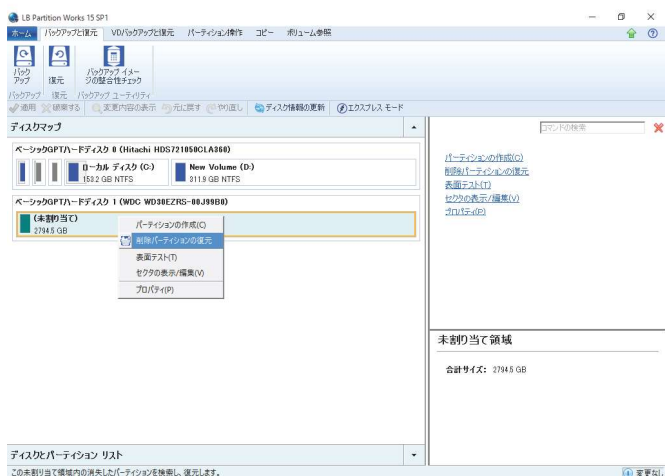
第9章 パーティションの管理

9-19 削除パーティションの復元

ここでは、削除パーティションの復元方法についてご紹介します。誤ってパーティションを削除してしまった場合などに、このウィザードを使用して復元することができます。

※ 復元を保証するものではありません。状況によっては、復元できない可能性もあります。

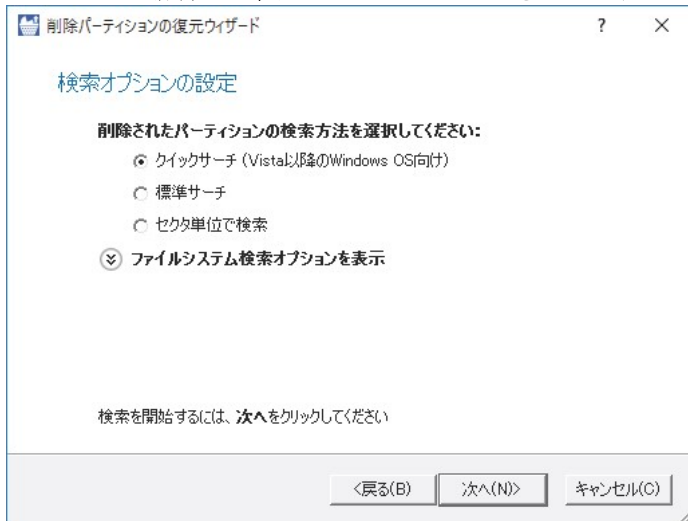
- (1) LB パーティションワークス 15 を起動します。メイン画面が表示されたら、未割り当て領域を右クリックして、[削除パーティションの復元]を選択します。



- (2) 「削除パーティションの復元ウィザード」が表示されるので、[次へ]をクリックします。



- (3) 検索方法を指定します。[クイックサーチ]でパーティションが見つからなかった場合には、別の2つのオプションもお試しいください。

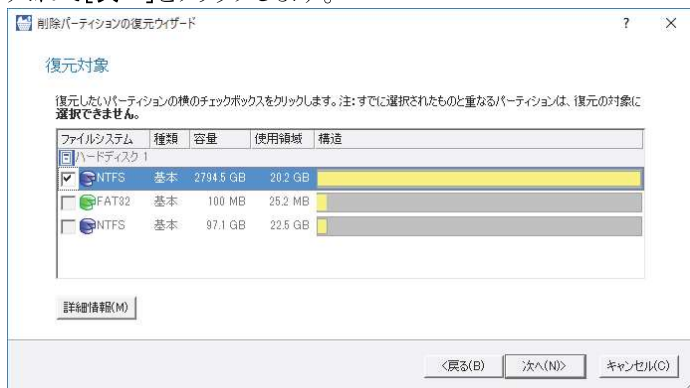


第9章 パーティションの管理

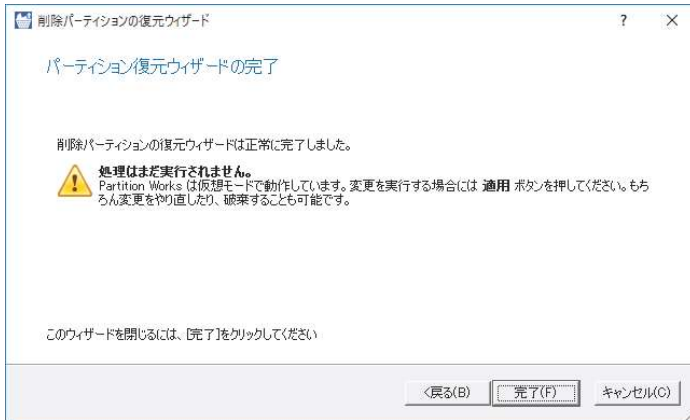
- (4) パーティションの検索が開始されます。



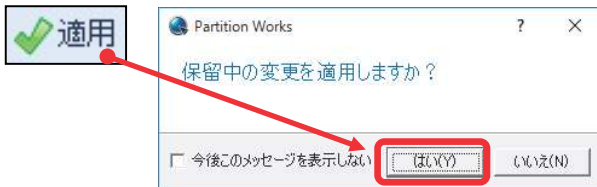
- (5) 検索結果が表示されます。復元したいパーティションにチェックを入れて[次へ]をクリックします。



- (6) [完了]をクリックしてウィザードを終了します。



- (7) 復元後の結果を確認し、処理を実行する場合には、画面上の[適用]ボタンを押して確認画面で[はい]をクリックします。



- (8) 処理が実行されます。終了したら、[閉じる]ボタンをクリックします。
復元されたパーティションを確認してください。

※ 復元されたパーティションにはドライブ文字が割り当てられていません。パーティションにドライブ文字を割り当てないと Windows 上から参照することはできません。ドライブ文字の割り当て方法は、『9-11 ドライブ文字の割り当て/削除』を参照してください。

第10章 ハードディスクの管理

第10章 ハードディスクの管理

LB パーティションワークス 15 には、ハードディスクを管理するための機能もあります。ここでは、よく使用される機能を中心にご紹介します。

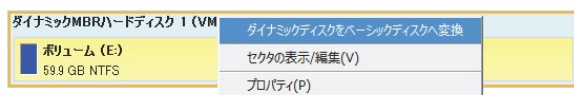
10-1 ベーシックディスクへの変換

ここでは、ダイナミックディスクをベーシックディスクに変換する手順をご紹介します。LB パーティションワークス 15 では、ダイナミックディスクのボリュームを操作できませんが、ベーシックディスクに変換すれば操作できるようになります。

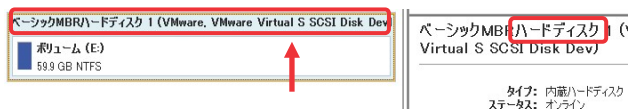
※ サポートするのは、シンプルボリュームのダイナミックディスクのみとなります。

(1) LB パーティションワークス 15 を起動します。

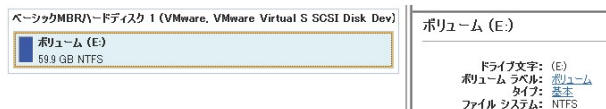
(2) 変換したいハードディスクを右クリックして、[ダイナミックディスクをベーシックディスクへ変換]を選択します。



※ ハードディスクを選択するにはこの辺りをクリックしてください。右側の欄に「ハードディスク」と表示されます。



パーティション内をクリックすると、ハードディスクではなく、パーティションが選択されます。下記は E ドライブが選択された状態です。

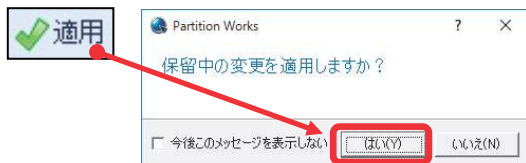


- (3) 確認画面が表示されますので、**[変換]**をクリックします。



- ※ パーティションが複数存在する場合には、基本パーティションに割り当てる数を指定することができます。

- (4) 処理を開始するには、画面上の**[適用]**ボタンをクリックし、確認画面で、**[はい]**をクリックします。



- (5) 処理が実行されます。

第10章 ハードディスクの管理

10-2 GPT→MBR、MBR→GPT ディスクへの変換

ハードディスクの形式を GPT→MBR、または MBR→GPT 形式に変換する手順をご案内します。

※ この操作は、OS がインストールされたハードディスクに対しては行わないでください。OS が起動できなくなります。

※ MBR ディスクでは、作成できる基本パーティションは 4 つまでです。GPT ディスクから MBR ディスクに変換する際、4 つ以上のパーティションがある場合、4 つ目以降のパーティションは論理パーティションになります。

(1) 変換したいハードディスクを右クリックして、[GPT 形式へ変換]または[ベーシック GPT ディスクをベーシック MBR ディスクへ変換]をクリックします。



- (2) 確認メッセージが表示されるので、[はい]または[変換]をクリックします。

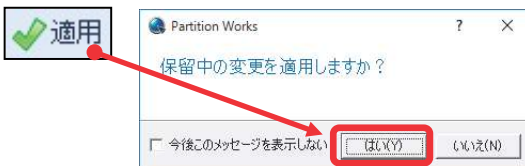
【MBR ディスクを GPT ディスクに変換する場合】



【GPT ディスクを MBR ディスクに変換する場合】



- (3) 変更後の結果を確認し、処理を実行する場合には、画面上の[適用]ボタンを押して確認画面で[はい]をクリックします。



ディスクの変換が行われます。

第11章 CD/USB から起動し操作する

10-3 MBR の更新

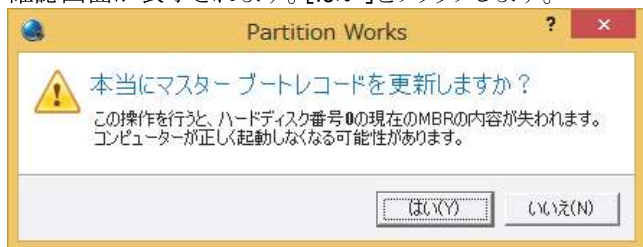
ここでは、MBR(マスター ブート レコード)を更新する手順をご紹介します。現在のMBRに書き込まれているブートコードを、標準のブートストラップコードに書き換えることができます。

※ この操作は MBR ディスクでのみ実行できます。GPT ディスクでは実行できません。

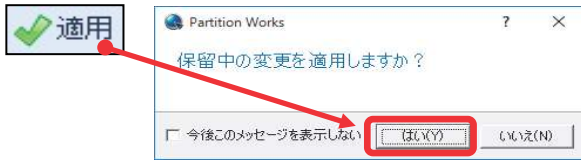
- (1) LB パーティションワークス 15 を起動します。
- (2) 更新したいハードディスクを右クリックして、[MBR の更新]を選択します。



- (3) 確認画面が表示されます。[はい]をクリックします。



- (4) 変更後の結果を確認し、処理を実行する場合には、画面上の[適用]ボタンを押して確認画面で[はい]をクリックします。



- (5) 処理が実行されます。終了したら[閉じる]ボタンをクリックします。

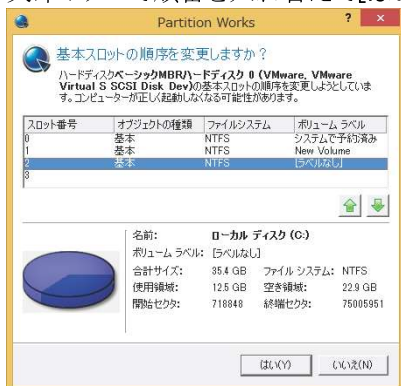
第11章 CD/USB から起動し操作する

10-4 基本スロットの変更

ここでは、基本スロットを変更する方法をご紹介します。パーティションの順番が誤っているときは、この機能を使って修正することができます。

- ※ この操作は MBR ディスクでのみ実行できます。GPT ディスクでは実行できません。
- ※ 変更によって OS が起動しなくなる可能性がありますので、操作には十分にご注意ください。

- (1) LB パーティションワークス 15 を起動します。変更したいハードディスクを右クリックして、**[基本スロットの変更]**を選択します。
- (2) 矢印ボタンで順番を入れ替えて**[はい]**をクリックします。



- (3) 変更後の結果を確認し、処理を実行する場合には、画面上の**[適用]**ボタンを押して確認画面で**[はい]**をクリックします。



- (4) 処理が実行されます。終了したら**[閉じる]**ボタンをクリックします。

第11章 CD/USB から起動し操作する

LB パーティションワークス 15 は作成した起動メディア(CD/USB メモリ)から起動して、パーティション操作/バックアップ/復元/コピーを実行することも可能です。

※ 起動メディアの作成手順については、「第3章 起動 CD の作成と動作確認」を参照してください。

11-1 Windows PE 版の起動メディアの特長、注意点

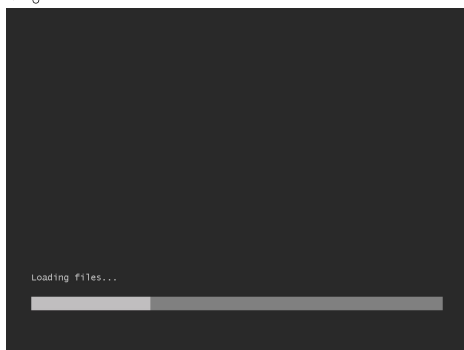
Windows PE 版の CD/USB から起動すると、ハードウェアに依存しない環境で製品の機能が実行できます。DOS や Linux ベースの OS を使用していると、ご使用のハードウェアによっては使用できないケースもありますが、Windows PE 環境ではドライバの追加やネットワークの設定を行うことができます。

- ハードディスクの認識順序が Windows 上とは異なるため、外付けのハードディスクが 1 番目のハードディスクとして表示される場合があります。
- ドライブ文字(C:など)が Windows 上とは異なる場合があります。
- ネットワークへのアクセス方法が Windows 上とは異なります。詳細は『11-4 ネットワークドライブへのアクセス方法』をご参照ください。
- 起動メディアで起動した時には、インストールした場合と比べて以下の制限事項があります。
 - 電子メールによる通知機能が使用できません
 - 電子メールによるログ送信機能が使用できません。
- 起動メディアで起動した場合には、72 時間以上使用することができません。起動させ続けると、72 時間後に自動的に再起動されます。

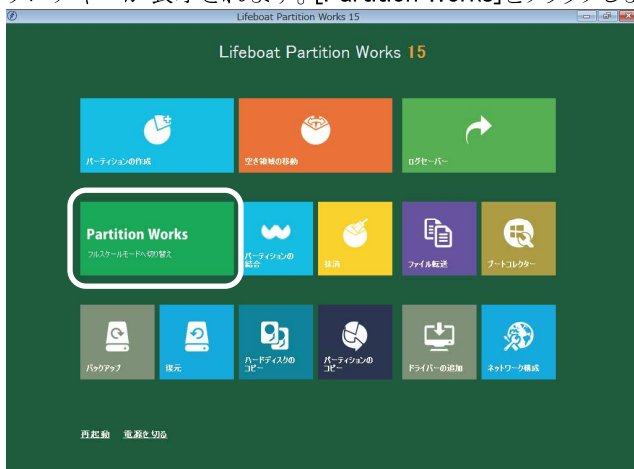
第11章 CD/USB から起動し操作する

11-2 起動メディアでパーティション操作を実行する

- (1) WindowsPE 版の起動メディア (CD/USB) をセットして、PC を再起動 (起動) します。メディアからブートされ、以下のような画面が表示されます。画面は、起動メディアを作成した環境によって異なります。詳細は、『3-1 作成した起動メディア CD の動作確認』をご確認ください。

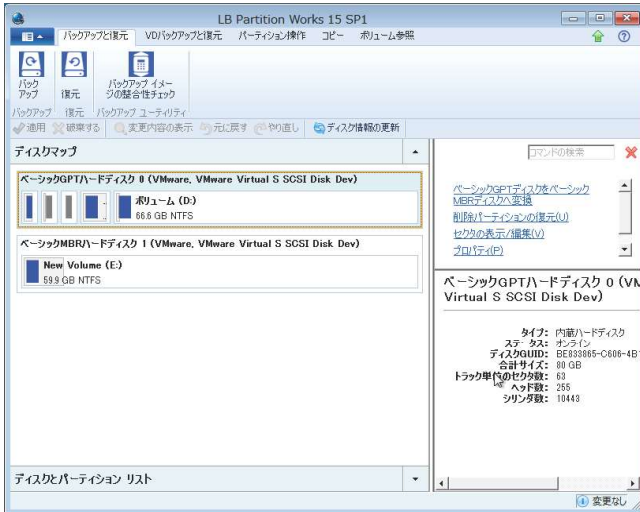


- (2) ランチャーが表示されます。[Partition Works] をクリックします。

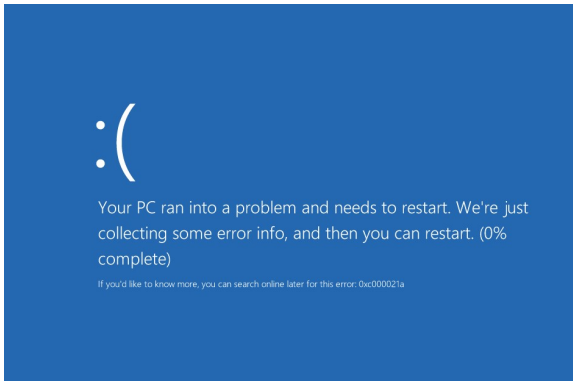


LB パーティションワークス 15 利用ガイド

(1) LB パーティションワークス 15 が起動します。



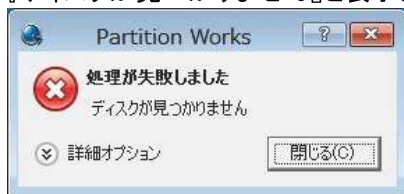
※ 以下の画面が表示された場合



このメッセージは、起動 CD を日本語ユーザーアカウントの環境で作成した時に発生するエラーです。半角英数字のアカウントで作成しておってください。

第11章 CD/USB から起動し操作する

※『ディスクが見つかりません』と表示された場合



このメッセージは、主に SCSI、RAID、最新のチップセットなどが搭載されている機種で、ご利用のハードディスク コントローラが、Windows PE に標準で組み込まれているドライバで対応できない場合に表示されます。必要なドライバファイルを手入れ後に、『11-3 サードパーティ製ドライバの追加方法』の手順でドライバを追加してください。

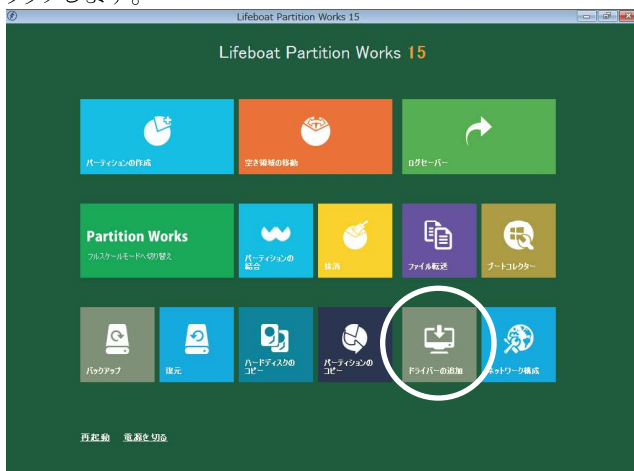
※ 操作前に、必ずディスクのエラーチェックを実行してください。詳細は『4-1 エラーチェックの実行』を参照してください。

11-3 サードパーティ製ドライバの追加方法

起動メディア (CD/USB メモリ) から起動時に標準で認識されないサードパーティ製の RAID、SCSI ドライバやネットワークドライバを読み込んで認識させることができます。メディアから起動後、ハードディスクが参照できない (正しく認識されない)、ネットワークにアクセスできない場合には、以下の手順を参照してください。事前にフロッピーディスクや USB メモリなどにドライバを保存してください。なお、ドライバを組み込んだ起動 CD を作成することも可能です。手順は、「3-6 ブート メディア ビルダーで起動 CD を作成する」を参照してください。

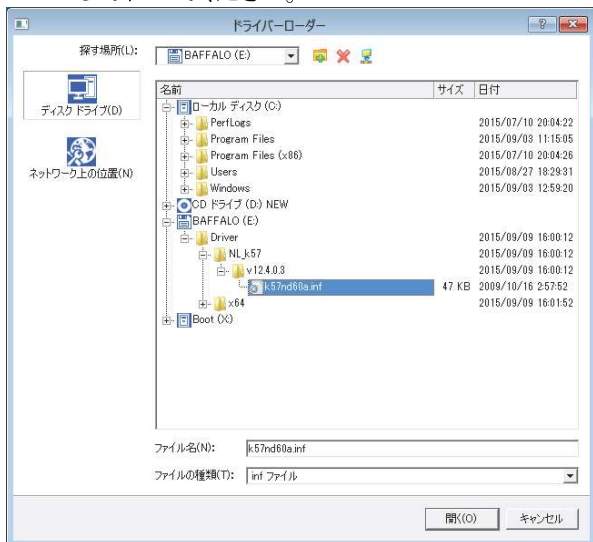
- ※ サードパーティ製ドライバの入手方法については、ハードメーカーにお問い合わせください。
- ※ ご利用の環境に応じたドライバを用意してください。起動 CD を作成した PC が 32 ビットの場合は 32 ビット用が、64 ビットの場合は 64 ビット用のドライバが必要です。
- ※ 起動 CD の作成に Windows ADK を使用した場合は Windows 8/10 用を、Windows AIK を使用した場合は Windows 7/Vista 用のドライバを用意してください。

- (1) メディアから起動後に表示されるメニューから[ドライバーの追加]をクリックします。



第11章 CD/USB から起動し操作する

- (2) 以下の画面が表示されるので、ドライバファイルを選択して[開く]をクリックします。ドライバファイルは事前に、フロッピーや USB メモリ等にコピーしておいてください。



- (3) 読み込みが完了すると以下の画面が表示されます。続けてドライバを読み込む場合には[はい]を、メニューに戻る場合には、[いいえ]を選択します。

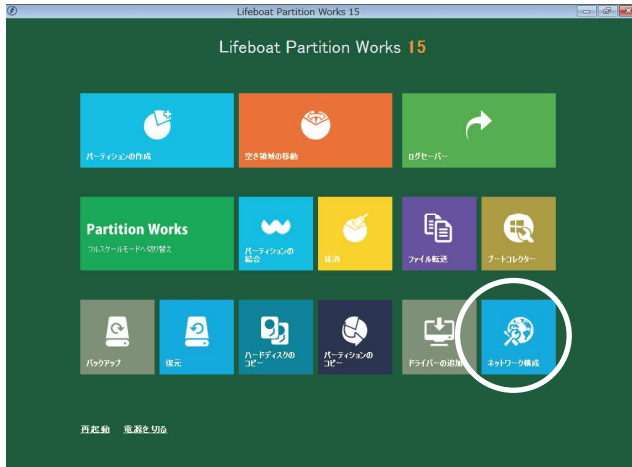


- (4) LB パーティションワークス 15 を起動してハードディスクが正しく認識されているのか確認してください。ネットワークドライバを追加した場合には、次項を参考に、ネットワークドライブにアクセスできるのか確認してください。

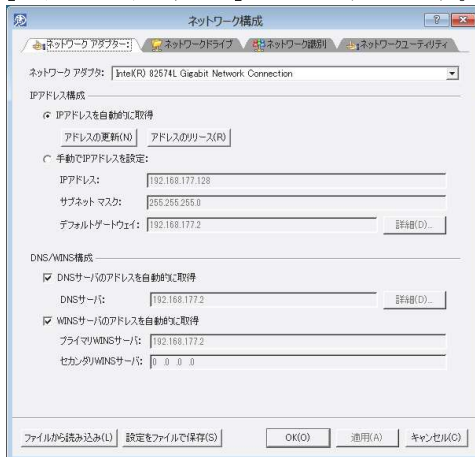
11-4 ネットワークドライブへのアクセス方法

起動メディア (CD/USB メモリ) から起動時にネットワークにアクセスする必要がある場合は、以下の手順を実行します。

- (1) メディアから起動し、メニューから[ネットワーク構成]をクリックします。



- (2) [ネットワークドライブ]タブをクリックします。



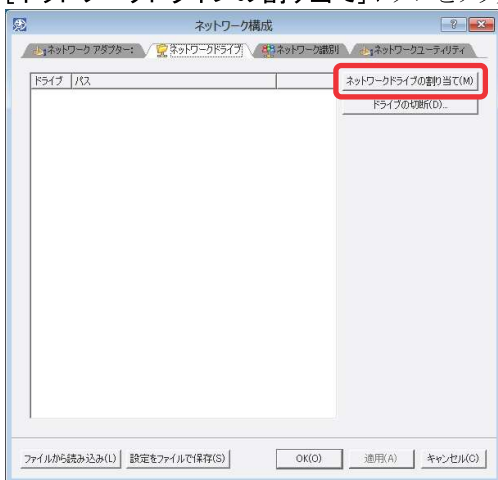
※ DHCP サーバがない環境の場合には、Windows 上のネットワーク設定を参考に IP アドレス等の項目を設定してください。

第11章 CD/USB から起動し操作する

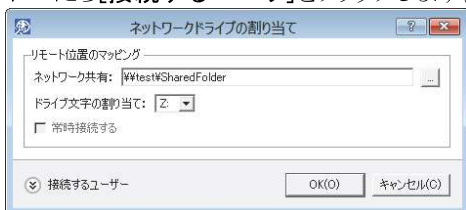
- ※ ネットワーク アダプタが正しく認識されていない場合は、以下の画面が表示されます。『11-3』を参考にネットワークドライバを追加してください。



- (3) [ネットワークドライブの割り当て]ボタンをクリックします。



- (4) 「ネットワーク共有」の欄にドライブに割り当てるフォルダのパス名を入力します。例えば、マシン名が、**FileServer** で、共有フォルダ名が、**Shared** の場合には、**¥¥FileServer¥Shared** と入力します。入力が終わったら[接続するユーザ]をクリックします。





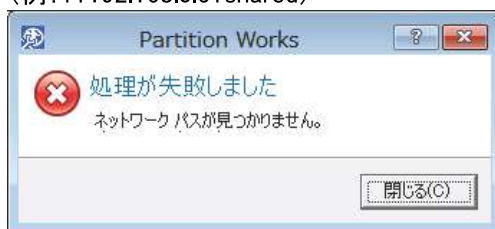
ボタンをクリックしてもネットワークを参照することはできません。クリックすると、ネットワークドライブの割り当てができなくなります。クリックしてしまった場合には、再度 CD 起動からやり直してください

- (5) ネットワークドライブへのアクセスに必要なユーザ名とパスワードを入力します。ユーザ名とパスワードが不要な場合には、接続するユーザに **guest** と入力してください。入力が完了したら、[OK]ボタンをクリックします。



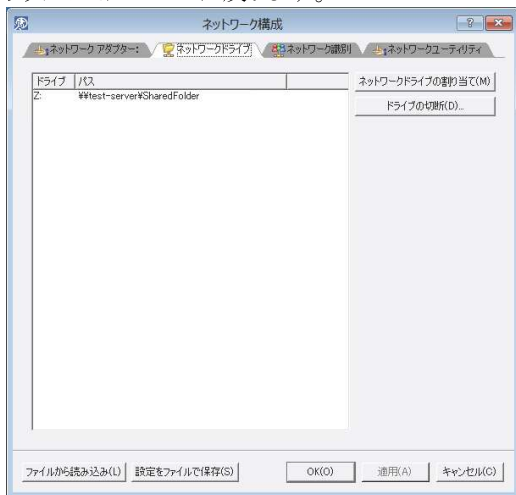
※ 以下のエラーが発生した場合には、マシン名の箇所を IP アドレスに置き換えて処理をお試しください。

(例: \\¥¥192.168.0.5¥¥shared)



第11章 CD/USB から起動し操作する

- (6) 処理が完了するとネットワーク構成の画面に戻ります。[OK]ボタンをクリックしてメニューに戻ります。



- (7) ファイル転送ウィザードなどを使用して、ネットワークドライブが参照できるのか確認します。

第12章 その他の操作

12-1 ブートコレクタ

パーティション操作後やコピー/復元先のハードディスクから OS が起動できない場合には、ケーブルの接続、ジャンパピン、BIOS の設定が正しいかご確認ください。それでも起動できない場合には、起動メディア (CD/USB メモリ) から起動して[ブートコレクタ]で下記修正をお試しください。

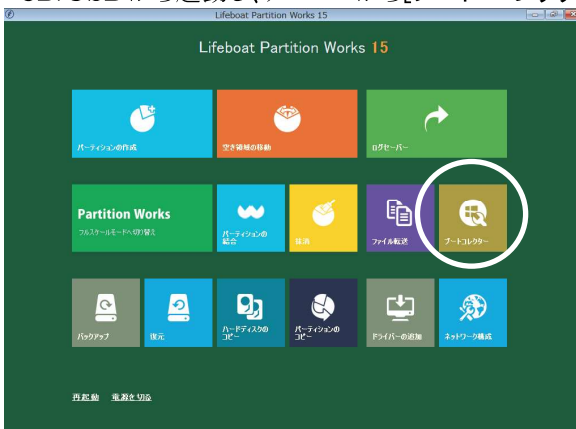
1. EFI ブートパラメータの修正(GPT ディスクのみ)
2. ドライブ文字の確認、修正
3. MBR(マスターブートレコード)の更新(MBR ディスクのみ)
4. ブート パラメータ(boot.ini、BCD)の修正

1. EFI ブートパラメータの修正

GPT ディスクをコピー/復元後に、コピー先/復元先のディスクから起動できない場合は、まずこの操作を行って起動できるかご確認ください。

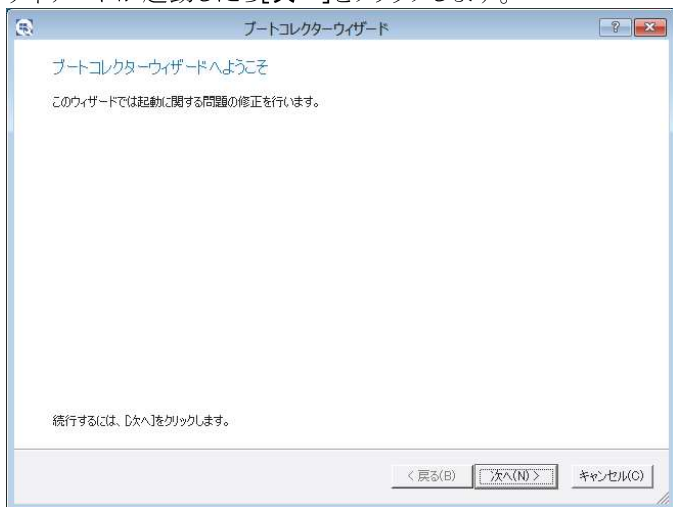
※ MBR ディスクをご利用の場合は、この操作は実行できません。また、32ビット版の PC で起動メディアを作成した場合、このメニューは表示されません。

- (1) CD/USB から起動し、メニューから[ブート コレクタ]を選択します。

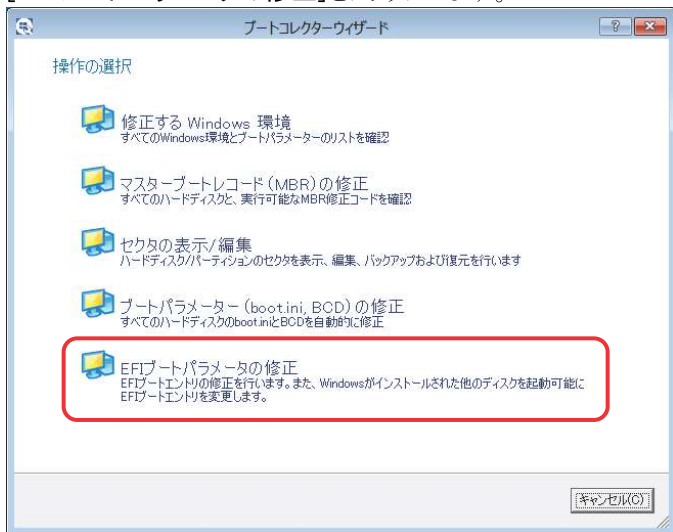


第12章 その他の操作

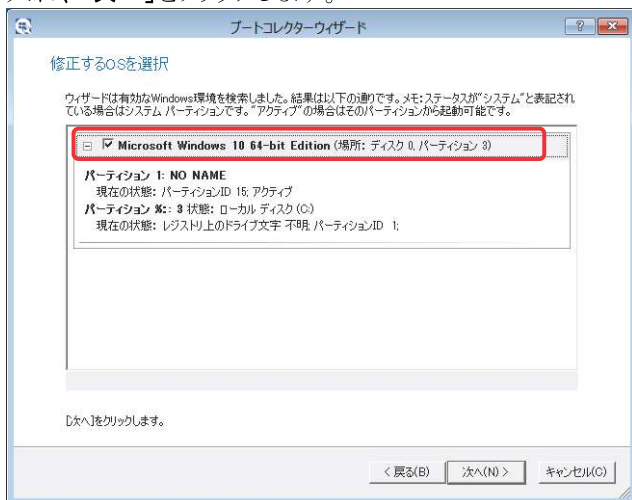
- (2) ウィザードが起動したら**[次へ]**をクリックします。



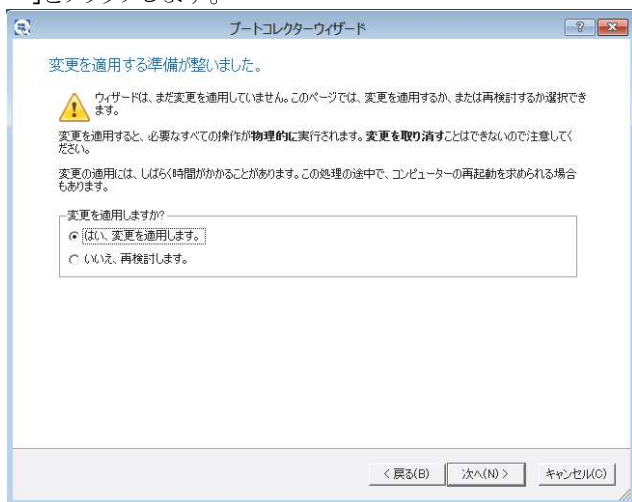
- (3) **[EFI ブートパラメータの修正]**をクリックします。



- (4) インストールされた OS が検出されます。修正したい OS にチェックを入れ、「次へ」をクリックします。

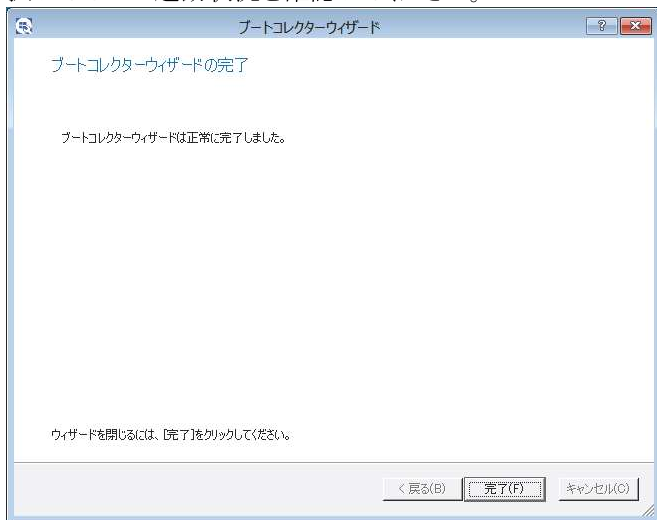


- (5) 確認画面が表示されます。[はい、変更を適用します]を選択し、[次へ]をクリックします。



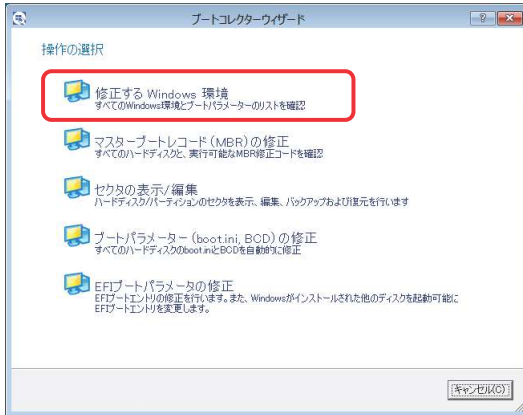
第12章 その他の操作

- (6) 完了画面が表示されます。CD を取り出し、メニューから[再起動]を選択して OS の起動状況を確認してください。

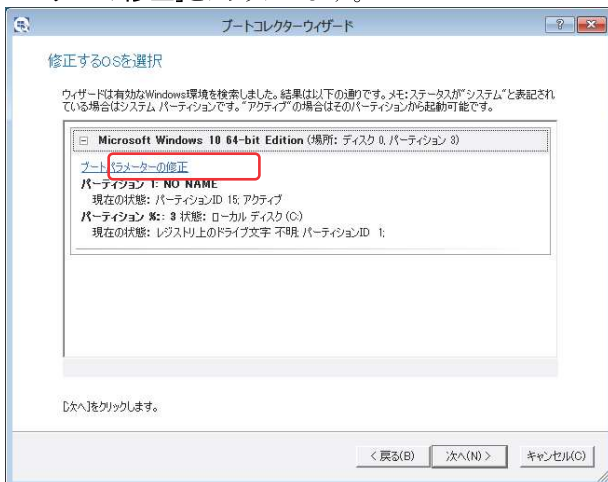


2. ドライブ文字の確認、修正

- (1) CD/USB から起動し、メニューから[ブート コレクタ]を選択します。ブート コレクタが起動したら[次へ]をクリックします。
- (2) [修正する Windows 環境]をクリックします。

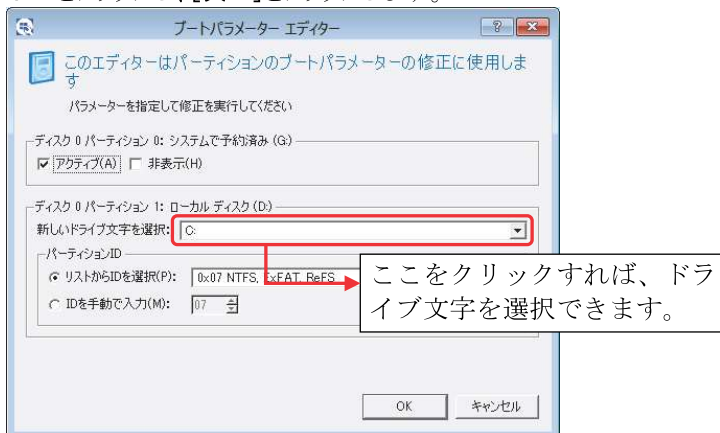


- (3) OS がインストールされたドライブの情報が表示されます。[ブートパラメーターの修正]をクリックします。

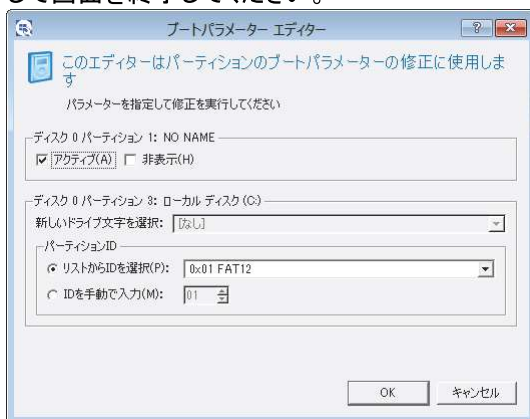


第12章 その他の操作

- (4) [ブートパラメータ エディター]が表示されます。システムドライブに C: 以外の文字が割り当てられている場合はここで修正できます。修正後、OK をクリックし、[次へ]をクリックします。



- ※ C: が割り当てられていれば、この後の操作は不要です。[キャンセル]をクリックして画面を終了してください。PC によっては、標準で C: 以外のドライブ文字が割り当てられている場合がありますが、ここでは、C: が割り当てられていることを前提にしています。以下のようにドライブ文字が[なし]と表示されている場合も、[キャンセル]をクリックして画面を終了してください。



- (5) 確認画面が表示されます。[はい、変更を適用します]を選択し、[次へ]をクリックします。



- (6) 完了の画面が表示されたら[完了]をクリックします。CD を取り出し、メニューから[再起動]を選択して、OS の起動状況を確認してください。

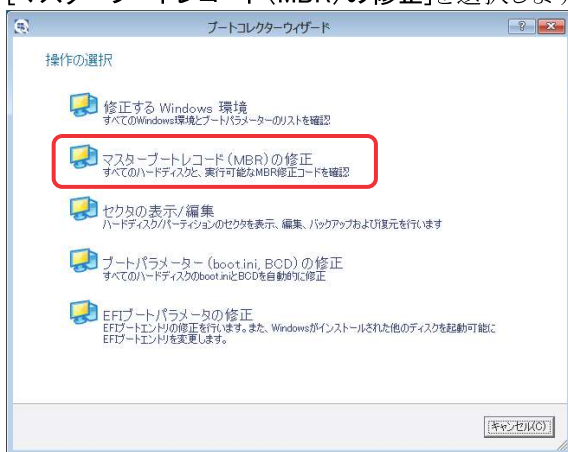
第12章 その他の操作

3. MBR(マスターブートレコード)の更新

※ この操作は、GPT ディスクに対しては実行できません。

(1) CD/USB から起動し、メニューから[ブート コレクタ]を選択します。ブート コレクタが起動したら[次へ]をクリックします。

(2) [マスターブートレコード(MBR)の修正]を選択します。



LB パーティションワークス 15 利用ガイド

- (3) マスターブートレコードを修正するハードディスクを選択し、[次へ]をクリックします。

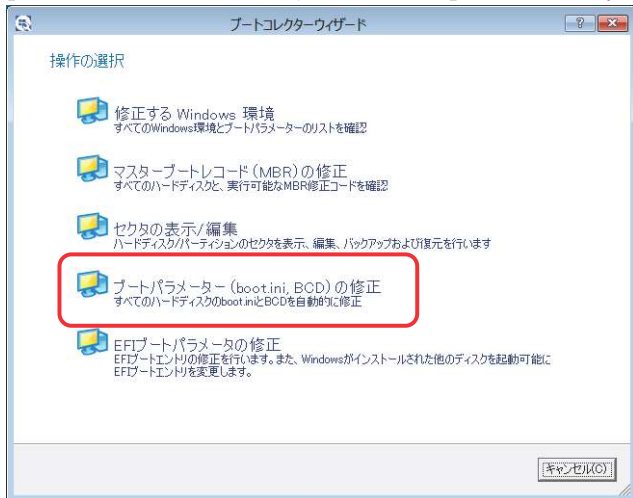


- (4) 確認画面が表示されるので、[はい、変更を適用します]を選択し、[次へ]をクリックします。
- (5) 完了画面が表示されます。[完了]をクリックして、メニューに戻ります。
- (6) CD を取り出し、メニューから[再起動]を選択して OS の起動状況を確認してください。

第12章 その他の操作

4. ブート パラメータ(boot.ini、BCD)の修正

- (1) CD/USB から起動し、メニューから[ブート コレクタ]を選択します。ブート コレクタが起動したら[次へ]をクリックします。
- (2) [ブート パラメータ(boot.ini、BCD)の修正]を選択します。



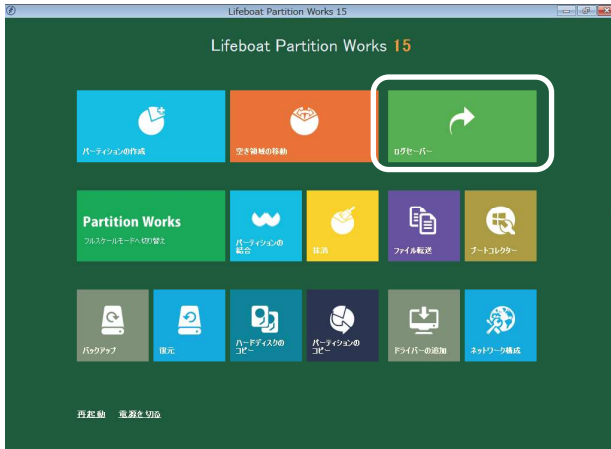
- (3) 確認画面が表示されるので、[はい、変更を適用します]を選択し、[次へ]をクリックします。
- (4) 完了画面が表示されます。[完了]をクリックして、メニューに戻ります。
- (5) CD を取り出し、メニューから[再起動]を選択して OS の起動状況を確認してください。

12-2 ログの取得方法

製品を使用して問題が発生した場合には、ログファイルの取得をお願いするケースがございます。ここでは、参考までにログファイルの取得方法をご紹介します。

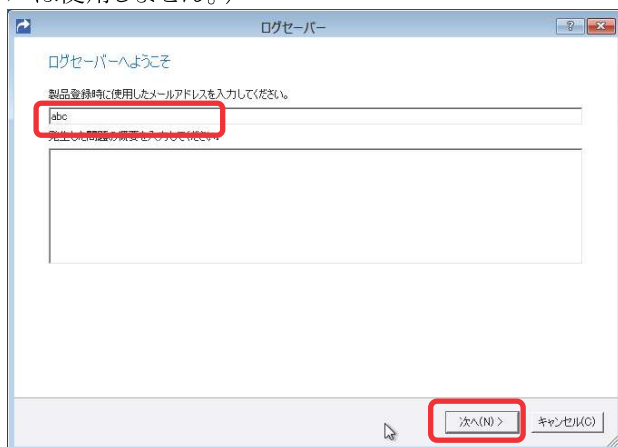
※ メディアブート時のログを取得したい場合、必ず操作直後の、再起動前に実行してください。(再起動するとログは消えます。)または、CD/USB から起動し、問題の発生したときと同じ操作を実行してください。同じ操作を行えない場合でもメイン画面を1度起動してから、ログを取得してください。

(1) メニューから[ログセーバー]を選択します。

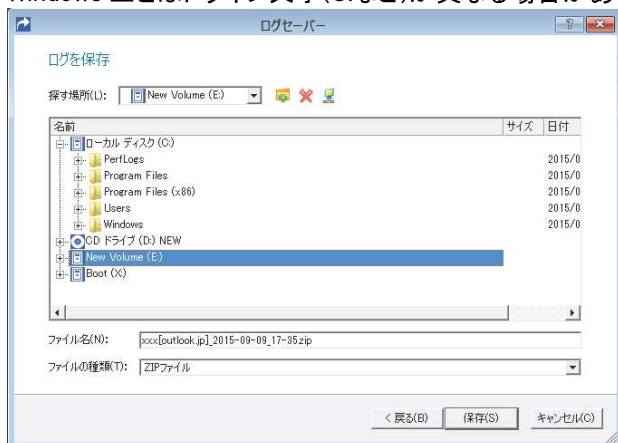


第12章 その他の操作

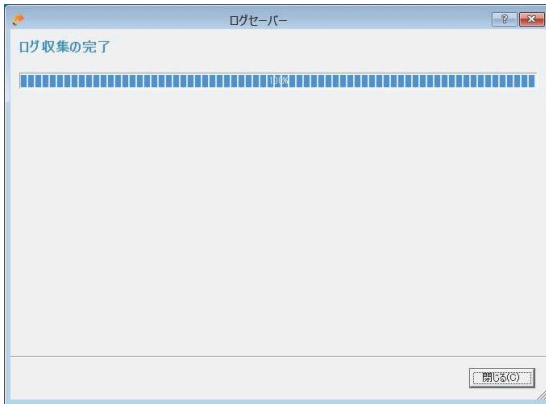
- (2) ログセーバーが起動します。入力欄に文字を入力すると「次へ」をクリックできるようになります。(メールアドレスをご入力いただいても、メールは使用しません。)



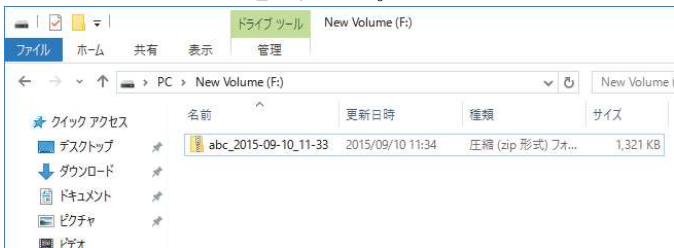
- (3) ログの保存先を選択して、[保存]をクリックします。
※ Windows 上とはドライブ文字(C:など)が異なる場合があります。



- (4) 完了後、[閉じる]をクリックして画面を閉じます。メディア起動の場合は、このあとメニューから再起動を選択し、Windows を起動してください。



- (5) ログの保存先を確認します。作成されたファイルをメールに添付してサポートセンターにお送りください。



使用許諾契約書

当製品をご使用前に、下記のライセンス契約書を必ずお読みください。本使用許諾契約書（以下「本契約」といいます）は、下記に示されたライフポート ソフトウェア製品（以下「ソフトウェア製品」といいます）に関してお客様（以下「甲」といいます）と株式会社ライフポート（以下「乙」といいます）との間に締結される契約書です。ソフトウェア製品をインストール、複製、または使用することによって、お客様は本契約の条項に同意し、契約が成立したものとします。本契約の条項に同意されない場合、株式会社ライフポートは、お客様にソフトウェア製品のインストール、使用または複製のいずれも許諾することができませんので、予めご了承ください。

第1条 定義

1. ソフトウェア製品

本契約に基づき、乙が甲に提供するプログラムおよび関連資料を包括していい、改良版のソフトウェア製品が提供された場合には、当該改良版のソフトウェア製品をいう。

2. プログラム

機械読取可能な形式で提供されるデータ処理プログラムをいう。

3. 関連資料

プログラム以外の資料で、乙がプログラムの使用に関連して提供する、乙指定の資料をいう。

第2条 契約の目的

乙は甲に対しソフトウェア製品を非独占的に使用する譲渡不能な権利を許諾する。

第3条 契約期間

本契約は、本契約成立時から、甲または乙が本契約に従い解約するまで存続する。

第4条 使用権

1. 甲は、プログラムを1ライセンスに付き1台のコンピュータで使うことができる。また、印刷物の形で提供されたソフトウェア製品を本契約の目的に従って使うことができる。
2. 甲は、本契約に基づく使用権につき再使用権を設定し、またはソフトウェア製品もしくはその複製物を第三者に譲渡、転貸もしくは占有の移転をしてはならない。ただし、甲の管理の下で甲のためにソフトウェア製品を第三者に使用させる場合はこの限りでなく、甲の使用とみなすものとする。
3. 甲がマルチライセンスパックを購入した場合、本契約以外の書面（パッケージ等）において指定される許諾数だけのコンピュータにインストールできる。

第5条 複製権

甲は、ソフトウェア製品の一部または全部をバックアップコピー作成のためにのみ、複製及び複写することができる。甲は上記の目的以外のために、ソフトウェア製品の一部または全部を、メディアを問わず、転写、複製または複写してはならない。

第6条 危険負担

納入前に生じたソフトウェア製品および記録媒体の喪失または損傷は、甲の責に帰すべきものを除き乙の負担とし、納入以後に生じたこれらの損害は乙の責に帰すべきものを除き甲の負担とする。

第7条 保証

1. ソフトウェア製品の媒体及び関連資料に、物理的欠陥がある場合、甲がソフトウェア製品を購入してから90日間に限り、無償で乙より交換を受けることができる。
2. 乙は、ソフトウェア製品が甲の特定の使用目的に適合することを保証するものではない。また、前項において明示する場合を除き、本ソフトウェア及びサポートサービスに関して一切の保証を行わないものとする。
3. 前各項の定めは、本契約に基づく法律上の瑕疵担保責任を含む、乙の保証責任のすべてを指定したものとする。

第8条 乙の責任および責任の制限

1. プログラムの不稼働を含む稼働不良のすべての場合において、乙の責任は誤りの訂正に合理的な努力を尽すことに限られるものとする。
2. 法律上の請求の原因の種類を問わず、乙は、法律上許容される最大限において、本ソフトウェア製品の使用もしくは使用不能、サポートサービスの提供もしくは提供不能またはその他本契約書に関して生じる特別損害、付随的損害、間接損害、派生的損害、またはその他の一切の

損害（逸失利益、機密情報もしくはその他の情報の喪失、事業の中断、人身傷害、プライバシーの喪失、誠実義務または合理的な注意義務を含めた義務の不履行、過失、またはその他の金銭的損失を含むがこれらに限定されない）に関しては、乙の過誤、不法行為（過失を含む）、無過失責任、契約違反または保証違反の場合であっても、一切責任を負わないものとする。たとえば、乙がこのような損害の可能性について知らされていた場合でも同様である。

3. 本ソフトウェア又はサポートサービスに起因して、甲、もしくはその他の第三者に生じた結果的損害、付随的損害及び逸失利益に関して、乙は一切の責任を負わないものとする。本契約のもとの理由の如何を問わず、乙が甲、又はその他の第三者に対して負担する責任の総額は、損害の原因となった本ソフトウェアに対して本契約のもとで甲が実際に乙へ支払った対価の100%を上限とする。

第9条 著作権等の侵害に関する損害賠償責任

1. ソフトウェア製品の使用が、第三者の著作権または工業所有権等の知的所有権を侵害したという理由で、甲が第三者より請求を受けた場合には、甲が次の各号所定のすべての要件を満たす場合には、乙の責任と費用負担で、当該請求を処理解決するものとし、甲に一切の損害を及ぼさないものとする。
 - (1) 甲が第三者から請求を受けた日から速やかに、乙に対し請求の事実および内容を通知すること。
 - (2) 甲が第三者との交渉または訴訟の遂行に関し、乙に実質的な参加の機会および決定の権限を与え、ならびに必要な援助をすること。
2. 乙は、甲が次の各号の一に該当する場合には、甲に対し前項所定の責任を負わない。
 - (1) 甲が乙提供以外のプログラムと組み合わせで使用したことに起因するとき。

- (2) 甲が本契約に違反してソフトウェア製品を使用したことに起因するとき。

第10条 ソフトウェア製品の変更または改作

甲は、自己の使用のため、「乙の許可なく」ソフトウェア製品を変更、または改作してはならない。

第11条 解約および解除

1. 甲は、乙に30日前の書面による通知をして、乙の了解を得た場合、本契約を解約することができる。
2. 甲または乙は、相手方に次の各号に掲げる事由のが生じたときには、なんらの催告なしに直ちに本契約を解除することができる。
 - (1) 支払いの停止または破産、和議開始、会社更生手続開始、会社整理開始もしくは特別清算開始の申立があったとき。
 - (2) 手形交換所の停止処分を受けたとき。
3. 甲または乙は、本契約に違反すること等相手方の債務不履行が相当期間を定めてした催告後も是正されないときは、本契約を解除することができる。

4. 前各項の適用によりソフトウェア製品の使用权が消滅した場合には、甲は返還または破棄の手続きを行うものとする。

第12条 ソフトウェア製品の返還または破棄

1. 甲は、使用权の消滅後2週間以内にソフトウェア製品およびすべての複製物（変更または改作されたものを含む）を、乙に返還または破棄するものとする。
2. 甲は、前項による返還または破棄と同時に、前項所定の事実を証明する書類を乙に提出する。

第13条 合意管轄

本契約に関し訴訟の必要が生じた場合には、乙本店所在地を管轄する裁判所を専属管轄裁判所とする。

第14条 協議

本契約に関して疑義が生じた場合には、両当事者は信義誠実の原則に従い協議するものとする。

LB パーティションワークス 15 SP1 利用ガイド

2015 年 9 月 18 日

第 3 版 第 1 刷発行

(非売品)

著作 株式会社ライフポート

発行所 株式会社ライフポート

東京都千代田区神田神保町 2-2-34

©2013 株式会社ライフポート

Printed in Japan 落丁、乱丁はお取替えいたします。